

第3次長久手市子ども読書活動推進計画

- 本に親しみ、本を楽しみ、読みつなぐ -

長久手市

はじめに

長久手市は、子どもたちが人生をよりよく生きるうえで読書は欠かすことができない大切なものと考え、平成24年度に「長久手市子ども読書活動推進計画」を策定し、その5年後に第2次計画を策定しました。

近頃、スマートフォンやインターネット等のメディアの進展・普及や、社会状況の変化などにより、子どもたちの生活環境が多様化し、読書時間が減少していると言われていたため、読書の大切さを改めて考え直す必要があります。

読書をすることで、知識を得ることの他、考える力や表現する力を育むことができます。また、情報通信技術の普及により多くの情報が飛び交う中、自分自身で何が正しいかを判断し、必要な情報を集める能力も必要となってきます。これらの能力を育成するためには、幼いときから本に触れることを習慣化させることが大切です。幼い頃の、家庭で家族に絵本を読み聞かせてもらう経験は、周りからの愛情を感じることができ、豊かな人間性を養うことができます。

子どもたちが幼いときから本に触れ、読書の楽しさを知り、本を読む機会が増えるように、中央図書館のみならず学校や公的機関、各種団体、地域、そして家庭が、この「第3次長久手市子ども読書活動推進計画」を活用しながら、子どもたちを良き読書人へと導いていただくことを願います。

おわりに、本計画の策定にあたり、多大なご尽力を賜った計画策定委員の皆様、アンケートやワークショップ等にご協力いただいた市民、ボランティア等の皆様に、お礼申し上げます。

長久手市教育委員会 教育長 大澤 孝明

目 次

はじめに

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1 計画策定の経緯.....	1
2 計画の目的.....	1
3 計画の位置づけ.....	2
4 計画の対象.....	2
5 計画の期間.....	2
6 計画の目標.....	2
第2章 第2次計画の主な取組・実績・成果.....	3
基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進...	3
基本目標Ⅱ：子どもの読書環境の整備・充実.....	7
基本目標Ⅲ：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及.....	10
第3章 施策体系.....	12
第4章 家族で読書を楽しむ子どもが増えるための施策.....	14
基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校などにおける取組の充実.....	14
1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進.....	14
2 中央図書館における子どもの読書活動の推進.....	14
3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進と環境整備.....	15
4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進と環境整備.....	15
5 学校における子どもの読書活動の推進と連携体制の強化・充実.....	16
基本目標Ⅱ 子ども読書活動推進支援の一層の充実.....	17
1 中央図書館のサービスの充実.....	17
2 普及活動の充実.....	17
3 各種情報の収集・提供.....	18
第5章 計画の推進.....	19
1 計画の周知.....	19

2	関係機関との連携・協働.....	19
3	計画の実施状況の点検・評価.....	19

資料編

資料1	用語解説.....	20
資料2	ワークショップ概要.....	22
	1回目 基本テーマ:「子どもと読書」家庭や地域でできること....	23
	2回目 基本テーマ:子どもに読書の楽しみを伝えるためには.....	25
	ニュースレター.....	28
資料3	主な施策と取組関係部署一覧.....	32
資料4	第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱.....	34
資料5	第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会委員.....	36
資料6	第3次計画策定の経緯.....	37
資料7	調査報告書.....	38
資料8	子どもの読書活動の推進に関する法律.....	130

◎本文中「*」のマークをつけた用語は、「用語解説」に記載しています。

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の経緯

国は、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、読書を通じて子どもの健やかな成長に資することを目的に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を平成13年に制定しました。そして、同法の第9条第2項で、市町村は、子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならないと規定しました。

これに基づき、国及び愛知県の計画に沿って、本市では「第1次長久手市子ども読書活動推進計画」を平成24年度に策定、第2次計画を平成29年度に策定し、それぞれ5年間の期間で事業を展開してきました。

第3次計画では、第2次計画を継承しつつ、市民アンケート、関係団体ヒアリング、ワークショップなどの結果を踏まえて、より一層、子どもの読書活動を推進するために、「第3次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

2 計画の目的

幼い頃に培った読書経験はその後の人生においても読書活動を継続し、やがて子育て世代となったときに、子どもへの読み聞かせに繋がり、次の世代へ受け継がれていきます。幼いときから子どもの側に本がある環境をつくり、自然と本に親しみ、読書の楽しさを知り、家で読書を楽しむ子どもが増えることを目的とします。そのためには、2つの基本目標を掲げ、読書環境の整備、読書のきっかけづくりや読書活動の習慣化を図ります。そして、中央図書館と関係する機関と連携・協力を深めて、本市の子ども読書活動を推進する基本的な方向性を示し、その施策を総合的に推進します。

3 計画の位置づけ

市の第6次総合計画を背景に、教育大綱の理念に基づき、教育振興基本計画の部門別計画に位置づけます。

4 計画の対象

0歳から18歳までとします。また、保護者等や子どもの読書活動の推進にかかわる団体なども対象とします。

5 計画の期間

令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までのおおむね5年間とします。

6 計画の目標

基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける取組の充実

子どもの読書習慣は、家庭生活や学校生活、地域社会などとの日常的な関わりを通して育まれます。そのため、子どもの身近にいる大人が役割を認識し、子どもの読書の機会の充実を図ることが大切です。関係者がそれぞれの立場から子どもの発達段階に応じて、子どもが自主的に本に親しむことができるように、様々な取組を推進します。

基本目標Ⅱ：子ども読書活動推進支援の一層の充実

子どもが読書の楽しさや喜びを知るためには、発達段階に応じた読書環境が整っていることが重要です。子どもが本を手に取りやすく、いつも身近に本がある読書環境の整備・充実に努めます。また、子どもの読書活動の意義や重要性について、子どもに関わるすべての人々が理解と関心を持つため、中央図書館が主体となり取組みを積極的に進め、子どもの読書活動を広めていきます。

第2章 第2次計画の主な取組・実績・成果

基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

【家庭や地域での子どもの読書活動の推進】

主な取組	主な実績						
<ul style="list-style-type: none">◆乳幼児期における読書活動を支援するため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート*1」などの事業を行う。◆2～3歳向け、3～4歳向け、4～5歳向けのおすすめのブックリストや小学生おすすめ100冊（学年別）を作成、配布する。	<ul style="list-style-type: none">●ボランティアによる読み聞かせや対象者にブックスタートパック(絵本1冊、おすすめ絵本リスト、コットンバッグ)の配付を実施。 <p>【ブックスタートパック配付数】</p> <table><tr><td>令和元年度</td><td>351人</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td>313人</td></tr><tr><td>令和3年度</td><td>301人</td></tr></table>	令和元年度	351人	令和2年度	313人	令和3年度	301人
令和元年度	351人						
令和2年度	313人						
令和3年度	301人						
主な成果	<p>「子どもの読書についてのアンケート（3・4・5歳児の保護者、小学2・4・6年生及び中学2年生）」集計結果より</p> <p>3・4・5歳児の保護者への「初めてお子さんに読み聞かせをした時期はいつですか？」という質問に対して全体では94.2%が1歳になるまでに読み聞かせをしています。「読み聞かせをしたことはない」と回答した人はいませんでした。また、小学2・4・6年生及び中学2年生への「小学生になるまでに家で本を読んでもらったことがありますか？」という質問に対して全体では児童・生徒の約8割は『読んでもらった』と回答しています。</p> <p>また、「よく読んでもらった」と「ときどき読んでもらった」を合わせた割合を順にみていくと、小学2年生では80.0%、小学校4年生では85.4%、小学6年生では83.2%、中学2年生では81.6%となっています。これをみても学年による顕著な相違はみられません。（「資料編 調査報告書」のp49とp65を参照）</p>						
課題	<p>「子どもの読書についてのアンケート（3・4・5歳児の保護者）」集計結果より</p> <p>3・4・5歳児の保護者アンケートの質問8「お子さんと一緒に中央図書館を、どの程度利用していますか？」という質問に対して全体では36.6%の人が「利用しない」と回答しています。アンケートを実施したのは令和3年度でコロナ禍であったため、利用を控えた方もいると思われます。中央図書館では定期的におはなし会を開催しているため、幼いときから家族で絵本と親しむ場となっています。たくさんの方に利用してもらうために令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底していること他、図書館の活動を広報していく必要があります。（「資料編 調査報告書」P56を参照）</p>						

【中央図書館における子どもの読書活動の推進】

主な取組	主な実績						
<p>◆専門的視点で司書が選定した良質な図書の収集を継続して行う。</p> <p>◆子どもたちの関心やニーズに合わせた本のテーマ展示や棚の飾り付けなどの読書環境を作る。</p>	<p>●児童図書を司書が選書し継続して購入した。評価の定まったロングセラーの本等を収集し児童図書資料の全体の質を保った。</p> <p>【児童書貸出冊数】</p> <table border="0"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>123,859冊</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>96,750冊</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>142,848冊</td> </tr> </table> <p>●貸出状況を見て貸出の多いテーマの企画を行ったり、クリスマスなどの季節に応じた企画を行ったりと利用者のニーズを考えて年間を通して企画展示を行った。(令和3年度テーマ展示回数15回)</p>	令和元年度	123,859冊	令和2年度	96,750冊	令和3年度	142,848冊
令和元年度	123,859冊						
令和2年度	96,750冊						
令和3年度	142,848冊						

主な成果 「子どもの読書についてのアンケート(小学2・4・6年生及び中学2年生)」集計結果より

「あなたは読書が好きですか？」の質問に対して全体では、「好き」が46.1%、「どちらかという好き」が32.3%で、両者を合わせた割合は78.4%となっています。児童生徒の8割近くが読書は『好き』と回答しています。(「資料編 調査報告書」P66を参照)

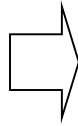
課題 「子どもの読書についてのアンケート(3・4・5歳児の保護者)」集計結果より

質問10「お子さんの本をどのようにして手に入れていますか？」の質問に対して、「買う」が最も多く85.1%で、次いで「中央図書館で借りる」が42.7%となっています。「買う」が多かった要因の一つとして、令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの人が利用する図書館の本を借りることを控えたことと思われます。中央図書館は2番目に多い結果とはなりましたが、もっと多くの方に利用してもらえるよう今後も良質な図書を収集し、周知をします。また本を購入するきっかけが「中央図書館で借りて読んでみて気に入ったから」となるように努めます。(「資料編 調査報告書」P60を参照)

【児童館などにおける子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆中央図書館から団体貸出（児童館）*₂することで、良質な本を提供し、読書のきっかけづくりをする。団体貸出未実施の長久手西児童館、長久手市青少年児童センターへの提供を開始する。



主な実績

●長久手西児童館、長久手市青少年児童センターへ団体貸出を実施した。実施済みの児童館4館も団体貸出（1～2年ごとに200冊）を継続して実施し、全児童館へ実施できた。

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3・4・5歳児の保護者）」集計結果より

質問 10「お子さんの本をどのようにして手に入れていますか？」の質問に対して、「児童館で借りる」は1.4%でした。平成 29 年度に実施したアンケートでは、「児童館で借りる」と回答したのは0.9%であったため、0.5ポイント増加しました。（「資料編 調査報告書」の p 60 を参照）

課題

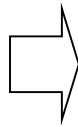
「子どもの読書についてのアンケート（3・4・5歳児の保護者）」集計結果より

質問 11「児童館の図書室をどの程度利用していますか？」に対して、8割の方は「利用しない・知らなかった」と回答しています。児童館の図書室を知ってもらい、利用を増やすための取組が必要です。（「資料編 調査報告書」の p 62 を参照）

【保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆家庭における乳幼児期からの読み聞かせの意義を保護者を始めとする大人が理解し、親子で絵本に親しむため、年齢別のブックリストを各園へ配置する。



主な実績

●年齢別ブックリスト（2～3歳、3～4歳、4～5歳）を配布し、11園に案内した。関係各課へリストの紹介及び利用促進に努めた。

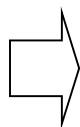
【学校における子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆学校連携司書*₃が、読み聞かせやブックトーク*₄などで、読書の楽しさを伝える。また、子どもの読書相談に応じ、興味や関心のある本を紹介し、学校図書館の貸出冊数の増加を図る。

◆学校図書館でテーマ展示などの企画展示をすることで、読書への興味を高めるきっかけづくりをする。

◆調べ学習用の本を学校図書館と中央図書館から収集し、教職員を支援する。



主な実績

●学校とコミュニケーションを図り読み聞かせやブックトークなど定期的を実施することができた。

【年間の学校図書館の貸出冊数（中学校）】

令和元年度 11,401冊

令和2年度 5,883冊

令和3年度 9,377冊

●各校でテーマ展示を実施し、本を借りるきっかけになっている。

【1校あたりの年間テーマ展示回数（令和3年度）】

小学校 18回

中学校 5回

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（小学2・4・6年生及び中学2年生）」集計結果より

「あなたは1か月にどれくらい本を読みますか？」という質問に対して、前回調査（平成29年度）と比較すると、全体では「10冊以上」が前回の21.8%から今回は26.1%となっており、4.3%ポイント高くなっています。「ほとんど・全く読まない（前回は「ほとんど読まない）」は前回の24.7%から14.4%となっており、10.3%低くなっています。学校連携司書が読み聞かせやブックトーク、テーマ展示などで子どもたちへ本を紹介することが、学校での読書のきっかけづくりとなっていると考えられます。（「資料編 調査報告書」のp69を参照）

課題

同上の「あなたは1か月にどれくらい本を読みますか？」という質問の回答を「あなたは読書が好きですか？」の回答別にみると、本が「好き」と回答した児童・生徒では「10冊以上」が43.4%最も高い一方で、「嫌い」と回答した児童・生徒は「ほとんど・全く読まない」が63.4%と6割以上を占めています。本が好きな子どもと本が嫌いな子どもの差が開いていますので、その差を縮め全体数を高めるために、児童・生徒への効果的な働きかけが重要です。（「資料編 調査報告書」p71参照）

基本目標Ⅱ：子どもの読書環境の整備・充実

【中央図書館のサービスの充実】

主な取組

◆中高生向けの本を収集し、この世代用に特化した書棚をつくる。

◆点字絵本やさわる絵本などを収集し、障がいを持つ子どもや保護者へ提供する。

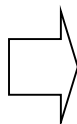
主な実績

●Y・Aコーナー*5を設け、司書が本を収集した。また、Y・Aの中でも「朝読書」「部活」「勉強」などに分類し、中高生が目的別に本を手に取りやすいよう工夫し、貸出冊数の増加に繋がった。

【Y・Aコーナーの貸出冊数】

令和元年度	5,575冊
令和2年度	4,525冊
令和3年度	6,272冊

●図書館ホームページに障がい者向け図書の案内を掲載している。令和4年3月31日時点で点字絵本*674冊、さわる絵本*720冊、布の絵本24冊、LLブック*826冊を所蔵している。点字絵本は図書館ボランティアの協力で随時所蔵を増やしている。



主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（小学2・4・6年生及び中学2年生）」集計結果より

質問10「あなたは、1か月のうち中央図書館へ何回行きますか？」という質問に対して平成29年度に実施したアンケートの回答と比較すると、中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合は、小学2年生（前回は小学1年生）では前回54.1%に対し今回は56.2%で2.1ポイントの増加、同様に小学4年生（前回は小学3年生）では46.3%に対し53.2%で6.9ポイントの増加、小学6年生では26.3%に対し30.3%で4.0ポイントの増加となっており、中央図書館を利用している児童が増えています。

（「資料編 調査報告書」p88参照）

課題

「子どもの読書についてのアンケート（中学2年生）」集計結果より

質問10「あなたは、1か月のうちに中央図書館へ何回行きますか？」という質問に

対して平成 29 年度に実施したアンケートの回答と比較すると、中学 2 年生については、月に 1 回以上中央図書館を利用している割合は、前回は 18.3%に対して今回は 15.6%と 2.7 ポイント低くなっています。また、質問 12「中央図書館にある「Y・A（ヤング・アダルト）コーナー」を知っていますか？また、そのコーナーの本を借りたことはありますか？」という質問に対して、「借りたことがある」は 8.4%で 8 割以上の生徒は「知らなかった」と回答しています。中高生に Y・A コーナーを知ってもらえるように周知していきたいと考えます。（「資料編 調査報告書」の p 91、p 98 を参照）

【児童館の読書環境の整備・充実】

主な取組	主な実績
<ul style="list-style-type: none"> ◆児童館に来館する子どもから保護者までを対象に、おすすめ本の年齢別ブックリストなどを作成し、情報提供する。 ◆児童館図書室の本の配置やレイアウトの調整、新規に購入する本や除籍本の選定に中央図書館が協力する。また、司書が選定した本を中央図書館から児童館へ団体貸出をすることで、図書室の魅力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年齢別ブックリストを設置し、来館者が手に取っている。 ●児童館の職員とヒアリングの上、全児童館の図書室のレイアウトを調整し、除籍本の選定が終了し、定期的に団体貸出の入替え、本の配置など点検調整を行った。

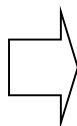
【保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実】

主な取組	主な実績
<ul style="list-style-type: none"> ◆園の図書コーナーの充実化のため、年齢に応じたおすすめ本のブックリストの提供や読み聞かせに適した絵本や地域の民話などを中央図書館から紹介する。 ◆中央図書館の団体貸出カードを発行し、全ての園で活用できるよう周知し、団体貸出を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●モデル園として 7 園中 3 園に団体貸出（毎月 1 園につき 5 冊）を実施した。また、年齢別ブックリストを全園に配布した。 ●19 園中、11 園で団体貸出カードを発行し、団体貸出の利用を促した。

【学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実】

主な取組

- ◆学校図書館の本の配置やレイアウトの調整、本の選定に中央図書館が協力し、環境整備を図ることで、学校図書館が子どもにとって魅力的な居場所となるよう支援、アドバイスをする。
- ◆中央図書館から学級文庫用として学校へ団体貸出*₉をする冊数を増やすことで、良質な本を子どもの身近な場所へ提供し、子どもの読書環境を充実させる。



主な実績

- 学校図書館の本の配置やレイアウトの調整などを定期的実施した。また、学校図書館の新規に購入する本の選定に協力した。
- 中央図書館で学級文庫用の本を新規購入し、定期的に学級文庫の入替えを実施した。

課題

「子どもの読書についてのアンケート（小学2・4・6年生及び中学2年生）」集計結果より

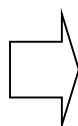
「どこにある本をよく読みますか？」という質問に対して、「自分の家の本」が50.5%でほぼ半数を占めていますが、次いで、「学校の図書館」が27.4%となっています。前回調査（平成29年度）と全体を比較すると、「自分の家の本」が前回は37.3%で13.2ポイント高くなっており、「学校の図書館」が前回は39.4%で12.0ポイント低くなっています。学校の図書館の割合が下がり、その分、自分の家の本の割合が伸びています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で図書館で本を借りることを控えたことが要因の一つとして考えられます。学校の図書館の利用を増加させるため、今後も学校図書館の環境整備を行っていきます。（「資料編 調査報告書」のp 79を参照）

基本目標Ⅲ：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

【普及活動の充実】

主な取組

- ◆読書履歴を残すことで、楽しみながら読書意欲を高めるため、読書手帳*10の普及に努める。
- ◆中央図書館内外での読み聞かせイベントなどを通し、読書の大切さを広めるよう広報に努める。



主な実績

- 市内小学3年生に行う図書館見学にて、中央図書館から読書手帳の配布と案内をしている。
- 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため全てのおはなし会を中止したが、令和3年度は状況を見て徐々に再開した。また、現在カウンターで配布しているブックスタートパックには赤ちゃん向けおすすめリストも同封しており、赤ちゃんからの読書の大切さを啓発している。

【おはなし会実施回数】

令和元年度	76回
令和2年度	0回
令和3年度	7回

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3・4・5歳児の保護者）」集計結果より

質問6-1「お子さんは1か月にどれくらい本に触れますか？」という質問に対して、「1～3冊」が37.3%、「10冊以上」が36.9%と高い割合を示しています。「0冊」は1.0%でした。ほぼ全ての子どもたちが毎月1冊以上の本に触れていることが分かります。（「資料編 調査報告書」のp52を参照）

課題

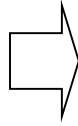
「子どもの読書についてのアンケート（小学2・4・6年生及び中学2年生）」集計結果より

質問11「中央図書館で配布している「読書手帳」に本の題名などを書いていますか？」という質問に対して、「知らない」が7割以上を占めており、「書いている」と回答したのは7.6%となっています。図書館を利用していない子どもや保護者に対して読書手帳について周知し、読書記録を取ることの魅力を広める必要があります。（「資料編 調査報告書」のp94を参照）

【各種情報の収集・提供】

主な取組

◆子どもの読書活動に関連するニュースを提供することで、子どもの読書活動を幅広く推進する。



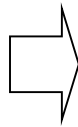
主な実績

●閲覧室等へ随時、子どもの読書に関わるニュースなどの情報を掲示した。

【優れた取組の紹介】

主な取組

◆図書ボランティアなどの活動を紹介、奨励することで図書ボランティア活動の活性化、生きがいづくりにつなげる。



主な実績

●図書館ホームページでボランティアグループの紹介文を掲載している。

【ボランティア登録者数】

令和元年度	82人
令和2年度	90人
令和3年度	97人

基本理念
本に親しみ、本を楽しみ、読みつなぐ

重点施策

目的

基本目標

家族で読書を楽しむ子どもが増える

I 家庭・地域・学校などにおける取組の充実

II 子ども読書活動推進支援の一層の充実

1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進

2 中央図書館における子どもの読書活動の推進

3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進と環境整備

4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進と環境整備

5 学校における子どもの読書活動の推進と連携体制の強化・充実

1 中央図書館のサービスの充実

2 普及活動の充実

3 各種情報の収集・提供

取組

取組のより所

<ul style="list-style-type: none"> (1) 乳幼児期からの読書活動の支援 (2) 家庭読書の支援、家読事業の啓発・推進 (3) 地域の読書活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目 A 班 ・第1回策定委員会
<ul style="list-style-type: none"> (1) 良質な図書収集 (2) 声かけレファレンス (3) 中央図書館がより身近な存在となる事業の企画 (4) 図書ボランティアとの協働 (5) 児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目 A・B 班
<ul style="list-style-type: none"> (1) 中央図書館から児童館などへの図書貸出 (2) 児童館利用者への本の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果
<ul style="list-style-type: none"> (1) 中央図書館から保育園・幼稚園への図書貸出 (2) 保護者などに読書活動の大切さを周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目 A・B 班 ・第2回策定委員会 ・アンケート結果
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校連携司書による読書案内 (2) 授業等での本の活用 (3) 学校連携司書による企画展示 (4) 学校図書館の読書をする環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目 C 班 ・第2回策定委員会 ・アンケート結果
<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達段階に応じた読書環境づくり (2) 中高生向けの図書の充実、読書環境づくり (3) 特別な支援を必要とする子どもへのサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目 C 班 ・第2回策定委員会 ・ヒアリング(児童発達支援センター)
<ul style="list-style-type: none"> (1) 読書手帳の普及 (2) 各施設で読み聞かせイベントなどの実施 (3) 保護者への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1・2回目 ・第2回策定委員会 ・アンケート結果
<ul style="list-style-type: none"> (1) 図書情報などの収集・提供 (2) 館内におすすめ本紹介文(POP)掲示 (3) 図書ボランティアなどの活動を紹介 (4) ホームページを通じた情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回目 A 班 ・ワークショップ2回目 B 班 ・第2回策定委員会

第4章 家族で読書を楽しむ子どもが増えるための施策

基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける取組の充実

1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進

(1) 乳幼児期からの読書活動の支援

乳幼児期に初めて本と出会うきっかけをつくるため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート」などの事業を行います。

(2) 家庭読書の支援、^{うちどく}家読*11 事業の啓発・推進

家庭での読書の機会を増やすため、年齢に応じた本の情報を提供し、本に親しみやすくします。

(3) 地域の読書活動の支援

ボランティアが地域での活動の際に必要な本をボランティア団体へ貸出し、地域の読書活動を支援します。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
ブックスタートパック配布人数 (年間)	301人	320人

2 中央図書館における子どもの読書活動の推進

(1) 良質な図書の収集

専門的視点で司書が選定する良質な図書の収集を継続します。

(2) 声かけレファレンス*12

本をさがしている子ども(保護者含む)へのレファレンスサービスを継続します。

(3) 中央図書館がより身近な存在となる事業の企画

子どもたちの関心やニーズに合わせた本のテーマ展示や飾り付けなどの雰囲気作りをすることで、本への興味を促し、中央図書館がより身近な存在となるように努めます。

(4) 図書ボランティアとの協働

読み聞かせや本の修理などの図書ボランティアを募集・育成・増員し、中央図書館と連携します。

(5) 児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施

定期的におはなし会を開催し、図書館講座を始めとしたイベント等を企画します。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
中央図書館の小学生までの貸出冊数（年間）	142,848冊	150,000冊

3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進と環境整備

(1) 中央図書館から児童館などへの図書貸出

中央図書館と児童館などが協働して団体貸出をすることで、良質な本を提供し、読書のきっかけづくりをします。また、本の選定に中央図書館の司書が協力します。

(2) 児童館利用者への本の紹介

児童館などに来館する子どもから保護者までを対象に、おすすめ本のブックリストなどを作成し、情報提供します。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
団体貸出（児童館など）	14か所	15か所

4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進と環境整備

(1) 中央図書館から保育園・幼稚園への図書貸出

中央図書館からの団体貸出によって園での読みきかせに適した絵本を増やします。

(2) 保護者などに読書活動の大切さを周知

家庭における乳幼児期からの読み聞かせの意義を保護者を始めとする大人が理解し、親子で絵本に親しむため、園児対象の年齢別のブック

リストを配置します。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
団体貸出（保育園・幼稚園）	3園	6園

5 学校における子どもの読書活動の推進と連携体制の強化・充実

(1) 学校連携司書による読書案内

学校連携司書が、読み聞かせやブックトークなどで読書の楽しさを伝えます。また、子どもの読書相談に応じ、興味や関心のある本を紹介します。

(2) 授業等での本の活用

学校連携司書と教職員が連携し、総合的な学習の時間や調べ学習、探求学習など、子どもの自主的、自発的な学習を推進し、学校図書館の利用を促進します。

(3) 学校連携司書による企画展示

学校連携司書が、学校図書館でテーマ展示などの企画展示をすることで、読書への興味を高めるきっかけづくりをします。

(4) 学校図書館の読書をする環境整備

学校図書館の本の配置やレイアウトの調整、本の選定を学校連携司書と司書教諭が協働で取り組み、環境整備を図ることで、学校図書館が子どもにとって魅力的な居場所となるよう雰囲気づくりをします。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
年間の学校図書館の貸出冊数 (小学校)	128,497冊	135,000冊
年間の学校図書館の貸出冊数 (中学校)	9,377冊	10,000冊

基本目標Ⅱ：子ども読書活動推進支援の一層の充実

1 中央図書館のサービスの充実

(1) 子どもの発達段階に応じた読書環境づくり

対象年齢に応じた本の整備を図り、子どもが自ら本を選ぶ楽しさを実感できる棚や、くつろいだ雰囲気的空間づくりをするため、児童書コーナー全体を定期的に点検、調整します。

(2) 中高生向けの図書の充実、読書環境づくり

中高生向けの本を収集し、この世代用に特化した魅力ある書棚を継続します。

(3) 特別な支援を必要とする子どもへのサービス

点字絵本やさわる絵本などを収集し、特別な支援を必要とする子どもや保護者へ提供します。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
中高生向け専用棚の図書貸出冊数 (年間)	6, 272冊	6, 500冊
バリアフリーの図書(児童)の 提供(累計)	144冊	200冊

2 普及活動の充実

(1) 読書手帳の普及

読書履歴を残すことで、楽しみながら読書意欲を高めるため、読書手帳の普及に努めます。

(2) 各施設で読み聞かせイベントなどの実施

読書の大切さを広めるよう「子ども読書の日*13」や「こどもの読書週間*14」などに合わせて読書に関するイベントや企画展示を開催し、広報に努めます。

(3) 保護者への周知

中央図書館を始めとした各施設での読書活動の取組事例を保護者へ広く周知し、子どもの読書の機会を増やします。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
読書手帳の窓口配布数 (年間)	300枚	500枚
おはなし会などの読み聞かせイベント参加者数(年間)	122人	2,000人

3 各種情報の収集・提供

(1) 図書情報などの収集・提供

子どもの読書活動に関連するニュースを提供することで、子どもの読書活動を幅広く推進します。

(2) 館内におすすめ本紹介文（POP）掲示

おすすめ本の紹介文（POP）を掲示し、子どもの読書のきっかけづくりをします。

(3) 図書ボランティアなどの活動を紹介

ホームページなどで図書ボランティアなどの活動を紹介、奨励することで図書ボランティア活動の活性化、生きがいつくりにつなげます。

(4) ホームページを通じた情報発信

ホームページで、本の紹介を始め、各種イベントの開催などの情報提供に努めます。また、子ども向けページの充実を図ります。

指 標	現状値 R3(2021)年度	目標値 R9(2027)年度
中央図書館のホームページで図書ボランティア団体の活動紹介数	7団体	10団体

第5章 計画の推進

1 計画の周知

計画の推進にあたり、子育て中の家庭、学校、ボランティア団体をはじめ多くの関係者の理解と協力が必要なことから、市広報やホームページへの掲載、各種施設等へのアウトリーチ事業を実施して広く周知と理解に努めます。

2 関係機関との連携・協働

子ども読書活動の推進には、関係機関や団体などがその重要性を認識し、相互に連携・協働しながら取組むことが重要です。中央図書館、学校図書館、児童館、保育園等と図書ボランティアなど「子ども」と「読書」に携わる関係者それぞれが各自の役割を果たしていくため、相互の連携を図ります。

3 計画の実施状況の点検・評価

本計画の適切な推進を図るため、学識経験者、社会教育関係者などで組織する図書館運営協議会において、計画の進行管理、評価を行い、結果を公表します。

資料編

用語解説

- * 1 **ブックスタート**
赤ちゃんと保護者が、絵本を介して楽しく心ふれあうひとときを持つことの大切さを伝える事業。
- * 2 **団体貸出（児童館）**
児童館に中央図書館からまとまった量の本を貸出すること。1館当たり500冊までを最長2年間。貸出期間終了ごとに本を入換え。
- * 3 **学校連携司書**
児童生徒への読み聞かせや朝読書、学校図書館の運營業務、教員の調べ学習の補助などを行うために、中央図書館から派遣する会計年度任用職員。
- * 4 **ブックトーク**
一定のテーマを決めて、複数冊の本の内容を工夫を凝らして紹介し、本の面白さや読書意欲を起こさせる活動。
- * 5 **Y・Aコーナー**
中学生・高校生向けの図書を集めたコーナー
- * 6 **点字絵本**
指で点字部分を触れて読むことができる絵本。絵の部分にも図柄を示す点字が施されている。
- * 7 **さわる絵本**
絵本を原本にして、布や皮革、毛糸などの素材を用いて、台紙に貼り付けた絵本。指でさわって読むことができる絵本。
- * 8 **LLブック**
誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた「やさしく読みやすい本」のこと。外国にルーツのある方や、知的障がいのある方、高齢者をはじめ「やさしく読みやすい本」を必要としているすべての方を対象としている。
- * 9 **団体貸出（学校）**
小学校に中央図書館からまとまった量の本を貸出すること。1学年当たり500冊までを最長2年間。

*10 読書手帳

本を借りた日、本の名前、本を書いた人などを記入することができる読書記録用の手帳。

*11 家読

「家庭読書」の略語で、家族みんなで読書をすることで読書の習慣を共有すること。

*12 レファレンス

利用者からの図書資料に関する問合せや、調査・研究に必要な図書資料を提供すること。

*13 子ども読書の日

4月23日。子どもの読書活動について理解と関心を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行えるよう、平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」第10条により定められた。

*14 こどもの読書週間

4月23日から5月12日まで。公益社団法人 読書推進運動協議会が昭和34年から始めた子どもの読書推進事業。

ワークショップ概要

市民の意見を広範に集めるため、ワークショップの参加者を、「市民主体の計画づくり」応募者への案内やホームページ、館内掲示で公募し、テーマ別に2回開催した。

1 対象

18歳以上の市内在住・在勤・在学者

2 開催日時

1回目 令和4年6月26日（日）10：00～12：00

2回目 令和4年7月17日（日）10：00～12：00

3 場所

中央図書館 AVルーム

4 テーマ

下記の個別テーマごとに班に分かれて、意見を出し合った。

1回目 基本テーマ：「子どもと読書」家庭や地域でできること

個別テーマ

A班：子どもと本をつなぐには
～子どもの周りの年長者ができることってなんだろう～

B班：施設で本と親しむには
～本との出会いが楽しくなるにはどんな工夫ができるだろう～

2回目 基本テーマ：子どもに読書の楽しさを伝えるためには

個別テーマ

A班：図書館の楽しさを広めるためには
～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～
就園（3歳まで）の子どもにできること

B班：図書館の楽しさを広めるためには
～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～
就学期前後の子どもにできること

C班：タブレットによる調べ学習時代で本による調べ学習の意義は？
～手間をかける調べ学習は子どもに何を与えるだろう～

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定のための

第1回ワークショップ グループワーク結果(A班)

■実施概要

基本テーマ	「子どもと読書」家庭や地域でできること
個別テーマ	A班:子どもと本をつなぐには ～子どもの周りの年長者ができることってなんだろう～
日時	令和4年6月26日(日) 10:00～12:00
場所	中央図書館 AVルーム
参加者	6人

■意見一覧

できそうなこと やってみたいこと	<p>長久手にある施設で、身近におはなし会が開催できたらいいのでは？</p> <p>親子で楽しむおはなし会</p> <p>いろんな刺激があるなかでどのように本に目を向かせるか</p> <p>スマホとの兼ね合い</p> <p>スマホより本を読む楽しみを子どもの身近な人に伝えてもらう</p> <p>本の紹介</p> <p>子どもの自主的な読書を促す 子ども司書</p> <p>学生ボランティアも含めイベント企画</p> <p>長久手に古くから住んでいる方から子どもへ郷土知識を伝える</p>
実行するためには	<p>本をプレゼントする</p> <p>定期的なおはなし会の開催</p> <p>本の紹介コーナーを作る 掲示板の設置</p> <p>子ども同士・親が参加できる 場所と時間を提供する</p> <p>子育てボランティアとのコラボ</p> <p>子どもと大学生をつなぐ、コラボ</p> <p>上級生から下級生へおすすめの本を伝える</p> <p>本の案内ができる人がそばにいること</p> <p>スマホやタブレットが普及しているなか、本が大切であることを伝える</p> <p>スマホ・タブレットと本の特徴やメリット・デメリットを伝える</p> <p>移動図書館</p> <p>図書館の活動や施設情報があるといい</p> <p>市の地域の施設を利用して本と触れあう機会が増えると良い</p>

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定のための

第1回ワークショップ グループワーク結果(B班)

■実施概要

基本テーマ	「子どもと読書」家庭や地域でできること
個別テーマ	B班:施設で本と親しむには ～本との出会いが楽しくなるにはどんな工夫ができるだろう～
日時	令和4年6月26日(日) 10:00～12:00
場所	中央図書館 AVルーム
参加者	6人

■意見一覧

親世代の意識改革	親世代の読書改革 子だけではなく保護者にも本の楽しみを知ってもらう講座・イベントを開催する 読み聞かせをする・オンライン配信サービス 子どもがおはなし(物語)を読んでいく姿勢を大人が応援する ながいくのようなNPOとのつながりもよいかも スーパーなど借りた本の返却場所を増やす 「おすすめ本」の用紙を置く 返却本と一緒に回収する
図書館に来てもらうためには	ラジオ体操システムの導入 ポイント制度のようなもの エンターテイメント・流行を幅広く取り入れる 楽しい本など本の充実 どこにでも本を手渡す人がいること 借りる時だけでなく、返却するときにコミュニケーションを取る相手がいる空間 おすすめポップ作成権利の獲得 最後まで読めたときの達成感を味わってもらう かつて自分が心を動かされた事の紹介をしてみることで絆が深まるか 選択肢をシンプルにする 興味を引くジャンル名にする 例)職業別→お仕事 対人関係→お友達
各施設で取り組めること	児童発達支援センターや児童放課後デイサービスでも何かできるといい 共生ステーション、各学童保育所でのワークショップなど開催 各施設で子どもたちに直接絵本の読み聞かせ会のようなものがあるといい 家庭文庫をやっている方があれば、その場も活用できるのでは 移動図書館・公園などでの読み聞かせ会 子ども食堂にも本を！！

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定のための

第2回ワークショップ グループワーク結果(A班)

■実施概要

基本テーマ	子どもに読書の楽しさを伝えるためには
個別テーマ	A班:図書館の楽しさを広めるためには ～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～ 就園(3歳まで)の子どもにできること
日時	令和4年7月17日(日) 10:00～12:00
場所	中央図書館 AVルーム
参加者	4人

■意見一覧

進化していく図書館へ	<p>予算がないところで、工夫して小さいところから初めてみる</p> <p>子どもは同じ本を繰り返し読む 家にある本が図書館にもあると安心感が生まれる</p> <p>子は家にもある本を図書館でも読みたい 親は「家にあるから」と阻止してはいけない</p> <p>古いボロボロの本が新しい本に変わったりと児童書コーナーは進化している</p>
人づくり	<p>良い絵本があることを知らない人にどう図書館を利用してもらうか</p> <p>図書館には素晴らしい本があることを知らせる</p> <p>親も学びたい 読み聞かせの方法など読み聞かせについての相談ができる人がいると良い</p> <p>読み聞かせを学ぶための本がある</p> <p>小さい子に対応できる人、面白そうなすすめ方をする人 相談できる場所と人が欲しい</p> <p>健診や離乳食教室などの場に出向いて読み聞かせを行う</p> <p>ボランティアの養成</p>
環境	<p>親が毎日読み聞かせをしていると子ども本が好きになる</p> <p>1ヶ月の子ども読み聞かせを聞いていた</p> <p>読み聞かせはどんなに早くても良い その子に合わせた本</p> <p>家庭に本があると良い 図書館で借りても</p> <p>より低学年、幼いときから図書館へ行く</p> <p>離乳食教室や健診など親子が集まる場所へ出向き、読み聞かせや本の紹介をする</p> <p>出張読み聞かせ 人が集まっていて、余裕のある時間に</p> <p>北側の玄関にスロープ作る</p>

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定のための

第2回ワークショップ グループワーク結果(B班)

■実施概要

基本テーマ	子どもに読書の楽しさを伝えるためには
個別テーマ	B班: 図書館の楽しさを広めるためには ～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～ 就学期前後の子どもにできること
日時	令和4年7月17日(日) 10:00～12:00
場所	中央図書館 AVルーム
参加者	5人

■意見一覧

館内	<p>ボランティアの活用をもっと積極的に行う</p> <p>保育園・幼稚園との連携を実施</p> <p>大人向け絵本講座の実施</p> <p>司書(ボランティア含む)による絵本・児童文学の相談会(フロアを巡回して声かけやすいように)</p> <p>年齢層に合ったブックリスト配布や掲示(ブックリストはあるがよくわかるようにしてほしい)</p> <p>年中さんには絵本を親子で楽しめるよう展示する。</p> <p>小学1、2年生ぐらいには絵本や読みやすい本を紹介した展示コーナーを設置</p> <p>図書館見学 本の借り方、返し方を知る機会を設ける</p> <p>職員の読み聞かせの技術向上 専門知識の向上に向けて研修があるといい</p> <p>はなしの広場の活用 カーテンなどで仕切って声が気にならないように工夫</p> <p>ゆるっとおはなし会 ボランティアが来館しているときに当日お知らせのおはなし会</p>
館外	<p>隣の公園で天気のよい日に外でイベント</p> <p>イオンで返却だけでなく貸出やおはなし会などのイベント</p> <p>保育園や幼稚園に読み聞かせに来てもらう</p> <p>館外でのイベントは準備が必要 検討課題</p>
両方	<p>親子(に限らず)大人と子ども一緒におはなしを聞く会開催</p> <p>おはなし会 何曜日にでもいつでも</p> <p>出前の絵本の読み聞かせやストーリーテリング</p> <p>図書館ってなんだろう? 楽しさを伝える</p> <p>本の貸出をするときに読み聞かせができるように打合せをしたり本の紹介ができるとうい</p> <p>ボランティアグループで交流会があると良い</p>

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定のための

第2回ワークショップ グループワーク結果(C班)

■実施概要

基本テーマ	子どもに読書の楽しみを伝えるためには
個別テーマ	C班:タブレットによる調べ学習時代で本による調べ学習の意義は? ～手間をかける調べ学習は子どもに何を与えるだろう～
日時	令和4年7月17日(日) 10:00～12:00
場所	中央図書館 AVルーム
参加者	5人

■意見一覧

正しい情報	<p>正確な情報とは何かを知っている(本もいろいろ)</p> <p>本には正しい情報が多いがインターネット上にはフェイクニュースも含まれる</p> <p>情報過多への対応</p> <p>タブレットで正しい情報が出るのか?</p> <p>テーマを決めみんなで調べる タブレット(インターネット検索)+参考書や新聞など</p> <p>本で調べることも必要!</p> <p>情報源できちんと調べる(公の団体、大学など)</p> <p>正しい情報は何かについて特集で取り上げる</p>
身近	<p>普段から図鑑などで情報を入れておく</p> <p>調べるときに探しやすい</p> <p>パソコンはイスに座ってキーワードですぐ検索できるが本は自ら探す</p> <p>図鑑などの知識が深まる本を身近に置く(学級文庫など)</p> <p>本は調べたかった事以外の知識も目にする</p> <p>自ら探す力で育む力</p>
中学校の図書室	<p>中学校の図書室の開ける時間を増やす</p> <p>図書委員が交代で図書室にいる</p> <p>学校側に定期的に図書についての時間を設ける</p> <p>中学校の図書館を利用しやすくする(ほとんどカギが閉まっているので)</p>
司書の意義・役割	<p>縦書きに慣れる。パソコンは横書き</p> <p>ゲームをやめて本を読むと良い</p> <p>「司書」への理解</p> <p>司書による本への興味を持たせ方</p> <p>本の探し方について司書が教える</p>
タブレットの使い方	<p>タブレットの検索エンジン選定</p> <p>タブレットの使い方の統一</p> <p>検索エンジンの推奨版</p>
その他	<p>親も勉強が必要</p> <p>学校で読書の時間を設ける</p>

2022年6月26日(日)

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定 のための

第1回ワークショップを開催しました！

テーマ「子どもと読書」家庭や地域でできること



中央図書館AVルームで、第1回ワークショップを開催しました。第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定に向けて、市民の皆さんに子どもの読書について一緒に考えていただくものです。

今回は、図書館職員から図書館の事業紹介と計画策定への流れを聞いた後、2つの班に分かれ、以下のテーマについて考えていただきました。

A班

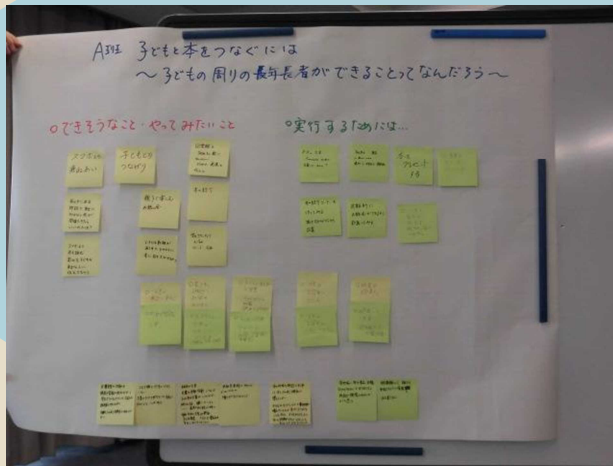
子どもと本をつなぐには
～子どもの周りの年長者ができることってなんだろう～

B班

施設で本と親しむには
～本との出会いが楽しくなるにはどんな工夫ができるだろう～



各班でのワークショップの様子

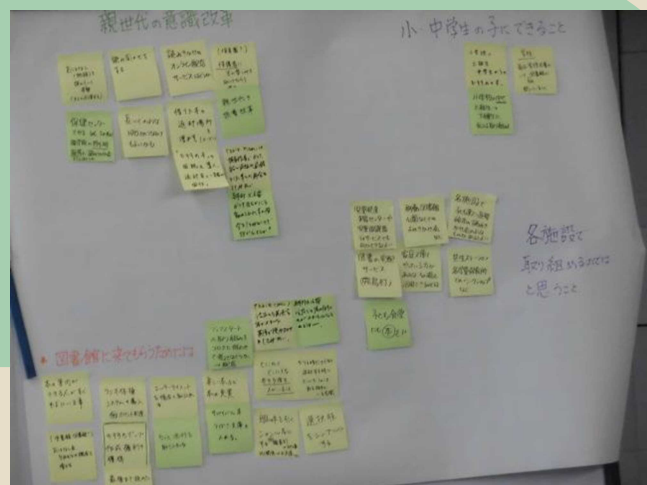


A班

子どもを持つ親だけではなく、高校生や大学生などを含めた地域の人を巻き込んで読書の楽しさを伝えられることが大切。

B班

図書館以外の施設にも本を置き、読書環境を作る。図書館に行かない子どもたちも興味を持つようなきっかけづくりをすること。



親だけではなく地域の人たち、子どもの周りの年長者がいかにか子どもたちに本を読むことの楽しさを伝え、読書の環境を作ることができるかが重要です。



ファシリテーター

愛知淑徳大学 福祉貢献学部

青木 文美 先生



2022年7月17日(日)

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定 のための

第2回ワークショップを開催しました！

テーマ 子どもに読書の楽しみを伝えるためには



中央図書館AVルームで、第2回ワークショップを開催しました。1回目よりも多くの方にご参加いただき、合計3グループで和やかな雰囲気の中、たくさんの意見が交わされました。

図書館職員から図書館の事業紹介と計画策定への流れを説明後、以下のテーマについて考えていただきました。

図書館の楽しさを広めるためには
～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～

A班

就園（3歳まで）の子どもにできること

B班

就学期前後の子どもにできること

C班

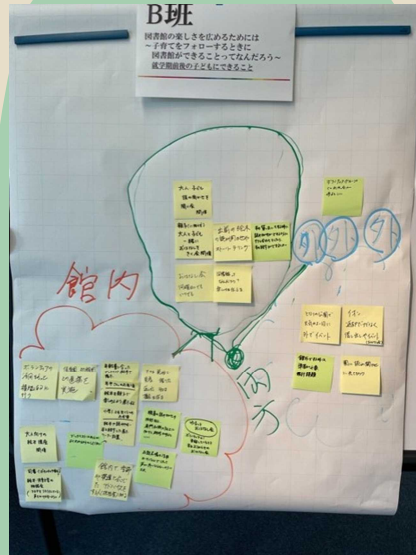
タブレットによる調べ学習時代で本による調べ学習の意義は？
～手間をかける調べ学習は子どもに何を与えるだろう～

各班でのワークショップの様子



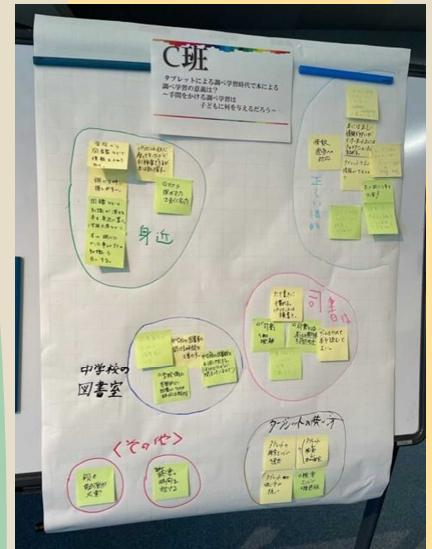
本の選び方や絵本の読み聞かせ方など、子どもの読書についてどうしたらいいかわからない保護者の相談に乗れる職員やボランティアの育成、小さい頃から本が身近にある環境を作るために図書館からアプローチすることが大切。

A班



図書館でのおはなし会や図書館講座の他、図書館にあまり行くことがない市民も参加しやすい図書館外でのイベントがあると良い。またボランティア同士の交流、情報交換をすることでお互いの技術を高め、利用者サービスの向上に繋がる。

B班



ネットを使った調べ学習はたくさんある情報から正しい情報を選び出す必要がある。小さいときから本が身近にある環境があれば、自然と本を使った調べ学習をする。活字を読むことで物事を組み立て判断する力を養うことができる。

C班

本の読み聞かせ方法やどんな本を選べばいいかわからない親のために子育て支援の側面から、親も育つことが大切です。また、小さいときから活字を読むことで物事を組み立てたり、考えたりする力を徐々に養うことができるため、家族で本をゆっくり読む時間が必要です。そのため、本のコミュニティとなっている図書館は重要な子育て支援の場となっています。



ファシリテーター

愛知淑徳大学 福祉貢献学部

青木 文美 先生



主な施策と取組関係部署一覧

基本目標 I 家庭・地域・学校などにおける取組の充実

重点施策	取組		担当課
1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進	1	乳幼児期からの読書活動の支援	中央図書館 健康推進課
	2	家庭読書の支援、家読事業の啓発・推進	中央図書館
	3	地域の読書活動の支援	
2 中央図書館における子どもの読書活動の推進	1	良質な図書の収集	中央図書館
	2	声かけレファレンス	
	3	中央図書館がより身近な存在となる事業の企画	
	4	図書ボランティアとの協働	
	5	児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施	
3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進と環境整備	1	中央図書館から児童館などへの図書貸出	中央図書館 子ども未来課
	2	児童館利用者への本の紹介	
4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進と環境整備	1	中央図書館から保育園・幼稚園への図書貸出	中央図書館 子ども未来課
	2	保護者などに読書活動の大切さを周知	
5 学校における子どもの読書活動の推進と連携体制の強化・充実	1	学校連携司書による読書案内	中央図書館 教育総務課
	2	授業等での本の活用	
	3	学校連携司書による企画展示	
	4	学校図書館の読書をする環境整備	

基本目標Ⅱ 子ども読書活動推進支援の一層の充実

重点施策	取組		担当課
1 中央図書館のサービスの充実	1	子どもの発達段階に応じた読書環境づくり	中央図書館
	2	中高生向けの図書の実充、読書環境づくり	
	3	特別な支援を必要とする子どもへのサービス	
2 普及活動の充実	1	読書手帳の普及	中央図書館
	2	各施設で読み聞かせイベントなどの実施	
	3	保護者への周知	中央図書館 教育総務課 子ども未来課 子ども家庭課
3 各種情報の収集・提供	1	図書情報などの収集・提供	中央図書館
	2	館内におすすめ本紹介文（POP）掲示	
	3	図書ボランティアなどの活動を紹介	
	4	ホームページを通じた情報発信	

資料 4

第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条第2項の規定に基づき、第3次長久手市子ども読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）を策定するため、第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 第3次長久手市子ども読書活動推進計画の策定に関すること。
- (2) その他推進計画策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から推進計画の策定が終了する日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選により定め、副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を総理し、会議の議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき、又は委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が必要と認めたとき招集し、委員長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の者が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、賛否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は説明若しくは意見を述べさせることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会中央図書館において処理する。

(補足)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

付則

この要綱は、令和4年2月1日から施行する。

付則

この要綱は、令和4年5月1日から施行する。

別表（第3条関係） 第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会委員

職名	氏名	所属	備考
委員	1	学識経験者	大学教職員
委員	2	学識経験者	大学教職員
委員	3	小中学校関係者	司書教諭
委員	4	保育園関係者	保育士
委員	5	中央図書館図書ボランティア	読み聞かせボランティア
委員	6	公募市民	長久手市民
委員	7	公募市民	長久手市民

資料 5

第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会 委員

職名	氏名	役職等	備考
委員長	青木 文美	学識経験者	愛知淑徳大学 福祉貢献学部 教授 専門：児童文学
副委員長	中西 由香里	学識経験者	愛知淑徳大学 講師
委員	竹内 双葉	小中学校 司書教諭	南小学校司書教諭
委員	高橋 浩子	保育園関係者	子ども未来課(指導保育士)
委員	鈴木 節子	中央図書館読 み聞かせボラ ンティア	図書館での経験年数が10年以上 のボランティア
委員	鈴木 直美	公募市民	
委員	山田 真理子	公募市民	

※「備考」欄の所属先は、委嘱時点のもの

第3次計画策定の経緯

令和3年		[対象] 3、4、5歳児の保護者
10月～11月	アンケート実施	小学2、4、6年生 中学2年生の児童生徒 保育園、児童館、子育て支援センター
令和4年		[対象] ボランティア団体(5団体)
4月～5月	アンケート、ヒアリング	関係機関(児童発達支援センターこぐまっこ) 私立保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校
5月	第3次長久手市子ども読書活動推進計画第1回策定委員会(5/18)	[議題] 第2次長久手市子ども読書活動推進計画の進捗状況 第3次長久手市子ども読書活動推進計画について
6月	第1回 ワークショップ(6/26)	[テーマ] 「子どもと読書」家庭や地域でできること
7月	令和4年度第1回長久手市中央図書館運営協議会(7/8)	[議題] 第2次長久手市子ども読書活動推進計画の進捗状況 第3次長久手市子ども読書活動推進計画に係る策定委員会及びワークショップについて
	第2回 ワークショップ(7/17)	[テーマ] 子どもに読書の楽しさを伝えるためには
8月	第3次長久手市子ども読書活動推進計画第2回策定委員会(8/3)	[議題] ワークショップについて アンケート結果について
10月	第3次長久手市子ども読書活動推進計画第3回策定委員会(10/21)	[議題] 第3次長久手市子ども読書活動推進計画(案)報告
令和4年		
1月	パブリックコメント(市民意見公募)(1/4～2/4)	
	パブリックコメント説明会(/)	
	定例教育委員会(/)	最終案を承認

調査報告書

第1章 調査の概要

1	調査目的	42
2	調査の種類	42
3	調査対象及び調査方法	42
4	調査期間	43
5	回収状況	43
6	調査報告書の表記	44

第2章 調査結果

1 子どもの読書についてのアンケート

1-1	保育園保護者アンケート	45
(1)	通っている保育園	45
(2)	園児のクラス(年齢)	45
(3)	幼児期の読書経験	46
(4)	本が好きか	47
(5)	読み聞かせを始めた時期	49
(6)	読み聞かせをしていない理由	51
(7)	1か月に触れる本の冊数	52
(8)	お子さんが本に触れない理由	54
(9)	お子さんの関心事	54
(10)	興味のある本	55
(11)	中央図書館の利用頻度	56
(12)	中央図書館ホームページの閲覧項目	59
(13)	本の入手方法	60
(14)	児童館の図書室の利用頻度	62
1-2	小学生・中学生アンケート	64
(1)	通っている学校	64
(2)	学年	64
(3)	就学前に本を読んでもらった経験	65
(4)	読書が好きか	66
(5)	1か月に読む本の冊数	69
(6)	本をほとんど・全く読まない理由	73
(7)	本を読むきっかけ	76
(8)	どこの本をよく読むか	79
(9)	家で本を読む時間	84
(10)	家でゲーム、テレビ、パソコンを見る時間	85
(11)	電子書籍を読んだ経験	86

(12) 1 か月に中央図書館へ行く回数	88
(13) 読書手帳への記載	94
(14) 調べ物のために本を借りた経験	97
(15) Y・Aコーナーの認知・利用状況	98
(16) 本を読むことで得られる影響	99
(17) 中央図書館ホームページでよく見る項目	100

2 市民団体、関係機関調査

(1) 市民団体（ボランティア団体アンケート）	101
(2) 関係機関（児童発達支援センターヒアリング）	103

3 読書活動推進に関する活動調査

(1) 児童館 6 館・子育て支援センター 1 館（アンケート）	104
(2) 保育園 11 園（私立保育園含む）・幼稚園 2 園（アンケート）	107
(3) 小学校 6 校・中学校 3 校（アンケート）	111
(4) 高等学校 1 校（アンケート）	115

資料編

1 アンケート調査票	116
(1) 3・4・5 歳児保護者用	116
(2) 小学 2・4・6 年生用	117
(3) 中学 2 年生用	119
2 市民団体・関係機関 調査票	121
(1) ボランティア団体用（アンケート）	121
(2) 児童発達支援センター用（ヒアリング）	123
3 読書活動に関する活動調査 調査票	125
(1) 児童館・子育て支援センター・保育園用（アンケート）	125
(2) 小学校・中学校・高等学校用（アンケート）	127
用語解説	129

1 調査目的

平成 29 年度（2017 年度）に策定した「第 2 次長久手市子ども読書活動推進計画」が令和 4 年度（2022 年度）に計画期間を終了することから、新たに令和 5 年度（2023 年度）からの 5 年間を見据えた「第 3 次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定していきます。

本調査は、計画策定に先立ち、現況を把握し計画策定のための基礎データを収集することを目的として実施したものです。

2 調査の種類

調査としては、1)子どもの読書についてのアンケート（保育園児の保護者・小中学生対象）、2)市民団体、関係機関調査（ボランティア団体及び児童発達支援センター対象）、3)読書活動推進に関する活動調査（児童館・子育て支援センター・保育園・小中学校・高等学校対象）、以上の3種です。

なお、①子どもの読書についてのアンケートに関して、本市では平成 23 年 12 月に第 1 回のアンケート調査を実施し（第 1 次計画用）、平成 29 年 11 月に第 2 回のアンケートを実施（第 2 次計画用）しました。今回は第 3 回の調査となります。

3 調査対象及び調査方法

調査の種類	調査対象と調査方法
1)子どもの読書についてのアンケート	<p>① 3・4・5 歳児の保護者 主に保育園を通じてアンケート回答ページの QR コード付きチラシを配布し、Web 上で回答</p> <p>② 小学 2・4・6 年生（特別支援学級児童を含む） 主に学校でタブレット端末を使って回答</p> <p>③ 中学 2 年生（特別支援学級生徒を含む） 主に学校でタブレット端末を使って回答</p>
2)市民団体、関係機関調査	<p>① 市民団体（ボランティア団体） 調査対象：(5 団体) ・朗読の会 吾亦紅 ・なんじゃもんじゃ ・読み聞かせボランティア（個人） ・点字サークル ・Ladybug（英語の絵本の読み聞かせ） 調査方法：記述式のアンケート（調査票）を配布し、質問事項に対して回答</p> <p>② 関係機関 調査対象：児童発達支援センター こぐまっこ 調査方法：ヒアリング調査</p>

調査の種類	調査対象と調査方法
3) 読書活動推進に関する活動調査	<p>① 児童館・子育て支援センター・保育園・幼稚園 調査対象：・児童館（6館） ・子育て支援センター（1館） ・保育園（11園・私立保育園含む） ・幼稚園（2園） 調査方法：記述式のアンケート（調査票）を配布し、質問事項に対して回答</p> <p>② 小学校・中学校 調査対象：・小学校（6校） ・中学校（3校） 調査方法：記述式のアンケート（調査票）を配布し、質問事項に対して回答</p> <p>③ 高等学校 調査対象：・栄徳高等学校（1校） 調査方法：記述式のアンケート（調査票）を配布し、質問事項に対して回答</p>

4 調査期間

調査の種類	調査対象と調査方法
1)子どもの読書についてのアンケート	令和3年（2021年）10月～11月
2)市民団体、関係機関調査	<p>① 市民団体（ボランティア団体） 令和4年（2022年）4月9～28日</p> <p>② 関係機関 令和4年（2022年）5月24日</p>
3) 読書活動推進に関する活動調査	<p>① 児童館・子育て支援センター・保育園・幼稚園 令和3年（2021年）10月13日～12月10日 令和4年（2021年）4月25日～5月20日</p> <p>② 小学校・中学校 令和4年（2022年）5月10～26日</p> <p>③ 高等学校 令和4年（2022年）5月10日</p>

5 回収状況

「子どもの読書についてのアンケート」に関して、回収状況は次のとおりです。

区 分	対象者数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
3・4・5歳児の保護者	1,073	295	27.5
小学2年生	762	755	99.1
小学4年生	751	751	100.0
小学6年生	741	686	92.6
中学2年生	608	586	96.4
合計	3,935	3,073	78.1

6 調査報告書の表記

- (1) 「子どもの読書についてのアンケート」について、回答結果は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入し、パーセント(%)で表記しています。そのため、数値の合計が100%にならない場合があります。
- (2) グラフ中の「n」は、回答者の母数を表しています。

第2章

調査結果

1

子どもの読書についてのアンケート

1-1 保育園保護者アンケート

(1) 通っている保育園

保育園保護者アンケート 質問 1	お子さんはどこの保育園に通っていますか？
---------------------	----------------------

保育園（6園）別の回収数は図表 1-1-1 のとおりです。

図表 1-1-1 保育園別、回収数

保育園	回収数（人）	割合（%）
上郷保育園	69	23.4
色金保育園	70	23.7
長湫東保育園	35	11.9
長湫西保育園	36	12.2
長湫北保育園	48	16.3
長湫南保育園	37	12.5
合計	295	100.0

(2) 園児のクラス(年齢)

保育園保護者アンケート 質問 2	お子さんは何歳児のクラスですか？
---------------------	------------------

園児の年齢別の回収数は、「3歳児」が99人（33.6%）、「4歳児」が76人（25.8%）、「5歳児」が120人（40.7%）となっています。

図表 1-1-2 クラス（年齢）別、回収数

保育園	回収数（人）	割合（%）
3歳児	99	33.6
4歳児	76	25.8
5歳児	120	40.7
合計	295	100.0

(3) 幼児期の読書経験

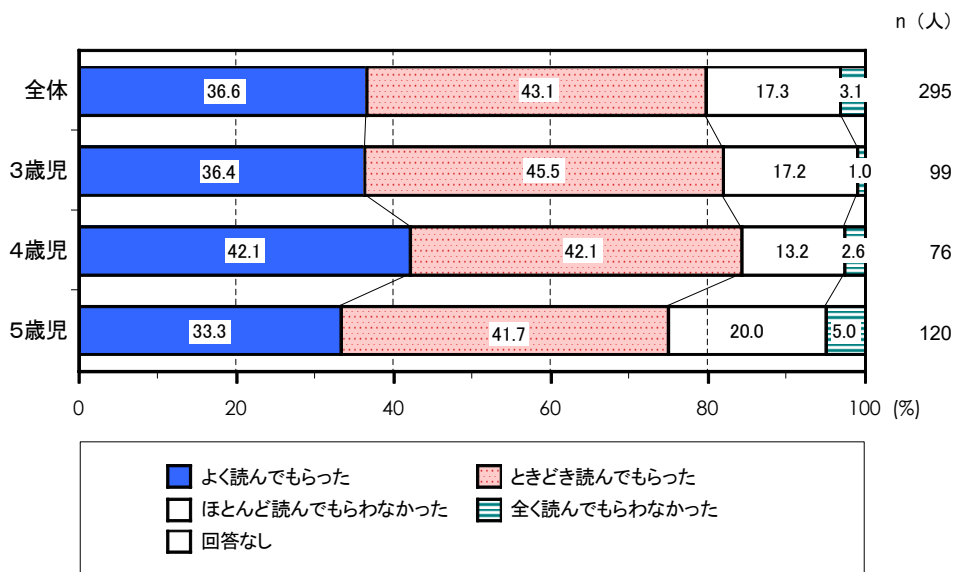
保育園保護者アンケート 質問 4	あなたは、幼い頃に家庭で家族と一緒に本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりした経験はありますか？
---------------------	---

全体では、「よく読んでもらった」が 36.6%で 3 割を大きく上回っており、「ときどき読んでもらった」の 43.1%と合わせるとほぼ 8 割（79.7%）を占めています。

クラス（年齢）別にみると、「よく読んでもらった」は 4 歳児の保護者が最も高く 42.1%です。次いで、3 歳児の保護者が 36.4%、5 歳児の保護者が 33.3%となっています。

「よく読んでもらった」と「ときどき読んでもらった」を合わせた割合をみても、4 歳児の保護者が最も高く 84.2%を占めています。次いで、3 歳児の保護者が 81.9%、5 歳児の保護者が 75.0%となっています。

図表 1-1-3 クラス（年齢）別、幼児期の読書経験



(4) 本が好きか

保育園保護者アンケート 質問 3	あなた自身は本が好きですか？
---------------------	----------------

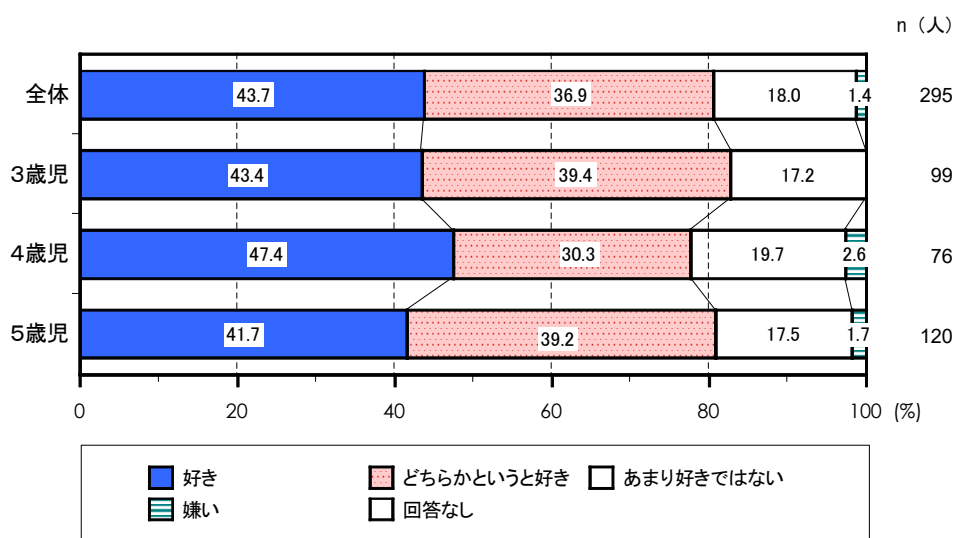
全体では、「好き」が 43.7%と 4 割を上回っており、「どちらかという好き」の 36.9%と合わせると約 8 割（80.6%）となっています。

前回調査では、「好き」が 42.1%、「どちらかという好き」が 36.6%で、両者を合わせた割合は 78.7%でした。前回調査とほぼ同様の結果となっています。

クラス（年齢）別にみると、「好き」は 4 歳児の保護者が最も高く 47.4%です。次いで、3 歳児の保護者が 43.4%、5 歳児の保護者が 41.7%となっています。

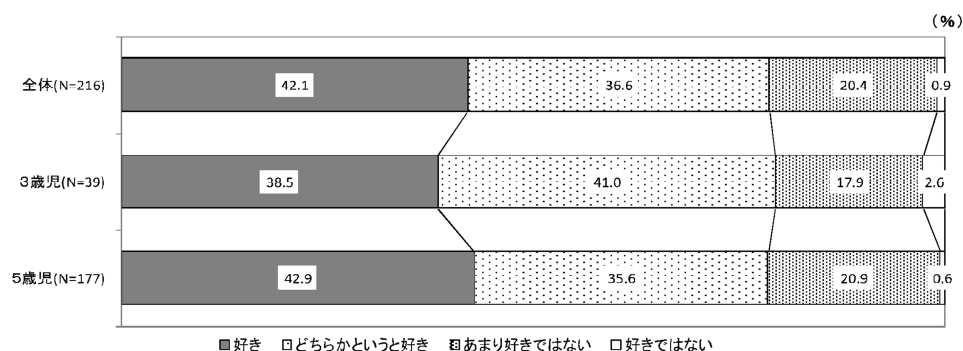
「好き」と「どちらかという好き」を合わせた割合をみると、3 歳児の保護者が最も高くなり 82.8%、次いで、5 歳児の保護者が 80.9%、4 歳児の保護者が 77.7%となっています。

図表 1-1-4 クラス（年齢）別、本が好きか



《参考》

図表 1-1-5 クラス（年齢）別、本が好きか [前回調査（平成 29 年）]

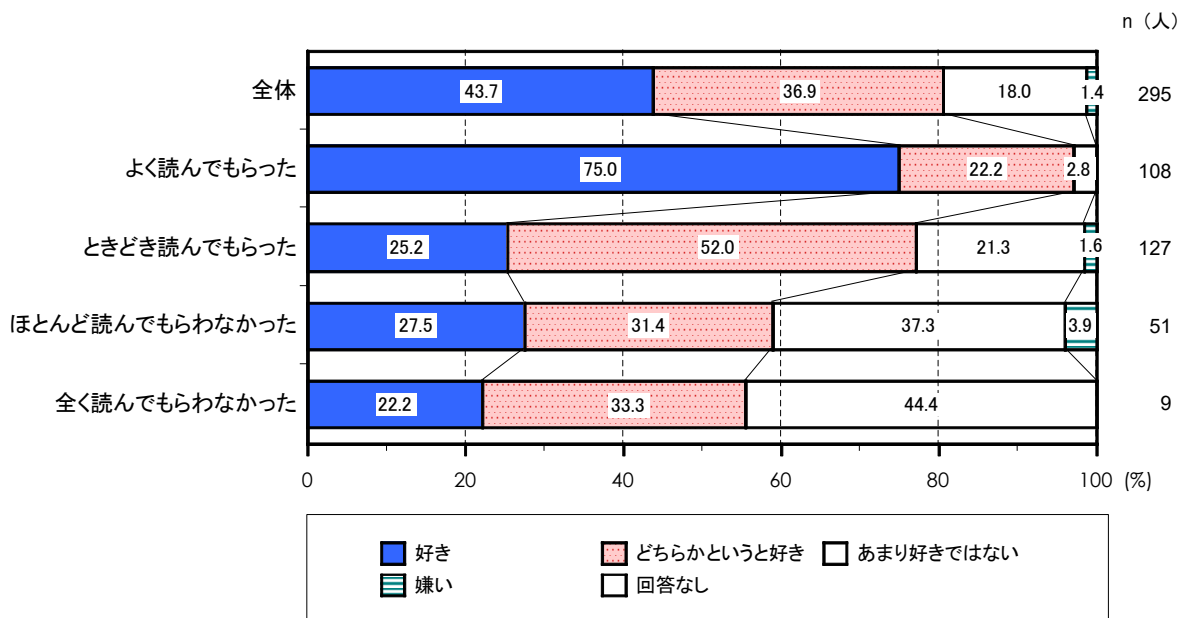


幼児期の読書経験別にみると、「好き」は、幼い頃に家庭で本を「よく読んでもらった」と回答した保護者は75.0%で、他と比べると非常に高い割合を示しています。「ときどき読んでもらった」では25.2%、「ほとんど読んでもらわなかった」では27.5%、「全く読んでもらわなかった」では22.2%となっています。

「好き」と「どちらかという好き」を合わせた割合をみると、「よく読んでもらった」では97.2%、「ときどき読んでもらった」では77.2%、「ほとんど読んでもらわなかった」では58.9%、「全く読んでもらわなかった」では55.5%です。

幼い頃に家庭で家族と一緒に本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりした経験が豊かなほど、本が好きになるという傾向が顕著に表れています。

図表 1-1-6 幼児期の読書経験別、本が好きか



(5) 読み聞かせを始めた時期

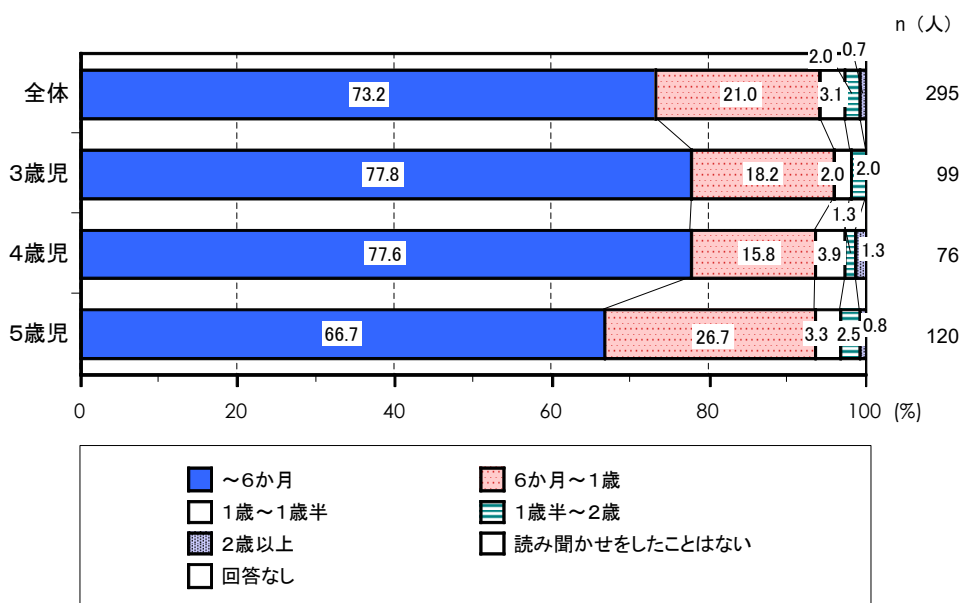
保育園保護者アンケート 質問 5-1	初めて家庭でお子さんに読み聞かせをした時期はいつですか？
-----------------------	------------------------------

全体では、「～6か月」が73.2%と最も高く7割を上回っています。次いで「6か月～1歳」が21.0%を占めており、大半の保護者（94.2%）は1歳になる前から読み聞かせをしています。

クラス（年齢）別にみると、「～6か月」は3歳児と4歳児の保護者がそれぞれ77.8%、77.6%と高く、5歳児の保護者では66.7%と相対的に低くなっています。

「～6か月」と「6か月～1歳」を合わせた割合は、3歳児の保護者が96.0%、4歳児と5歳児の保護者はともに93.4%となっています。

図表 1-1-7 クラス（年齢）別、読み聞かせを始めた時期

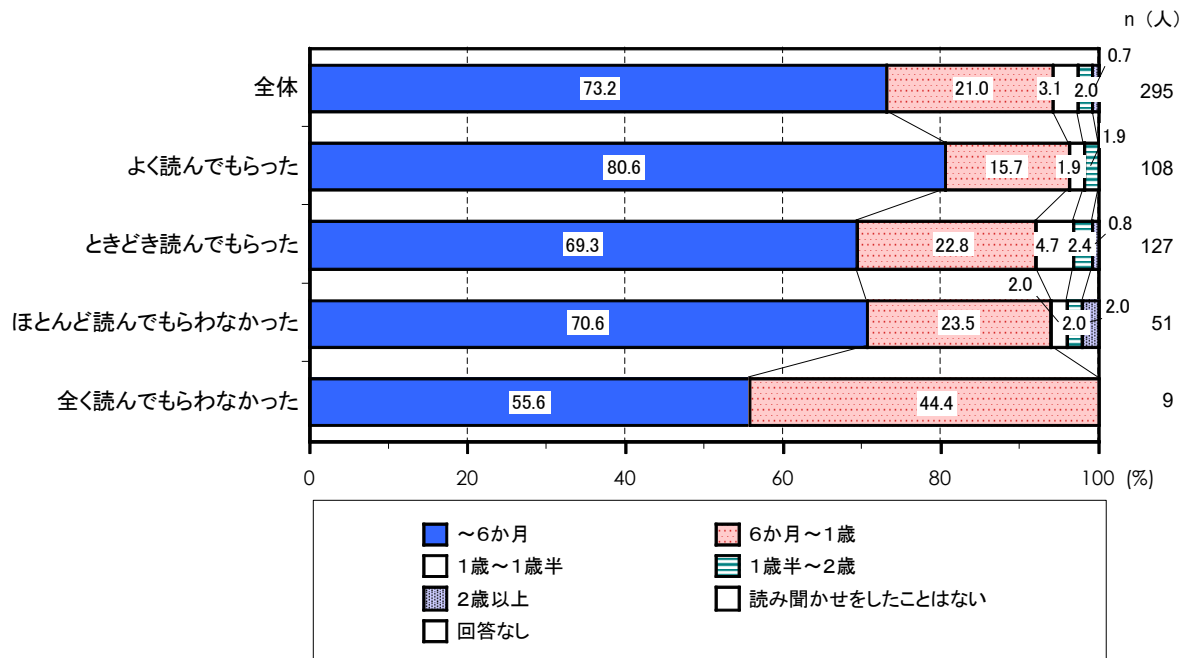


幼児期の読書経験別にみると、「～6か月」は、幼い頃に家庭で本を「よく読んでもらった」と回答した保護者は80.6%で、他と比べて高い割合を示しており、「ときどき読んでもらった」では69.3%、「ほとんど読んでもらわなかった」では70.6%、「全く読んでもらわなかった」では55.6%となっています。

「～6か月」と「6か月～1歳」を合わせた割合は、「よく読んでもらった」では96.3%、「ときどき読んでもらった」では92.1%、「ほとんど読んでもらわなかった」では94.1%となっています。

幼い頃の読書経験の違いによらず、1歳になる前には9割以上の保護者が読み聞かせを始めています。

図表 1-1-8 幼児期の読書経験別、読み聞かせを始めた時期

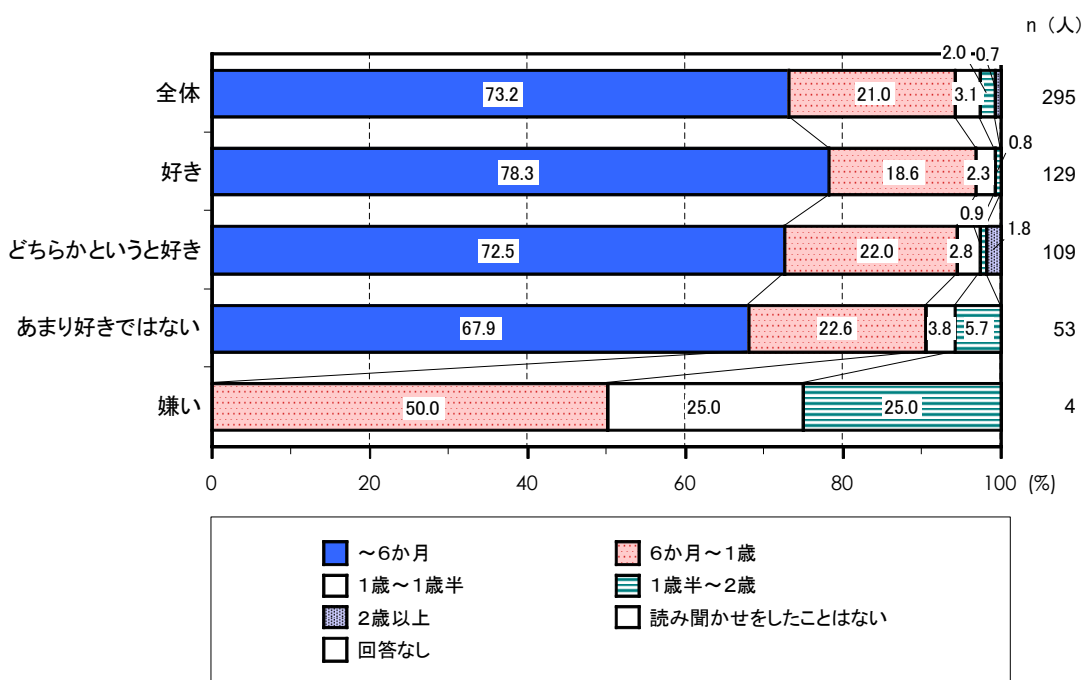


保護者自身が本好きかどうかの程度別に、読み聞かせを始めた時期をみると、本が「好き」と回答した保護者では、「～6か月」が78.3%と8割近くを占めており、「6か月～1歳」の18.6%を加えると、1歳になる前から読み聞かせをしている割合は96.9%とほぼ100%に近い割合となっています。

この割合は、本が「どちらかというと好き」では94.5%、「あまり好きではない」では90.5%となっています。本が「好き」な保護者の方が、読み聞かせを始める時期が早いという傾向をみることができます。

なお、本が「嫌い」と回答した保護者は4人と少数であるため、他と単純に比較することはできませんが、「～6か月」は回答がなく、「6か月～1歳」は半数（50.0%）にとどまっています。

図表 1-1-9 本が好きか別、読み聞かせを始めた時期



(6) 読み聞かせをしていない理由

保育園保護者アンケート 質問 5-2	質問 5-1 で「6 読み聞かせをしたことはない」と回答した方にお尋ねします。読み聞かせをしていない理由は何ですか？
-----------------------	--

質問 5-1 で「6 読み聞かせをしたことはない」とした保護者はいませんでした。

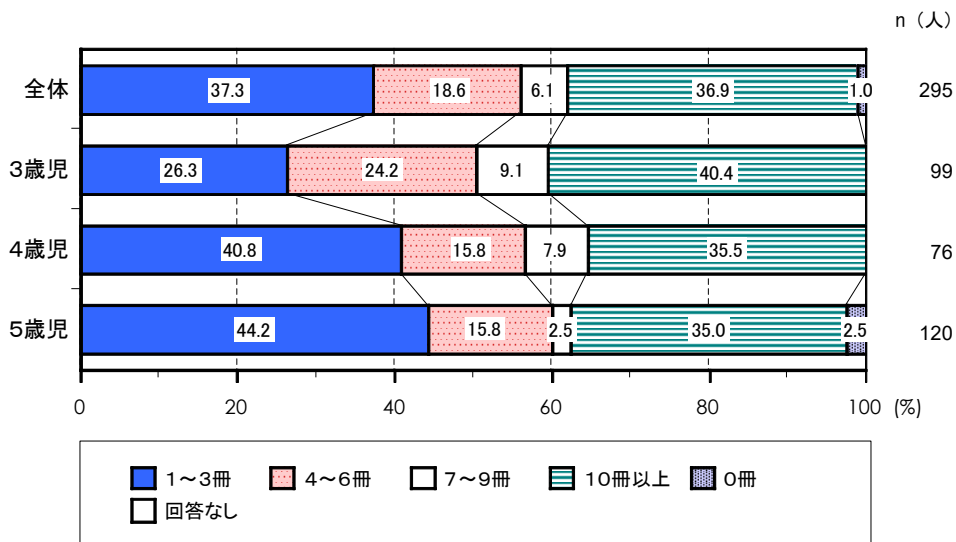
(7) 1か月に触れる本の冊数

保育園保護者アンケート 質問 6-1	お子さんは1か月にどれくらい本に触れますか？ (自分で読む、家族に読み聞かせてもらうなど)
-----------------------	--

全体では、「1～3冊」が37.3%、「10冊以上」が36.9%で、この両者が高い割合を占めています。次いで「4～6冊」が18.6%、「7～9冊」が6.1%となっています。「0冊」は1.0%でした。

クラス(年齢)別にみると、3歳児では「10冊以上」が最も高く40.4%と4割以上を占めています。一方、4歳児、5歳児では、「1～3冊」が最も多く、それぞれ40.8%、44.2%となっています。4歳児、5歳児と年齢が上がるにつれて「1～3冊」が増える傾向がみられます。

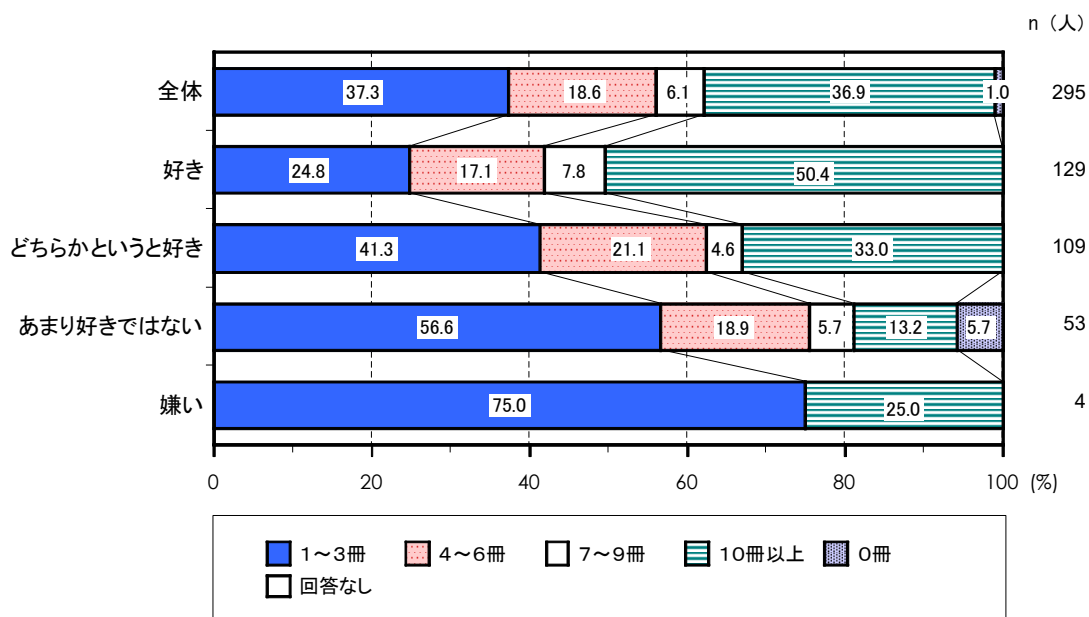
図表 1-1-10 クラス(年齢)別、1か月に触れる本の冊数



保護者自身が本好きかどうかの程度別に、1か月に触れる本の冊数をみると、本が「好き」と回答した保護者では、「10冊以上」が50.4%と半数を超えています。「どちらかという好き」と回答した保護者では、「10冊以上」は33.0%であり、さらに「あまり好きではない」では13.2%と低くなっています。

また、本が「好き」と回答した保護者では、「1～3冊」は24.8%と少数ですが、「どちらかという好き」と回答した保護者では41.3%、さらに「あまり好きではない」では56.6%と徐々に高くなっています。

図表 1-1-11 本が好きか別、1か月に触れる本の冊数



(8) お子さんが本に触れない理由

保育園保護者アンケート 質問 6-2	質問 6-1 で「0 冊」と回答した方にお尋ねします。 お子さんが本に触れない理由はなんですか？
-----------------------	---

質問 6-1 で、お子さんが 1 か月に触れる本の冊数を「0 冊」と回答した保護者は 3 人 (1.0%) でした。
その理由は「他のことに興味がある」となっています。

図表 1-1-12 お子さんが本に触れない理由

区分	回答数 (人)	割合 (%)
本を読むことが好きではないと思う	0	0.0
他のことに興味がある	3	100.0
身近に本がない	0	0.0
読み聞かせてくれる人がいない	0	0.0
その他	0	0.0
合計	3	100.0

※ 回答者 3 人はいずれも 5 歳児の保護者。いずれも保護者は本が「あまり好きではない」と回答。

(9) お子さんの関心事

保育園保護者アンケート 質問 6-3	質問 6-2 で「他のことに興味がある」と回答した方にお尋ねします。お子さんは何に関心がありますか？ (例：ゲームなど)
-----------------------	---

質問 6-2 で「2 他のことに興味がある」とした方は 3 人でした。何に関心があるかについては回答がありませんでした。

<関心のあること>

・ 回答なし

(10) 興味のある本

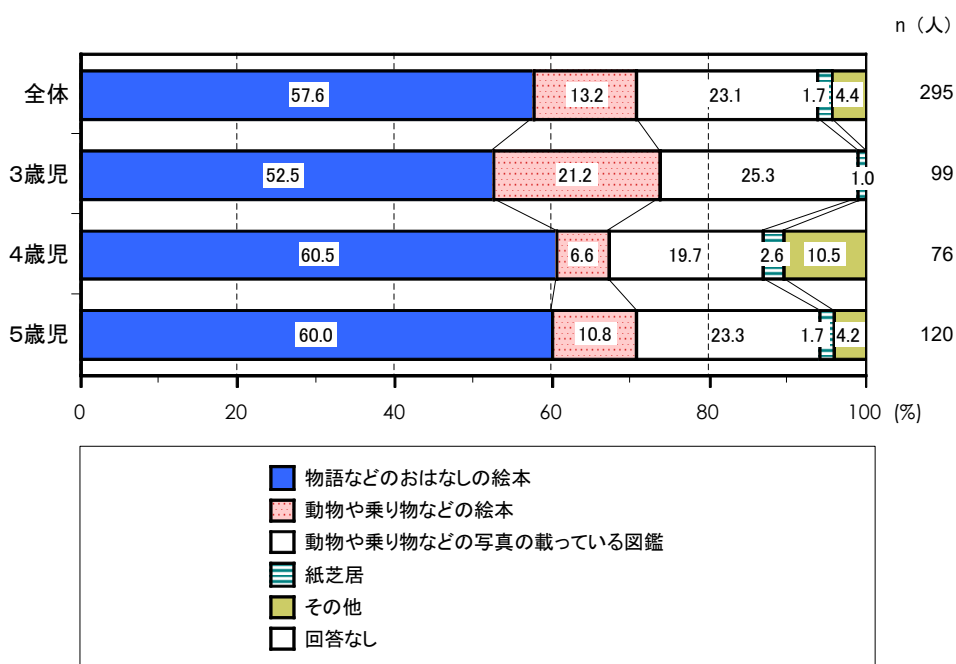
保育園保護者アンケート
質問 7

お子さんは、どのような本に興味がありますか？

全体では、「物語などのおはなしの絵本」が 57.6%と最も高く、次いで、「動物や乗り物などの写真の載っている図鑑」が 23.1%、「動物や乗り物などの絵本」が 13.2%となっています。「紙芝居」は 1.7%と少数で、「その他」は 4.4%でした。

クラス（年齢）別にみると、3歳児では「物語などのおはなしの絵本」が 52.5%で、4歳児・5歳児と比べやや低くなっており、一方、「動物や乗り物などの絵本」が 21.2%で相対的に高くなっています。

図表 1-1-13 クラス（年齢）別、興味のある本



(11) 中央図書館の利用頻度

保育園保護者アンケート 質問 8	お子さんと一緒に中央図書館を、どの程度利用していますか？
---------------------	------------------------------

全体では、「利用しない」が 36.6%で最も高く、次いで、「数か月に 1 回」が 35.9%です。一方、「毎週」は 3.1%、「月に 2~3 回」は 16.6%、「月に 1 回」は 7.8%でした。

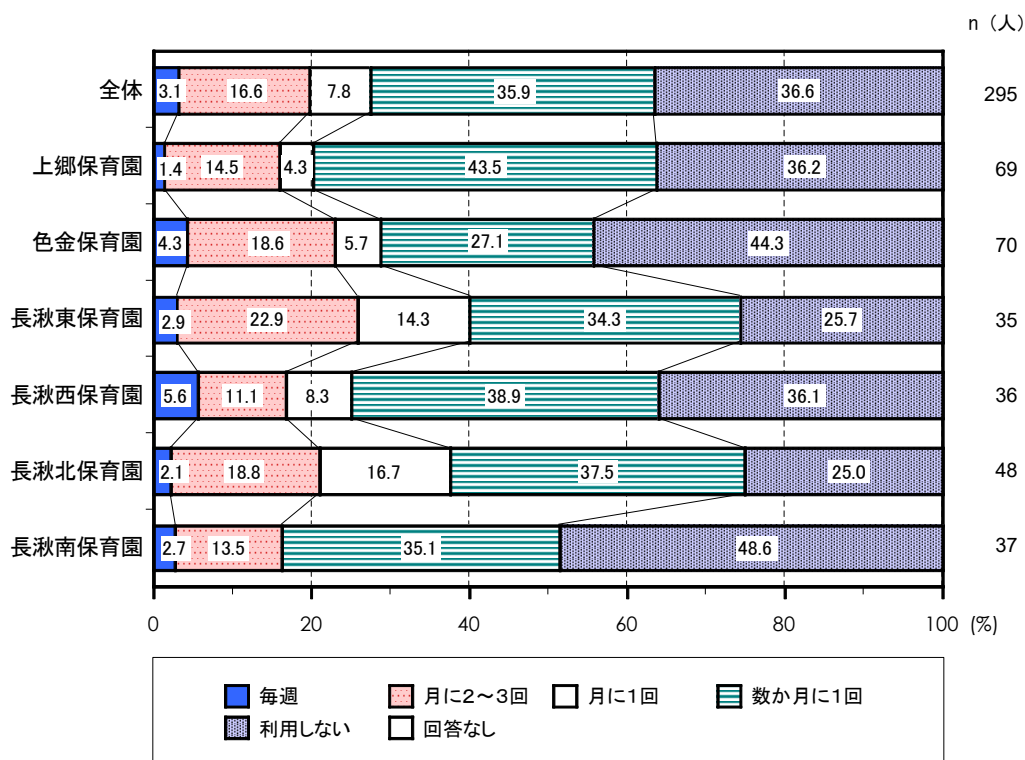
中央図書館を日常的に利用（月に 1 回以上利用）しているのは 27.5%と 3 割弱で、7 割以上（72.5%）は中央図書館を日常的に利用していません。

中央図書館を日常的に利用（月に 1 回以上利用）している割合を、保育園別にみると、長湫東保育園が 40.1%、長湫北保育園が 37.6%で、この 2 園は利用頻度が高くなっています。次いで、色金保育園の 28.6%、長湫西保育園の 25.0%となっています。

これらの保育園と比べると、中央図書館から距離的に離れた上郷保育園では 20.2%、長湫南保育園では 16.2%と相対的に低くなっています。

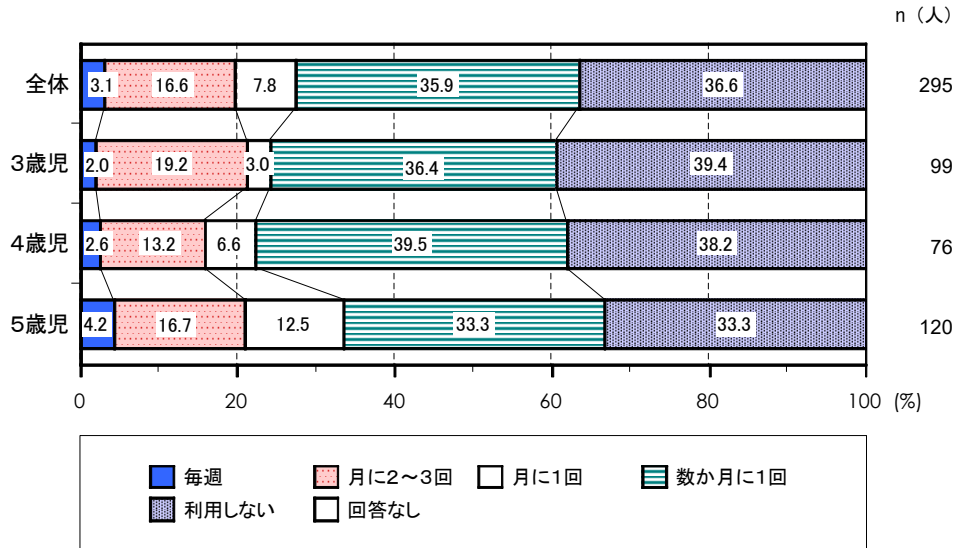
なお、「利用しない」が高いのは、長湫南保育園の 48.6%、色金保育園の 44.3%となっています。

図表 1-1-14 保育園別、中央図書館の利用頻度



クラス（年齢）別にみると、中央図書館を日常的に利用（月に1回以上利用）している割合は、3歳児では24.2%、4歳児では22.4%とやや低く、5歳児になると33.4%と相対的に高くなっています。

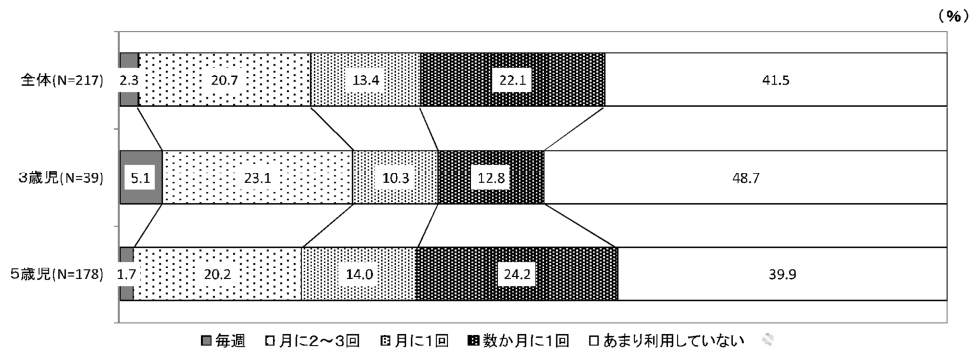
図表 1-1-15 クラス（年齢）別、中央図書館の利用頻度



《参考》

図表 1-1-16 クラス（年齢）別、中央図書館や児童館などの図書室の利用頻度

[前回調査（平成29年）]

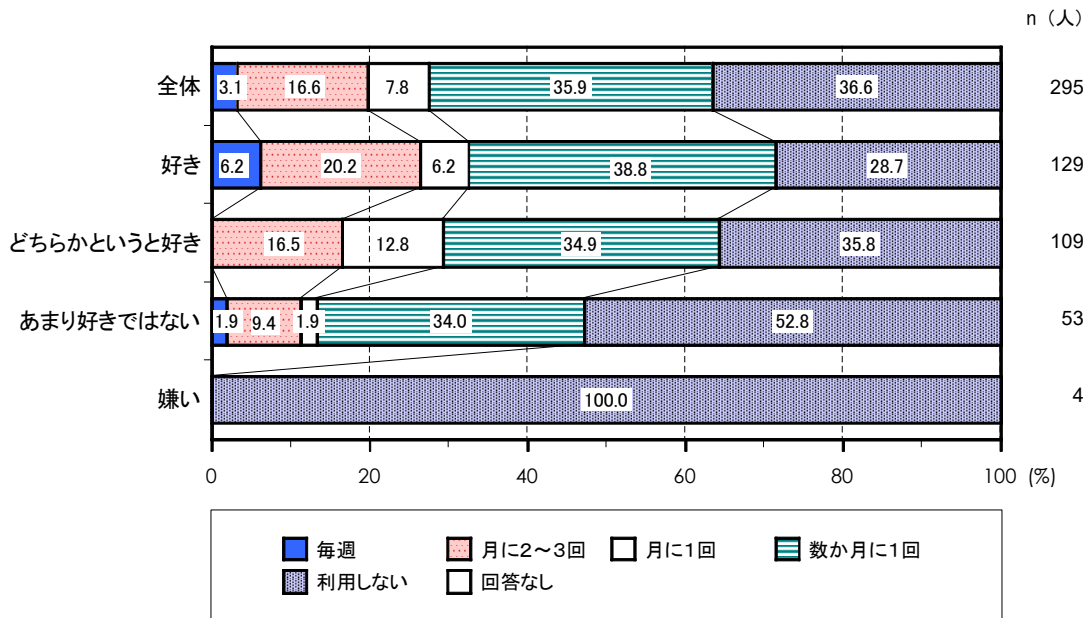


保護者自身が本好きかどうかの程度別に、中央図書館の利用頻度をみると、本が「好き」と回答した保護者では、「毎週」が6.2%、「月に2～3回」が20.2%、「月に1回」が6.2%で、中央図書館を日常的に利用（月に1回以上利用）している割合は32.6%と3割を上回っています。

本が「どちらかという好き」と回答した保護者では、この割合は29.3%と3割近くを占めていますが、「あまり好きではない」と回答した保護者では13.2%と低くなっています。

本が「好き」な方ほど、中央図書館を利用する頻度が高いという傾向がみられます。

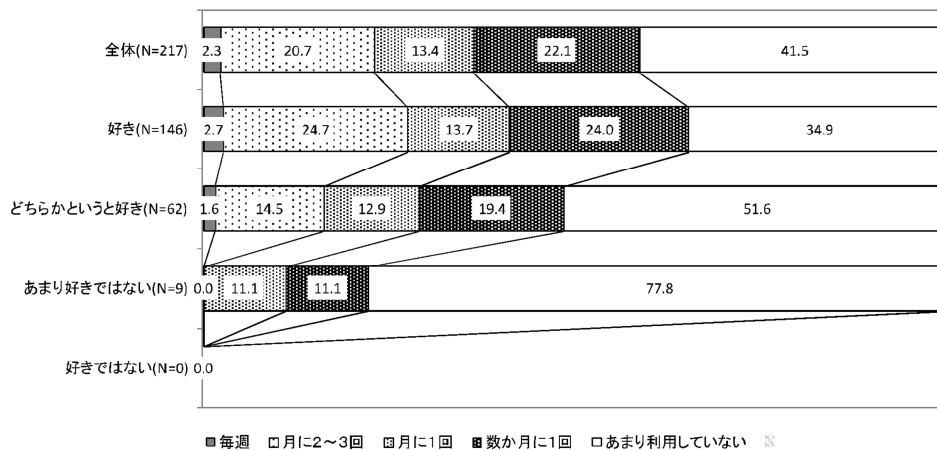
図表 1-1-17 本が好きか別、中央図書館の利用頻度



《参考》

図表 1-1-18 本が好きか別、中央図書館や児童館などの図書室の利用頻度

[前回調査 (平成 29 年)]



(12)中央図書館ホームページの閲覧項目

保育園保護者アンケート
質問 9

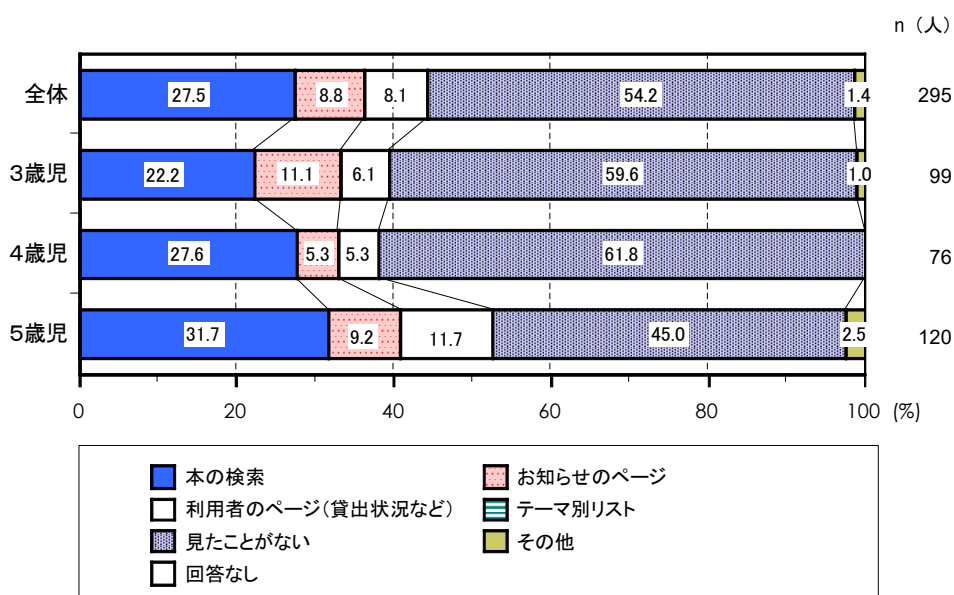
中央図書館のホームページのどの項目をよく見ますか？

全体では、「見たことがない」が最も高く半数以上（54.2%）を占めています。次いで、「本の検索」が27.5%、「お知らせのページ」が8.8%、「利用者のページ（貸出状況など）」が8.1%となっています。なお、「その他」は1.4%、「テーマ別リスト」は0.0%でした。

クラス（年齢）別にみると、いずれのクラスでも「見たことがない」が最も高く、3歳児では59.6%、4歳児では61.8%です。5歳児になると45.0%となり相対的にやや低くなっています。

「本の検索」については、3歳児で22.2%、4歳児で27.6%、5歳児で31.7%であり、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられます。

図表 1-1-19 クラス（年齢）別、中央図書館ホームページの閲覧項目



(13) 本の入手方法

保育園保護者アンケート
質問 10

お子さんの本をどのようにして手に入れていきますか？

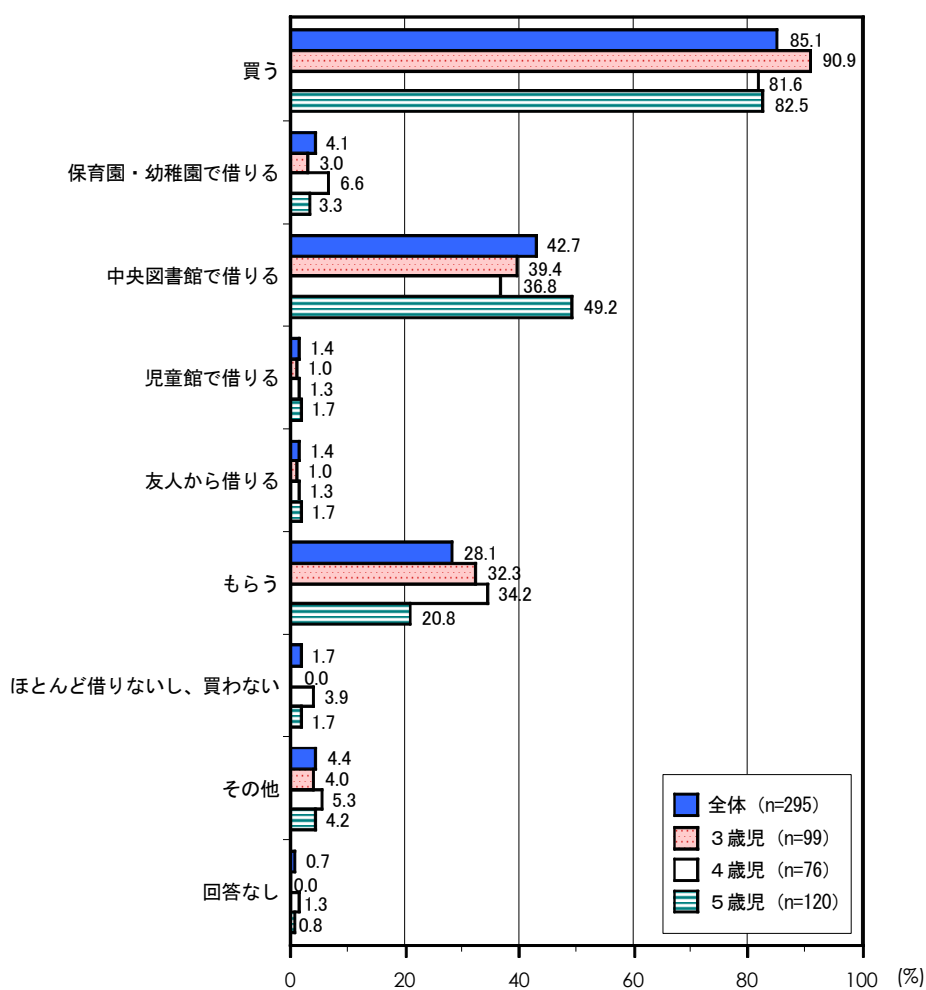
本の入手方法としては、「買う」が最も多く 85.1%で、次いで「中央図書館で借りる」が 42.7%、「もらう」が 28.1%となっています。

「保育園・幼稚園で借りる」は 4.1%、「児童館で借りる」は 1.4%、「友人から借りる」は 1.4%で、これらはいずれも少数でした。

クラス別にみると、3歳児では「買う」が 90.9%で 9 割以上の高い割合を示しています。一方、5歳児では「中央図書館で借りる」が 49.2%となり、3歳児や 4歳児とは 10 ポイント以上高い割合を示しています。

また、「もらう」については、5歳児では 20.8%と低いのに対して、3歳児は 32.3%、4歳児では 34.2%を示しており、3歳児・4歳児では本をもらっている割合がやや高くなっています。

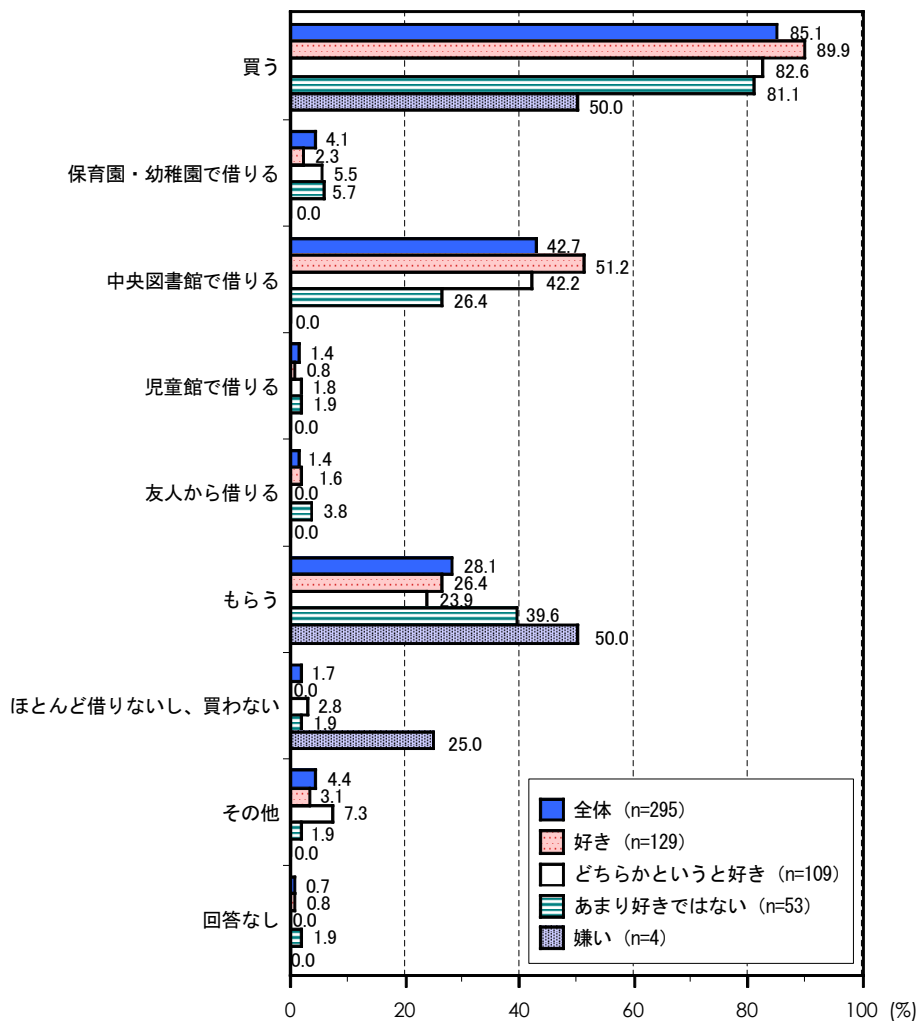
図表 1-1-20 クラス（年齢）別、本の入手方法 - 複数回答 -



保護者自身が本好きかどうかの程度別に本の入手方法をみると、本が「好き」と回答した保護者では、「買う」が89.9%で全体の85.1%を4.8ポイント上回っています。また、「中央図書館で借りる」も51.2%で全体の42.7%を8.5ポイント上回っています。本が「好き」な方ほど、本を購入したり、中央図書館を利用したりする割合が高いという傾向がみてとれます。

一方、本が「あまり好きではない」と回答した保護者では、本を「もらう」は39.6%と高く、全体の28.1%を11.5ポイントも上回っています。

図表 1-1-21 本が好きか別、本の入手方法 - 複数回答 -



(14)児童館の図書室の利用頻度

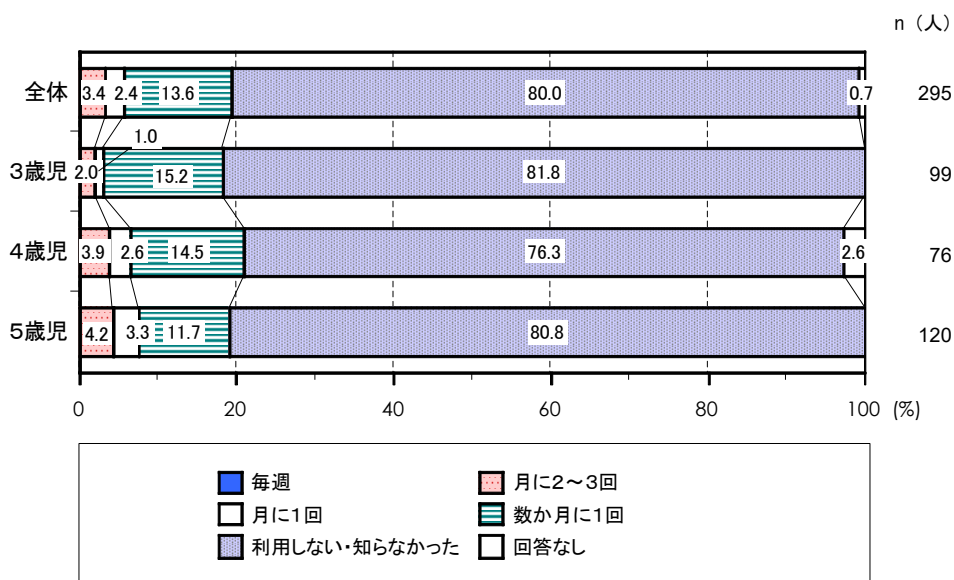
保育園保護者アンケート
質問 11

児童館の図書室をどの程度利用していますか？

児童館の図書室の利用頻度については、「利用しない・知らなかった」が80.0%を占めており、児童館の図書室を利用しているのは2割にとどまっています。児童館の図書室を利用している場合でも、「月に2～3回」が3.4%、「月に1回」が2.4%、「数か月に1回」が13.6%で、「毎週」は回答なし(0.0%)でした。児童館の図書室を日常的に利用(月に1回以上利用)している割合は5.8%となっています。

クラス(年齢)別にみると、児童館の図書室を日常的に利用(月に1回以上利用)している割合は、3歳児が3.0%、4歳児が6.5%、5歳児が7.5%です。4歳児や5歳児になるとわずかに利用頻度が高くなっています。

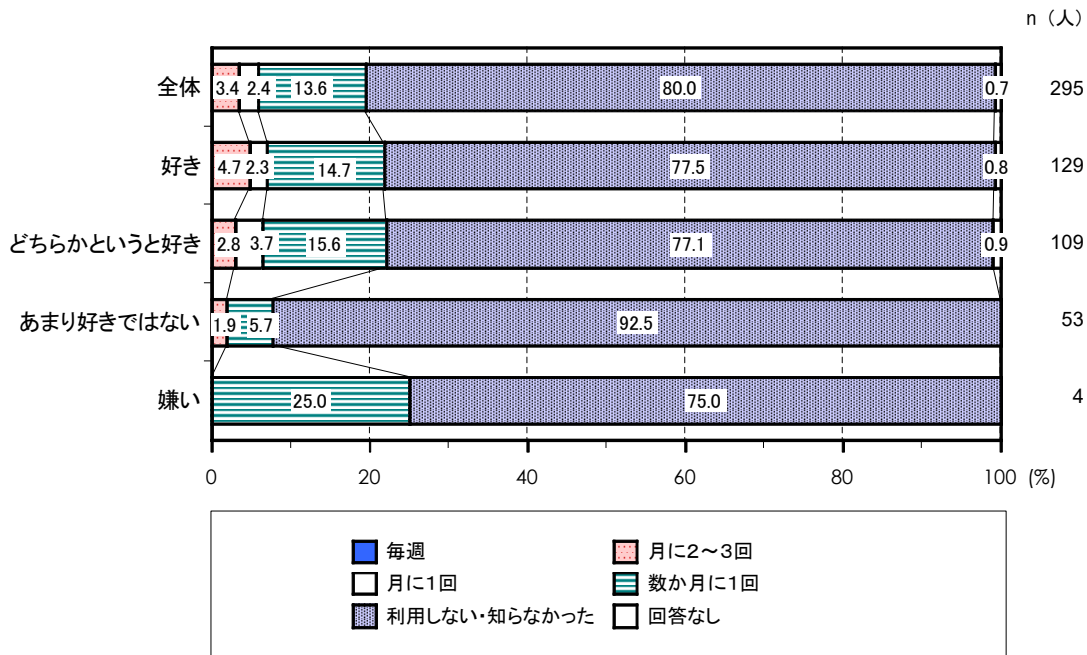
図表 1-1-22 クラス(年齢)別、児童館の図書室の利用頻度



保護者自身が本好きかどうかの程度別に児童館の図書室の利用頻度をみると、本が「好き」または「どちらかという好き」と回答した保護者では、「利用しない・知らなかった」はそれぞれ77.5%、77.1%で大差はありません。また、「月に2~3回」と「月1回」を合わせた日常的に利用（月に1回以上利用）している割合も7.0%、6.5%で大差はありません。

一方、本が「あまり好きではない」と回答した保護者では、「利用しない・知らなかった」は92.5%と9割以上を占めており、日常的に利用（月に1回以上利用）している割合は1.9%とごくわずかにとどまっています。

図表 1-1-23 本が好きか別、児童館の図書室の利用頻度



1-2 小学生・中学生アンケート

(1) 通っている学校

小学生アンケート 質問 1	あなたはどこの小学校に通っていますか？
中学生アンケート 質問 1	あなたはどこの中学校に通っていますか？

学校別の回収数は図表 1-2-1 のとおりです。

図表 1-2-1 学校別、回収数

区分	学校	回収数 (人)	割合 (%)
小学校	長久手小学校	299	13.6
	西小学校	261	11.9
	東小学校	230	10.5
	北小学校	553	25.2
	南小学校	334	15.2
	市が洞小学校	515	23.5
	合計	2,192	100.0
区分	学校	回収数 (人)	割合 (%)
中学校	長久手中学校	123	21.0
	南中学校	261	44.5
	北中学校	202	34.5
	合計	586	100.0

(2) 学年

小学生アンケート 質問 2	あなたは何年生ですか？
---------------	-------------

「2年生」が755人(34.4%)、「4年生」が751人(34.3%)、「6年生」が686人(31.3%)となっています。

図表 1-2-2 学年別、回収数 [小学校のみ]

学年	回収数 (人)	割合 (%)
2年生	755	34.4
4年生	751	34.3
6年生	686	31.3
合計	2,192	100.0

(3) 就学前に本を読んでもらった経験

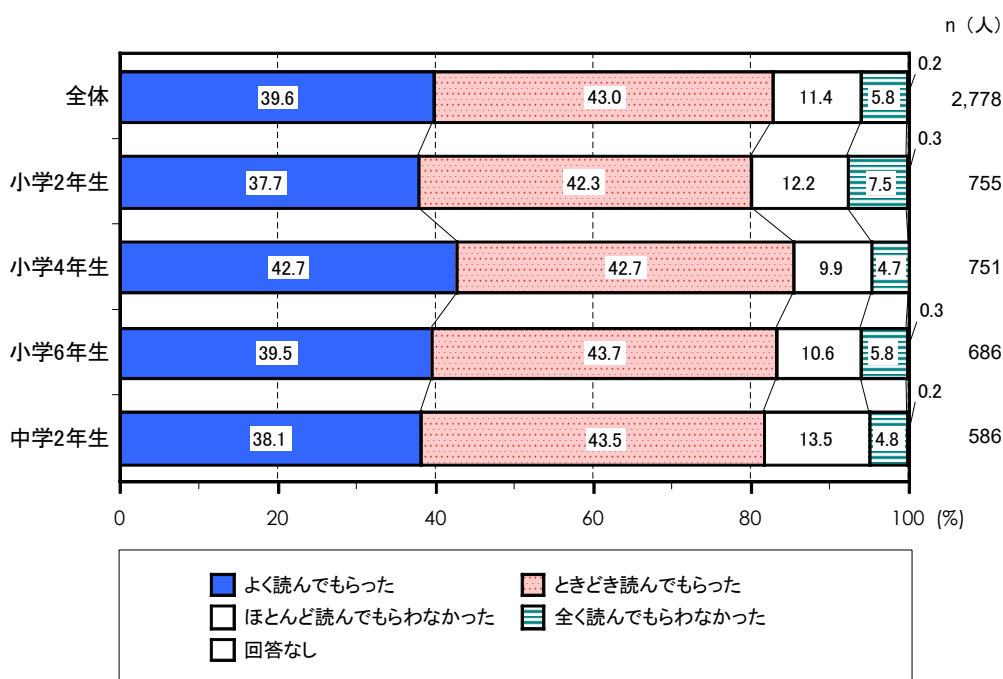
小学校アンケート 質問 4	小学生になるまでに家で本を読んでもらったことがありますか？
中学校アンケート 質問 3	

全体では、「よく読んでもらった」が 39.6%、「ときどき読んでもらった」が 43.0%で、両者を合わせた割合は 82.6%となっています。児童・生徒の約 8 割は『読んでもらった』と回答しています。

学年別にみたとき、「よく読んでもらった」は小学 2 年生では 37.7%、小学 4 年生では 42.7%、小学 6 年生では 39.5%、中学 2 年生では 38.1%となっています。学年による顕著な相違はみられません。

また、「よく読んでもらった」と「ときどき読んでもらった」を合わせた割合を順にみていくと、小学 2 年生では 80.0%、小学校 4 年生では 85.4%、小学 6 年生では 83.2%、中学 2 年生では 81.6%となっています。これをもても学年による顕著な相違はみられません。

図 1-2-3 学年別、就学前に本を読んでもらった経験



(4) 読書が好きか

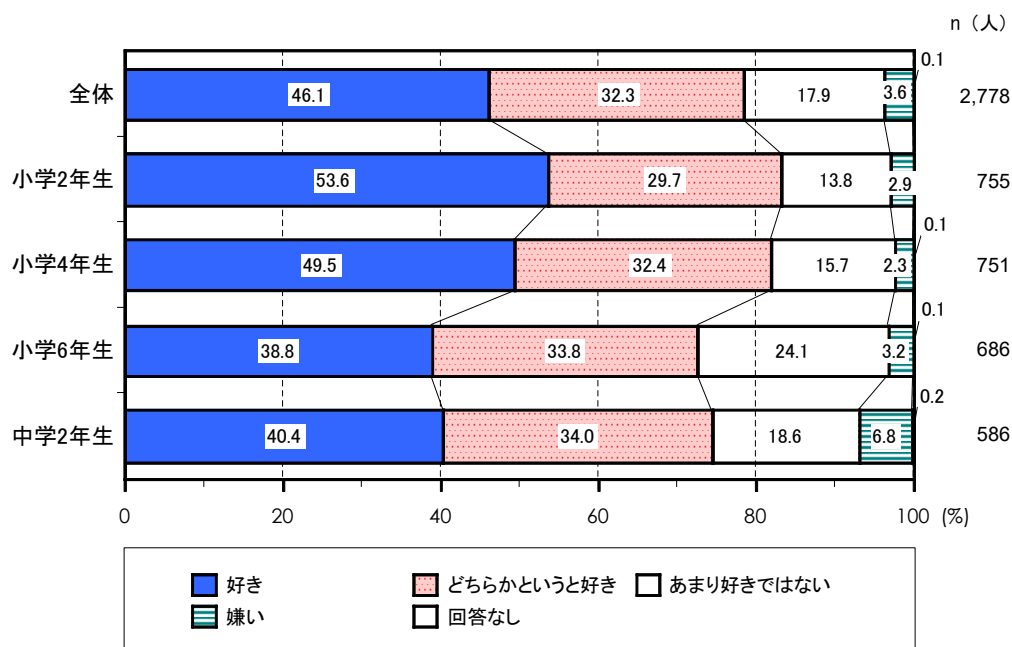
小学校アンケート 質問 3	あなたは読書が好きですか？
中学校アンケート 質問 2	

全体では、「好き」が46.1%、「どちらかという好き」が32.3%で、両者を合わせた割合は78.4%となっています。児童・生徒の8割近くが読書は『好き』と回答しています。

学年別にみると、小学2年生では「好き」が53.6%、小学校4年生では49.5%で、小学2・4年生では概ね半数が「好き」と回答しています。一方、小学6年生では「好き」は38.8%、中学2年生では40.4%となっており、ともに4割程度となっています。読書が「好き」の割合は小学4年生と6年生を境に10ポイント程度低下しています。

また、「好き」と「どちらかという好き」を合わせた割合を順にみていくと、小学2年生では83.3%、小学校4年生では81.9%、小学6年生では72.6%、中学2年生では74.4%となっています。小学6年生では「あまり好きではない」が24.1%、中学2年生では「嫌い」が6.8%と、ともにやや高い割合を示しています。

図表 1-2-4 学年別、読書が好きか



前回調査（平成 29 年）と比較すると、全体では、読書が「好き」は前回の 51.6%から 46.1%となっており、5.5 ポイント低くなっています。

学年の対象が前回と今回では異なる部分がありますが、学年別に「好き」の割合を前回と比較すると、前回の小学 1 年生は 68.2%に対し今回の小学 2 年生は 53.6%、前回の小学 3 年生は 52.6%に対し今回の小学 4 年生は 49.5%で、それぞれ 14.6 ポイント、3.1 ポイントの低下となっています。

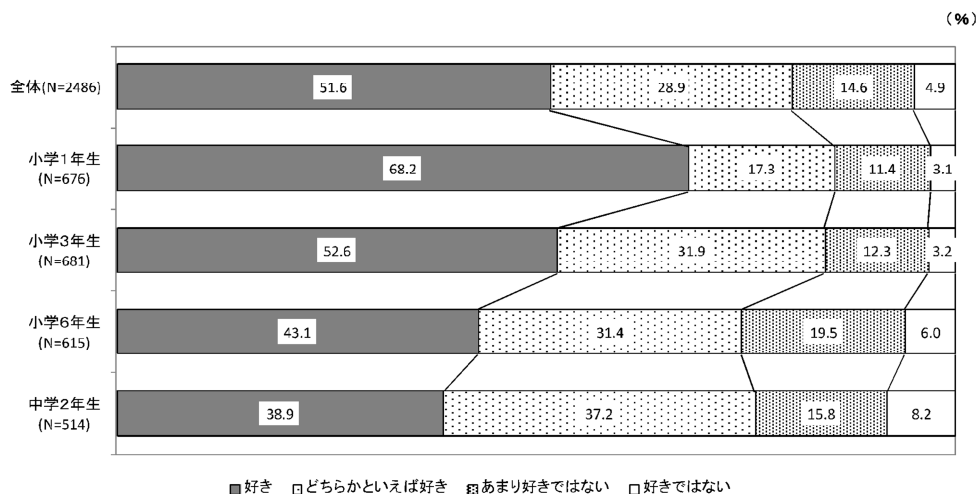
小学 6 年生では前回の 43.1%に対し今回は 38.8%、中学 2 年生では前回の 38.9%に対し今回 40.4%となっています。前回調査との比較でみると小学生で読書が「好き」の割合が低下しています。

なお、読書が「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合を前回調査と比較してみると、小学 2 年生（前回は 1 年生）は 85.5%から 83.3%と 2.2 ポイントの低下、小学 4 年生（前回は 3 年生）は 84.5%から 81.9%と 2.6 ポイントの低下、小学 6 年生は 74.5%から 72.6%と 1.9 ポイントの低下となっています。また、中学 2 年生も 76.1%から 74.4%と 1.7 ポイントの低下となっています。

総じて、小学生・中学生ともに、読書が「好き」または「どちらかといえば好き」と回答する児童・生徒の割合が低下している傾向がうかがえます。

《参考》

図表 1-2-5 学年別、読書が好きか [前回調査 (平成 29 年)]



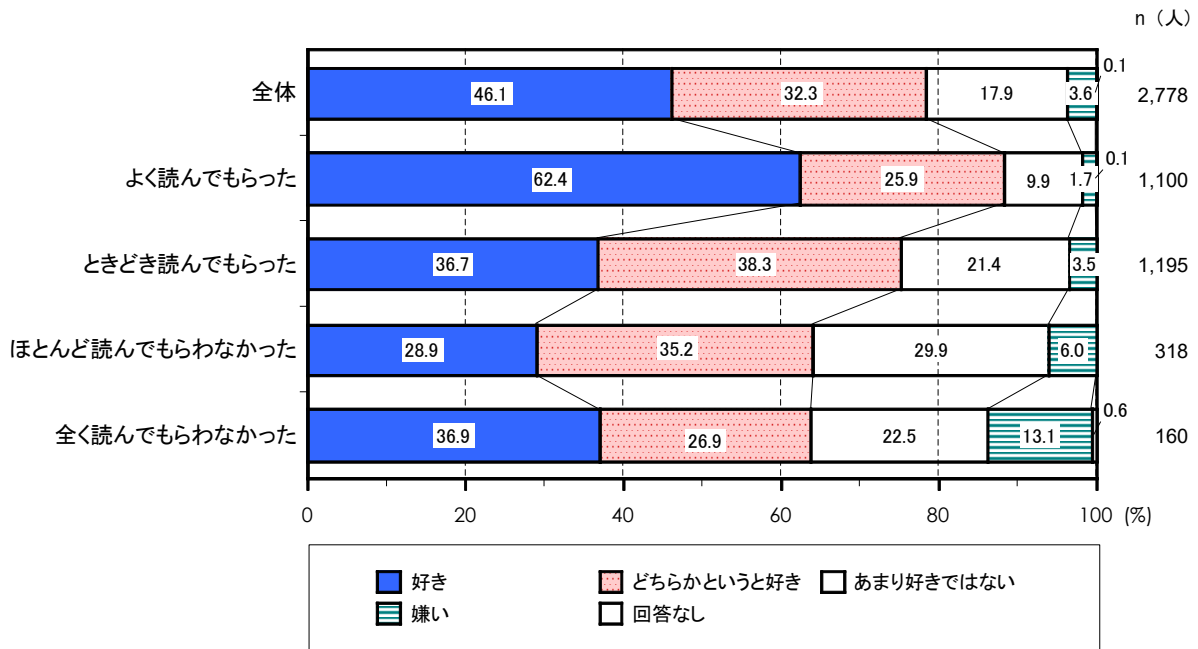
就学前に本を読んでもらった別に、読書が好きかをみていくと、就学前に「よく読んでもらった」児童・生徒では、読書が「好き」の割合が62.4%を占めており、全体の46.1%よりも16.3ポイントも高くなっています。

「ときどき読んでもらった」では36.7%、「ほとんど読んでもらわなかった」では28.9%となっており、「よく読んでもらった」の62.4%と比べると、それぞれ25.7ポイント、33.5ポイントも低くなっています。

また、読書が「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合を就学前に本を読んでもらった経験別にみると、「よく読んでもらった」では88.3%、「ときどき読んでもらった」では75.0%、「ほとんど読んでもらわなかった」では64.1%、「全く読んでもらわなかった」では63.8%となっています。「よく読んでもらった」と「全く読んでもらわなかった」の間では24.5ポイントの差が生じています。

総じて、就学前に本を読んでもらった経験が読書「好き」につながっている傾向をはっきりとみることができます。

図表 1-2-6 就学前に本を読んでもらった経験別、読書が好きか



(5) 1か月に読む本の冊数

小学校アンケート 問9-1	あなたは1か月にどれくらい本を読みますか？
中学校アンケート 問8-1	

全体では、「10冊以上」が26.1%、「3冊から5冊」が24.0%、「1冊から2冊」が22.5%で、これら上位3つはいずれも20%台で肩を並べています。

学年別にみると、小学2年生や小学4年生では、「10冊以上」がそれぞれ36.0%、34.0%と30%台を示し、次いで「3冊から5冊」が22.3%、24.1%で高くなっています。

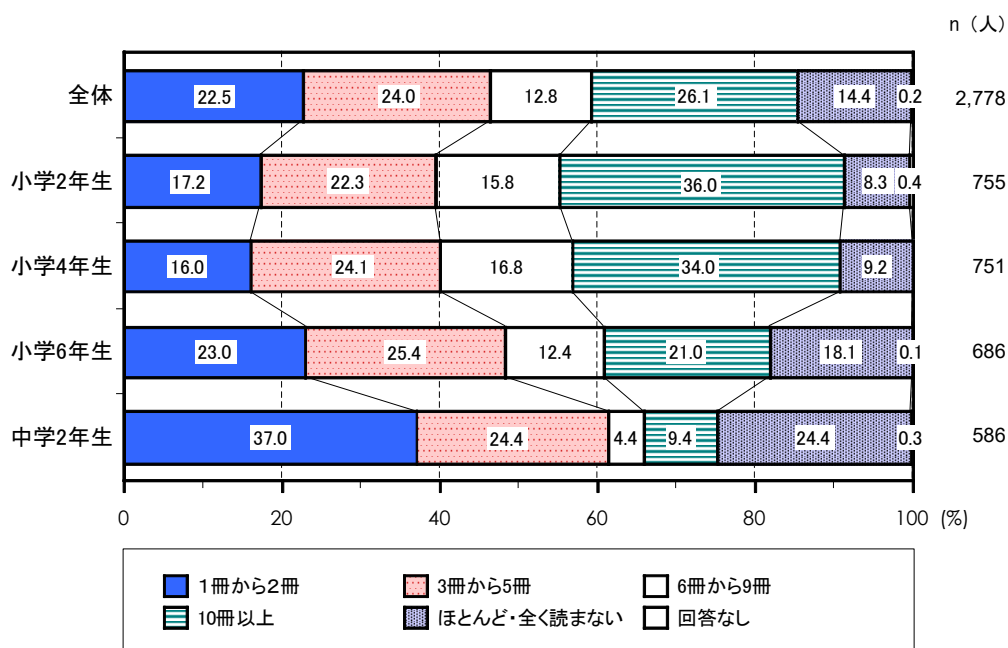
小学6年生になると、「10冊以上」は21.0%とやや低下し、「3冊から5冊」が25.4%、「1冊から2冊」が23.0%と高くなっています。

さらに中学2年生になると、「10冊以上」は9.4%にまで低下し、「1冊から2冊」が37.0%で最も高くなっています。

小学2年生や小学4年生では「10冊以上」、小学6年生では「3冊から5冊」、中学2年生では「1冊から2冊」が1か月に読む本の冊数の最頻値となっています。

なお、小学6年生では「ほとんど・全く読まない」が18.1%を占め、中学2年生になるとその割合は24.4%と高くなっています。中学2年生では4人に1人の割合で本を読まなくなっています。

図表 1-2-7 学年別、1か月に読む本の冊数



前回調査（平成 29 年）と比較すると、全体では、「10 冊以上」が前回の 21.8%から今回は 26.1%となっており、4.3 ポイント高くなっています。同様に「3 冊から 5 冊」は 19.2%が 24.0%と 4.8 ポイント、「6 冊から 9 冊」も 11.2%から 12.8%と 1.6 ポイント高くなっています。

「1 冊から 2 冊」は 23.1%が 22.5%とほぼ横ばいで、逆に、「ほとんど・全く読まない（前回は「ほとんど読まない）」は前回の 24.7%から 14.4%となっており 10.3 ポイント低くなっています。

学年別に比較すると、小学 2 年生（前回は小学 1 年生）では、「1 冊から 2 冊」が前回は 24.7%でしたが今回は 17.2%で 7.5 ポイント低下し、「10 冊以上」が 30.4%から 36.0%と 5.6 ポイント高くなっています。

小学 4 年生（前回は小学 3 年生）では、「3 冊から 5 冊」が 18.2%から 24.1%と 5.9 ポイント高くなっており、「10 冊以上」も 31.3%から 34.0%と 2.7 ポイント高くなっています。

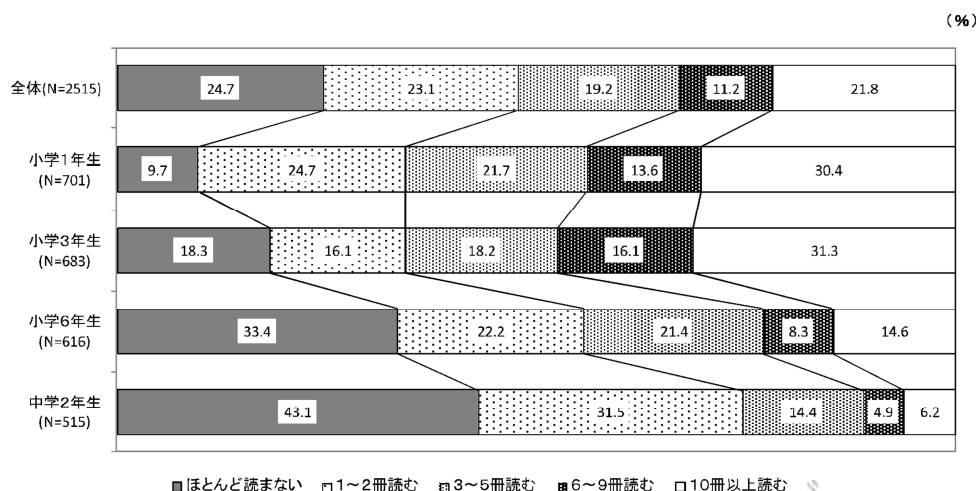
小学 6 年生では、前回は「ほとんど読まない」が 33.4%を示していましたが、今回（「ほとんど・全く読まない」）は 18.1%で、15.3 ポイントも低下しています。「6 冊から 9 冊」は 8.3%から 12.4%と 4.1 ポイント高くなっており、「10 冊以上」は 14.6%から 21.0%と 6.4 ポイントも高くなっています。

中学 2 年生でも同様の傾向がみられ、前回は「ほとんど読まない」が 43.1%と高い割合を示していましたが、今回（「ほとんど・全く読まない」）は 24.4%で、18.7 ポイントも低下しています。逆に「1 冊から 2 冊」は 31.5%から 37.0%と 5.5 ポイント高くなっており、「3 冊から 5 冊」でも 14.4%から 24.4%と 10.0 ポイントも高くなっています。

総じて、前回調査と比較すると、1 か月に読む本の冊数は大きく伸びています。

《参考》

図表 1-2-8 学年別、1 か月に読む本の冊数 [前回調査（平成 29 年）]



読書が好きかどうかの程度別に、1か月に読む本の冊数をみると、本が「好き」と回答した児童・生徒では、「10冊以上」が43.4%と最も多くを占め、全体の26.1%を17.3ポイントも上回っています。「6冊から9冊」も16.6%で全体の12.8%を3.8ポイント上回っています。本が「好き」と回答した児童・生徒は読む本の冊数が明らかに多くなっています。

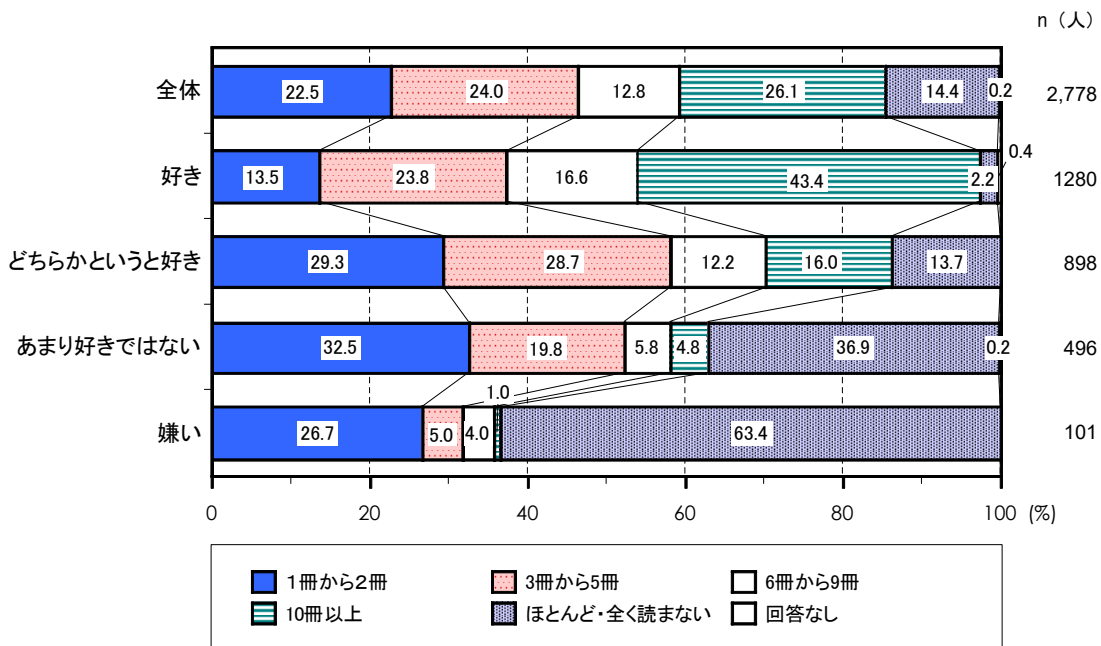
「どちらかという好き」と回答した児童・生徒では、「1冊から2冊」が29.3%、「3冊から5冊」が28.7%と多くを占め、これらが全体よりもそれぞれ6.8ポイント、4.7ポイント上回っています。

「あまり好きではない」と回答した児童・生徒では、「ほとんど・全く読まない」が36.9%と最も多くを占め、次いで「1冊から2冊」が32.5%となっています。

さらに「嫌い」と回答した児童・生徒では、「ほとんど・全く読まない」が63.4%と6割以上を占めています。

読書が「好き」な児童・生徒は読む本の冊数が多い一方で、「嫌い」な児童・生徒はほとんど・全く本を読んでいないといった傾向が端的に表れています。

図表 1-2-9 読書が好きか別、1か月に読む本の冊数



前回調査（平成 29 年）と比較すると、読書が「好き」と回答した児童・生徒については、「10 冊以上」が前回の 35.5%から今回は 43.4%となっており、7.9 ポイント高くなっています。

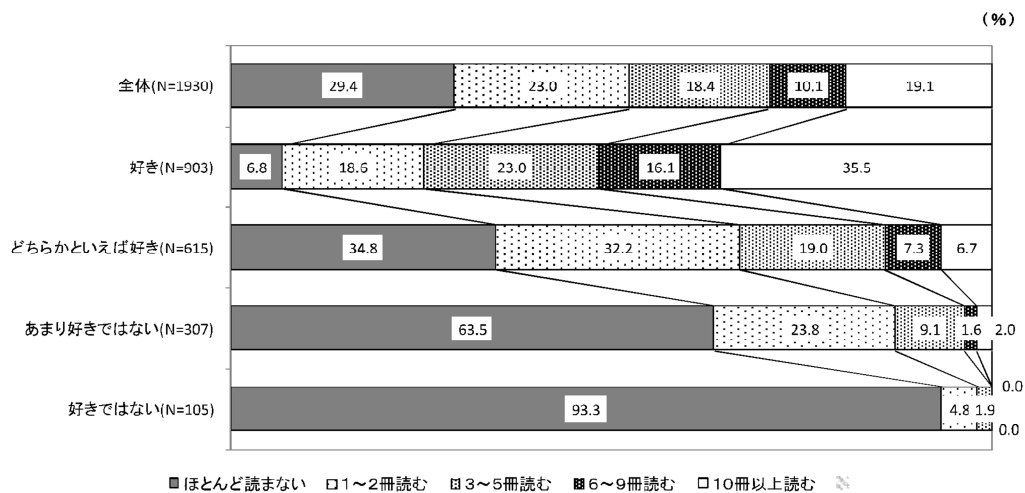
「どちらかといえば好き」と回答した児童・生徒については、「ほとんど・全く読まない（前回は「ほとんど読まない）」が 34.8%から 13.7%と 21.1 ポイントも低くなっており、逆に「3 冊から 5 冊」は 19.0%が 28.7%、「6 冊から 9 冊」は 7.3%が 12.2%、「10 冊以上」は 6.7%が 16.0%といずれも割合が高くなっています。

「あまり好きではない」あるいは「嫌い」と回答した児童・生徒については、「ほとんど・全く読まない（前回は「ほとんど読まない）」がそれぞれ、63.5%、93.3%と大きな割合を占めていましたが、それが 36.9%、63.4%となっており、26.6 ポイント、29.9 ポイントの大幅な低下をみせています。

前回調査と比較して、読書が「好き」か否かにかかわらず、読む本の冊数が増えている様子をつかうことができます。

《参考》

図表 1-2-10 読書が好きか別、1 か月に読む本の冊数 [前回調査（平成 29 年）]



(6) 本をほとんど・全く読まない理由

小学校アンケート 問9-2	「ほとんど・全く読まない」と答えた人はどうしてですか？
中学校アンケート 問8-2	

本を「ほとんど・全く読まない」と回答した児童・生徒にその理由をたずねたところ、全体では、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が30.1%で最も高くなっています。

これに次いで、「本に興味がない」が14.5%、「塾や習い事、部活動などで忙しい」と14.3%となっており、さらに、「マンガ（コミック）や雑誌を読みたい」の13.0%、「友達と遊びたい」の11.5%、「読みたい本がない」の11.0%と続いています。

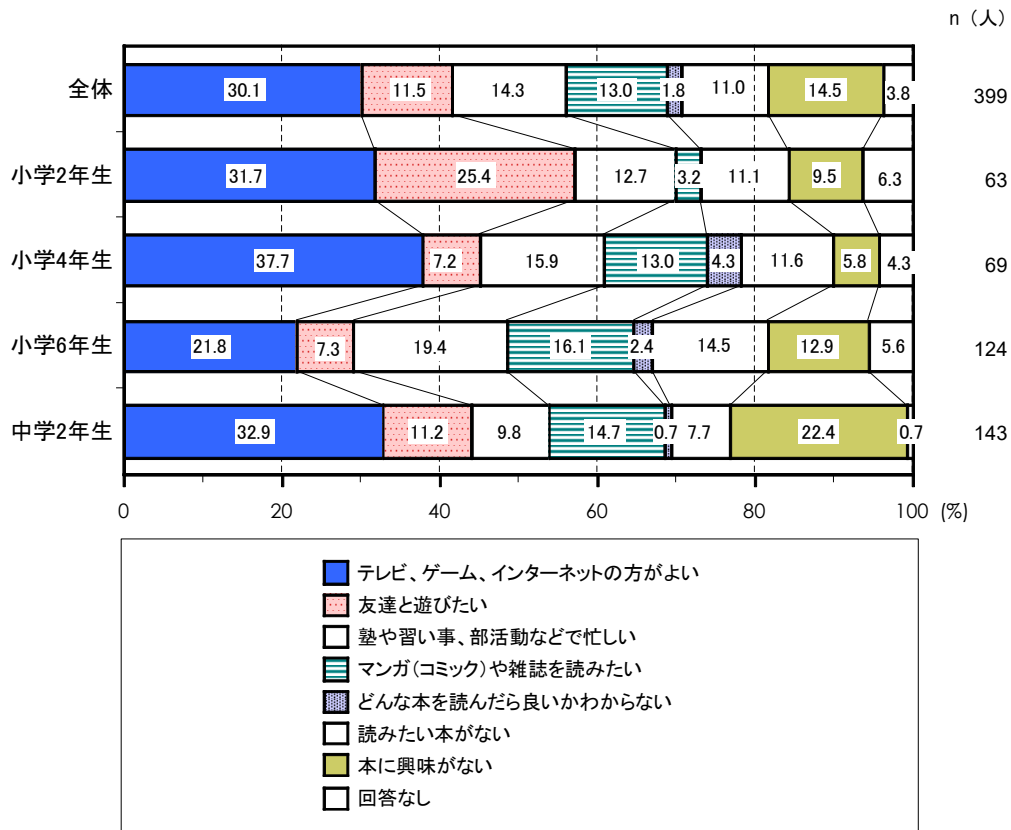
年齢別にみると、小学2年生では、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が31.7%と最も高いものの、「友達と遊びたい」が25.4%と相対的に高いことが特徴となっています。また、小学4年生では、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が37.7%を占め、他の学年と比べると最も高くなっています。

小学6年生では、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」は21.8%と相対的に低くなっており、「塾や習い事、部活動などで忙しい」の19.4%、「マンガ（コミック）や雑誌を読みたい」の16.1%、「読みたい本がない」の14.5%が相対的に高くなっています。

中学2年生では、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が32.9%で最も高いものの、次いで「本に興味がない」が22.4%を占めていることが特徴です。

いずれの学年であっても、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が最も大きな理由となっています。それに加え、小学2年生では「友達と遊びたい」、小学4年生・小学6年生では「塾や習い事で忙しい」、「マンガ（コミック）や雑誌を読みたい」ということが本を「ほとんど・全く読まない」大きな理由となっています。また、中学2年生では、「本に興味がない」ことも大きな理由となっています。

図表 1-2-11 学年別、本をほとんど・全く読まない理由



前回調査と比較すると、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」は、前は27.3%でしたが今回は30.1%となっており、2.8ポイント高くなっています。同様に「マンガ（コミック）や雑誌を読みたい」は8.8%が13.0%となっており4.2ポイント高くなっています。

小学2年生（前は小学1年生）では、前は「塾や習い事、部活動で忙しい」が30.1%と最も大きな割合を占めていましたが、それは12.7%にとどまり、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が31.7%と最も高くなっています。

小学4年生（前は小学3年生）では、前は「友達と遊びたい」が33.1%と最も大きな割合を占めていましたがそれは7.2%と大きく低下し、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が37.7%と最も高くなっています。

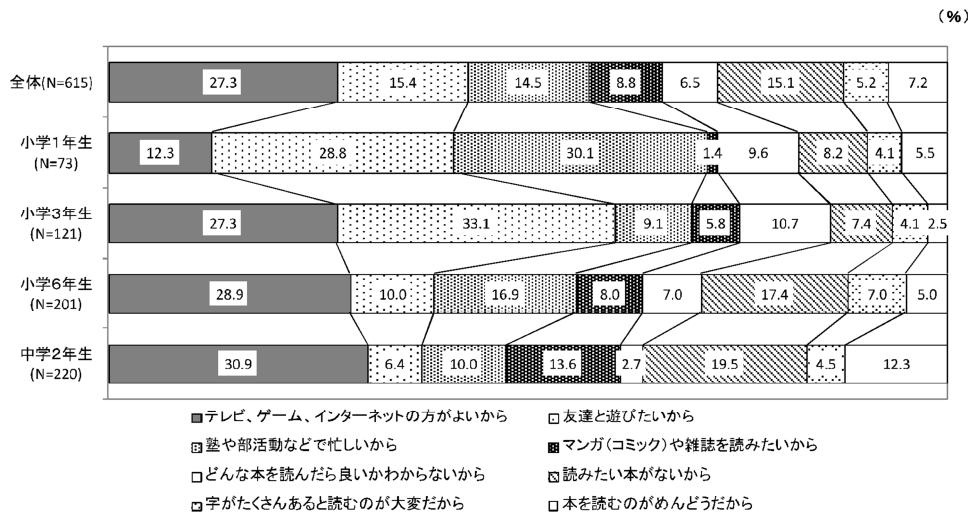
小学6年生では、前は「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が28.9%と3割近い割合を占めていましたが、それは21.8%とやや低下し、「塾や習い事、部活動で忙しい」の19.4%、「マンガ（コミック）や雑誌を読みたい」の16.1%が割合を高めています。

中学2年生では、前は「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい」が30.9%と約3割を占めていましたが、今回も32.9%と最も高くなっています。このほかでは「友達と遊びたい」が前回の6.4%から11.2%となっており、4.8ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、学年によってその様相はかなり変化しています。

《参考》

図表 1-2-12 学年別、本をほとんど・全く読まない理由 [前回調査 (平成 29 年)]



(7) 本を読むきっかけ

小学校アンケート 問5	あなたは、どんなきっかけで本を読むことが多いですか？ あてはまるものを2つ選んで下さい。
中学校アンケート 問4	

本を読むきっかけとしては、「本屋で見かけた」が43.3%で最も高くなっています。次いで、「家にあった」が35.8%、「学校の図書館・学級文庫で見かけた」が29.4%で、以上が上位3つとなっています。

この他では、「友だちにすすめられた」の17.6%、「家族が教えてくれた」の16.2%、「中央図書館で見かけた」の15.5%、「テレビ・インターネットで見かけた」の14.5%といった順に高くなっています。

学年別にみると、小学2年生では、「家にあった」が46.4%で最も高くなっています。次いで、「本屋で見かけた」の34.6%、「学校の図書館・学級文庫で見かけた」の30.6%、「中央図書館で見かけた」の21.3%となっており、相対的に「家にあった」、「学校の図書館・学級文庫で見かけた」、「中央図書館で見かけた」が高いことが特徴です。

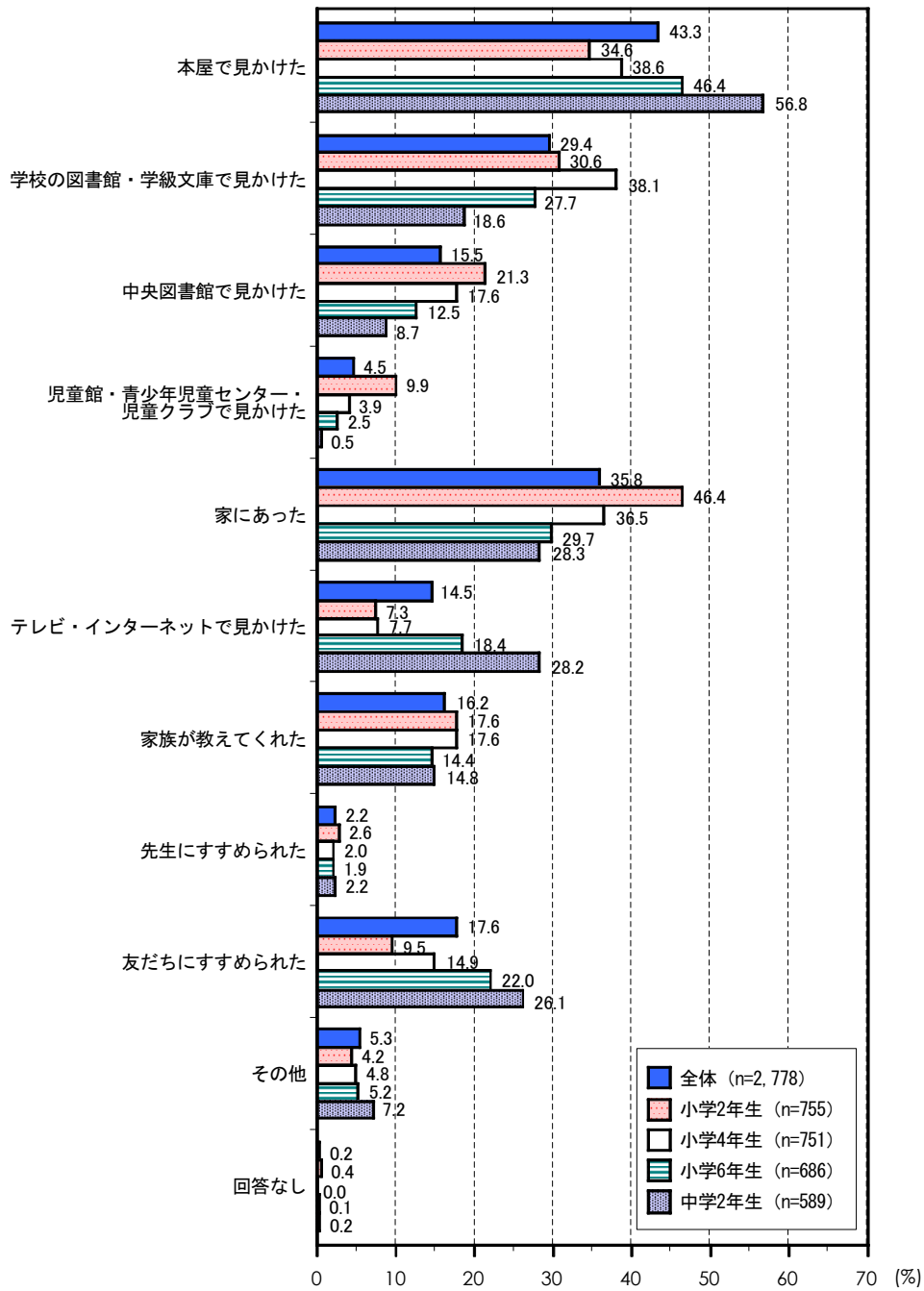
小学4年生では、「本屋で見かけた」が38.6%、「学校の図書館・学級文庫で見かけた」が38.1%、「家にあった」が36.5%となっており、上位3つが拮抗しています。相対的に「学校の図書館・学級文庫で見かけた」が高いことが特徴です。

小学6年生では、「本屋で見かけた」が46.4%で最も高くなっています。次いで、「家にあった」が29.7%、「学校の図書館・学級文庫で見かけた」が27.7%、「友だちにすすめられた」が22.0%となっています。

中学2年生では、「本屋で見かけた」が56.8%で学年別にみても最も高くなっています。次いで、「家にあった」が28.3%、「テレビ・インターネットで見かけた」が28.2%となっています。

小学6年生、中学2年生になると、「本屋で見かけた」がそれぞれ46.4%、56.8%と高くなること、また、「友だちにすすめられた」がそれぞれ22.0%、26.1%、「テレビ・インターネットで見かけた」がそれぞれ18.4%、28.2%と高くなることなどが特徴です。

図表 1-2-13 学年別、本を読むきっかけ - 複数回答 -



前回調査（平成 29 年）とは学年も選択肢も同一ではないので単純な比較は難しいですが、全体で見ると、「学校の図書館・学級文庫で見かけた」は前回の 41.7%から 29.4%となっており、12.3 ポイント低くなっています。

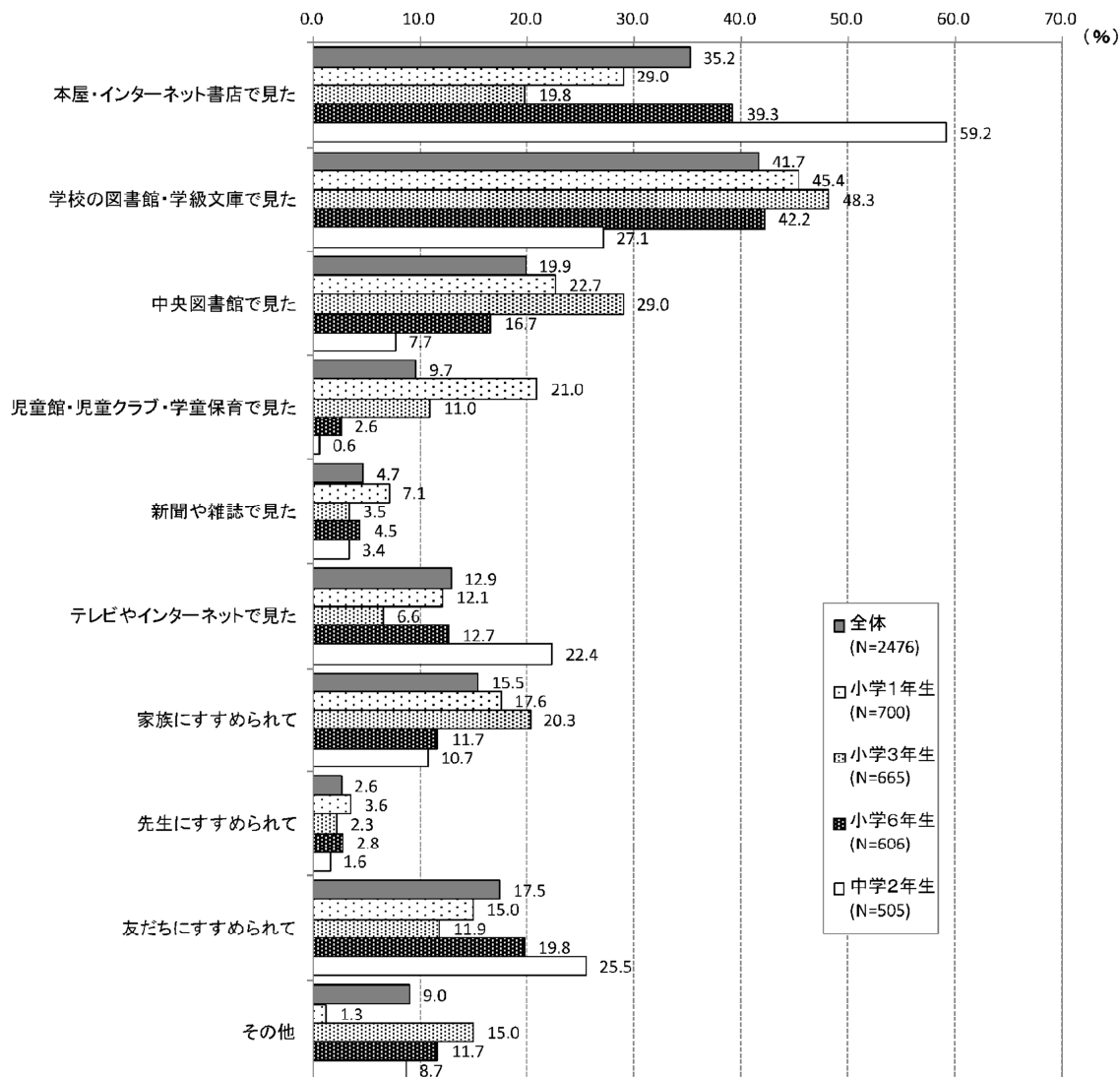
また、「中央図書館で見かけた（前は「中央図書館を見た）」は、前回の 19.9%に対し今回は 15.5%で 4.4 ポイントの低下、「児童館・青少年児童センター・児童クラブで見かけた（前は「児童館・児童クラブ・学童保育を見た）」が前回の 9.7%から 4.5%と 5.2 ポイントの低下となっています。

その一方で、「本屋で見かけた（前は「本屋・インターネット書店を見た）」が前回の 35.2%から 43.3%と 8.1 ポイント高くなっています。

中央図書館や学校・児童館等の図書館・図書室といった公的な施設をきっかけとしている割合は低下しており、「本屋で見かけた」の割合が大きく伸びています。

《参考》

図表 1-2-14 学年別、本を読むきっかけ [前回調査 (平成 29 年)] - 複数回答 -



(8) どの本をよく読むか

小学校アンケート 問6	どこにある本をよく読みますか？一番あてはまるものを1つ選んでください。
中学校アンケート 問5	

全体では、「自分の家の本」が 50.5% でほぼ半数を占めています。次いで、「学校の図書館」の 27.4%、「中央図書館」の 8.5% が高くなっています。

学年別にみると、小学校 2 年生や小学校 4 年生では、「自分の家の本」がそれぞれ 39.2%、45.3% と最も高いものの、「学校の図書館」もそれぞれ 37.6%、37.4% と 4 割近くの割合を示しています。また、「中央図書館」もそれぞれ 11.7%、8.8% と相対的に高い割合を示しています。

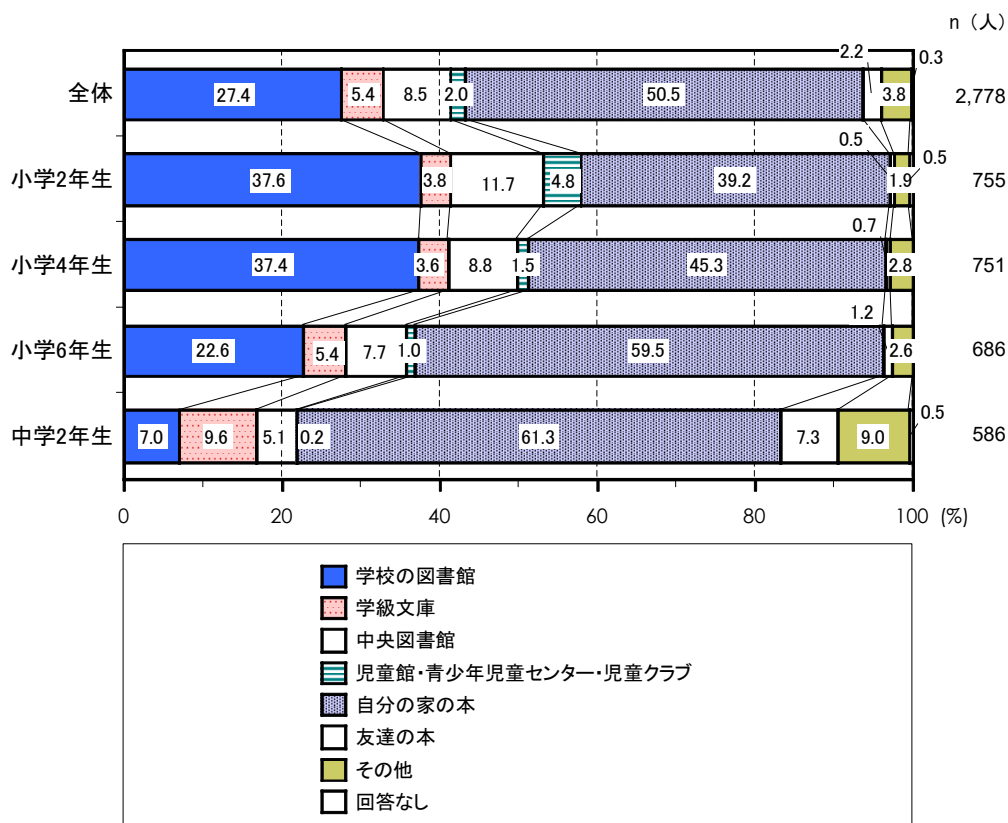
加えて、小学 2 年生では、「児童館・青少年児童センター・児童クラブ」

も 4.8%と相対的に高い割合を示しています。

「学校の図書館」、「学級文庫」、「中央図書館」、「児童館・青少年児童センター・児童クラブ」を合わせた割合は、小学 2 年生で 57.9%、小学 4 年生で 51.3%といずれも 5 割を上回っています。

小学 6 年生になると、「自分の家の本」が 59.5%と高い割合を占めるようになり、中学 2 年生になるとその割合は 61.3%とさらに高くなっています。

図表 1-2-15 学年別、どこの本をよく読むか

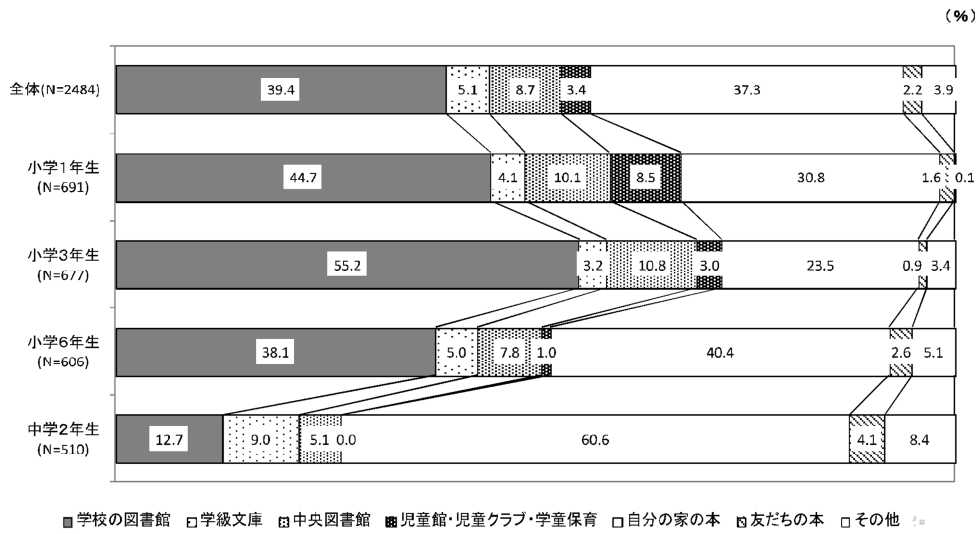


前回調査（平成 29 年）と全体を比較すると、「自分の家の本」は前回の 37.3%が今回は 50.5%となっており、13.2 ポイントも高くなっています。一方、「学校の図書館」は前回の 39.4%が 27.4%となっており、12.0 ポイントの低下となっています。学校の図書館の割合が下がり、その分、自分の家の本の割合が伸びています。

「学校の図書館」の割合の変化を学年別にみていくと、小学 2 年生（前回 は小学 1 年生）は 44.7%から 37.6%と 7.1 ポイントの低下、小学 4 年生（前回 は小学 3 年生）は 55.2%から 37.4%と 17.8 ポイントの低下、小学 6 年生は 38.1%から 22.6%と 15.5 ポイントの低下、中学 2 年生は 12.7%から 7.0%と 5.7 ポイントの低下となっており、すべてで低下しています。とくに小学 4 年生、小学 6 年生での低下が顕著です。

《参考》

図表 1-2-16 学年別、どこの本をよく読むか [前回調査 (平成 29 年)]



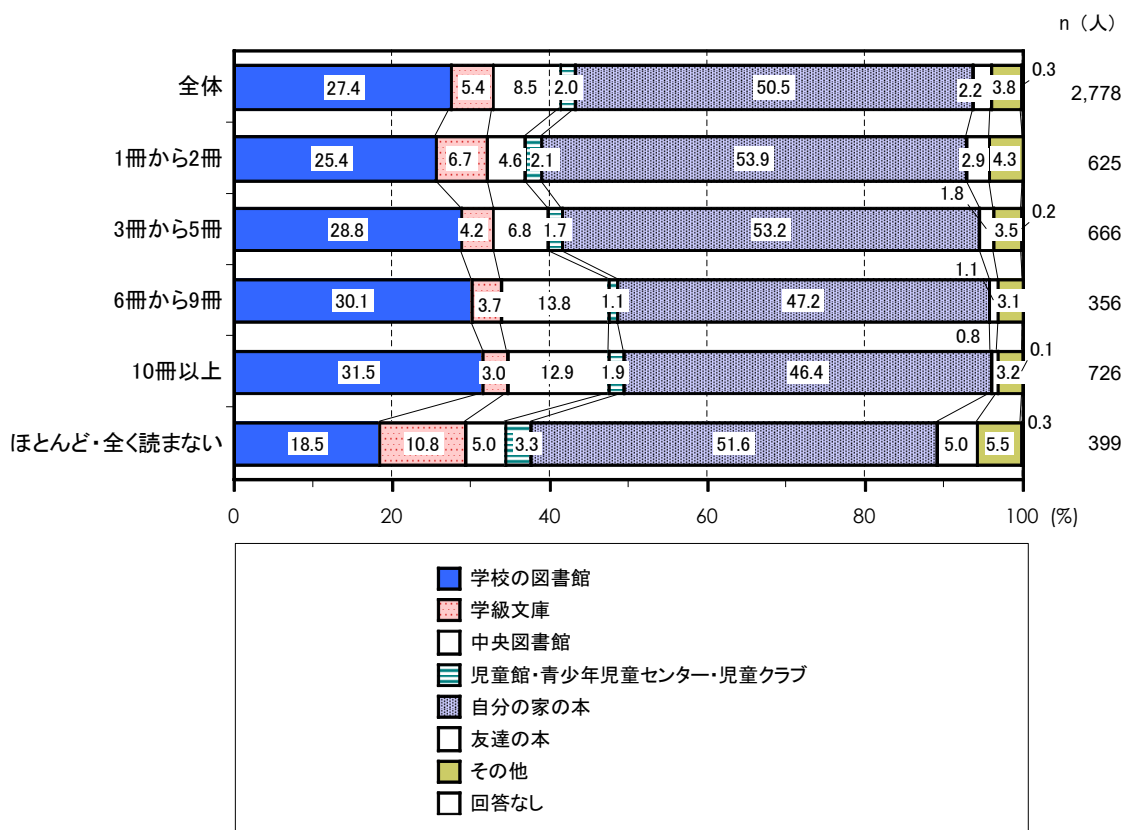
1か月に読む本の冊数別にみると、読む本の冊数がいずれであっても「自分の家の本」が最も多くを占めています。

しかし、「6冊から9冊」では、「自分の家の本」は47.2%と5割を下回るようになり、「学校の図書館」が30.1%、「中央図書館」が13.8%と相対的に高い割合を示しています。

「10冊以上」でも同様に、「自分の家の本」は46.4%と5割を下回り、「学校の図書館」が31.5%、「中央図書館」が12.9%と相対的に高い割合を示しています。

1か月に読む本の冊数が多い児童・生徒は、学校の図書館や中央図書館の本を読む割合が高くなっています。

図表 1-2-17 1か月に読む本の冊数別、どこの本をよく読むか



前回調査（平成 29 年）との比較で「学校の図書館」の変化を 1 か月に読む本の冊数別にみると、「ほとんど・全く読まない（前は「ほとんど読まない）」では前は 24.5%でしたが今回は 18.5%で 6.0 ポイント低下しています。

同様に、「1 冊から 2 冊」では 30.5%が 25.4%と 5.1 ポイントの低下、「3 冊から 5 冊」では 46.2%が 28.8%と 17.4 ポイントの低下、「6 冊から 9 冊」では 54.4%が 30.1%と 24.3 ポイントの低下、「10 冊以上」が 53.0%から 31.5%と 21.5 ポイントの低下と、いずれも大きく低下させています。

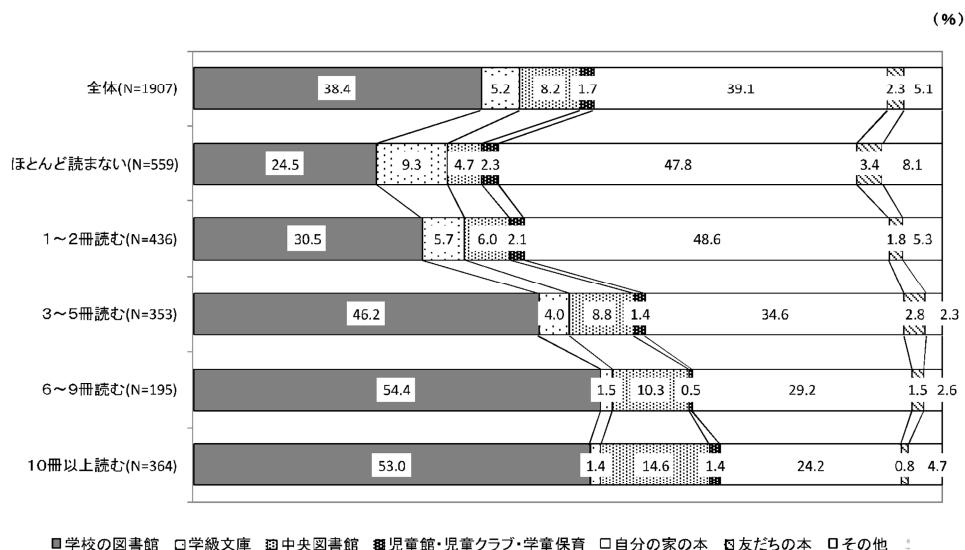
一方、「自分の家の本」の変化をみると、「ほとんど・全く読まない」では前は 47.8%でしたが今回は 51.6%で 3.8 ポイント上昇しています。

同様に、「1 冊から 2 冊」では 48.6%が 53.9%と 5.3 ポイントの上昇、「3 冊から 5 冊」では 34.6%が 53.2%と 18.6 ポイントの上昇、「6 冊から 9 冊」では 29.2%が 47.2%と 18.0 ポイントの上昇、「10 冊以上」が 24.2%から 46.4%と 22.2 ポイントの上昇と、こちらはいずれも大きく上昇させています。

前回調査では、1 か月に読む本の冊数が多い児童・生徒ほど、「学校の図書館」の本を読む傾向がはっきりとみられましたが、その傾向は前回ほど明確にはみられません。「自分の家の本」を読む傾向が強くなっています。

《参考》

図表 1-2-18 1 か月に読む本の冊数別、どこの本をよく読むか [前回調査（平成 29 年）]



(9) 家で本を読む時間

小学校アンケート 問7	1日に家で本を読む時間はどれくらいですか？
中学校アンケート 問6	

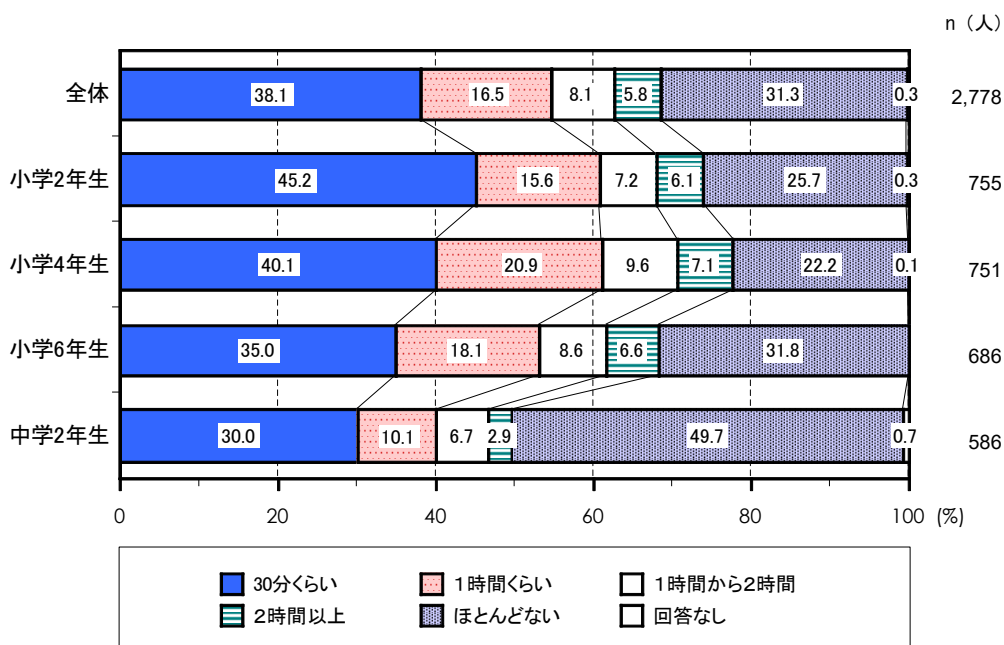
全体では、「30分くらい」が38.1%で最も多くなっています。「1時間くらい」は16.5%、「1時間から2時間」は8.1%、「2時間以上」は5.8%で、これらをあわせた『1日に家で本を読んでいる』は概ね7割程度(68.5%)となっています。

学年別にみると、小学2年生では「30分くらい」が45.2%、小学4年生では40.1%で、この2学年は「30分くらい」が全体の38.1%を上回っています。また、小学校4年生では「1時間くらい」も20.9%と相対的に高くなっています。

小学2年生と小学4年生では、『1日に家で本を読んでいる』はそれぞれ74.1%、77.7%で、ともに7割を上回っています。小学6年生は、全体の傾向とほぼ同様の結果を示しています。

中学2年生では、「ほとんどない」が49.7%と半数を上回っています。学年が高くなるにつれて、家で本を読む時間は減っている状況にあることがわかります。

図表 1-2-19 学年別、家で本を読む時間



(10) 家でゲーム、テレビ、パソコンを見る時間

小学校アンケート 問8	1日に家でゲームやテレビ、パソコン（スマホ、タブレット含む）を見る時間はどれくらいですか？
中学校アンケート 問7	

全体では、「2時間以上」が29.9%で最も多くなっています。次いで、「1時間から2時間」が24.7%、「1時間くらい」が24.4%、「30分くらい」が14.8%となっています。

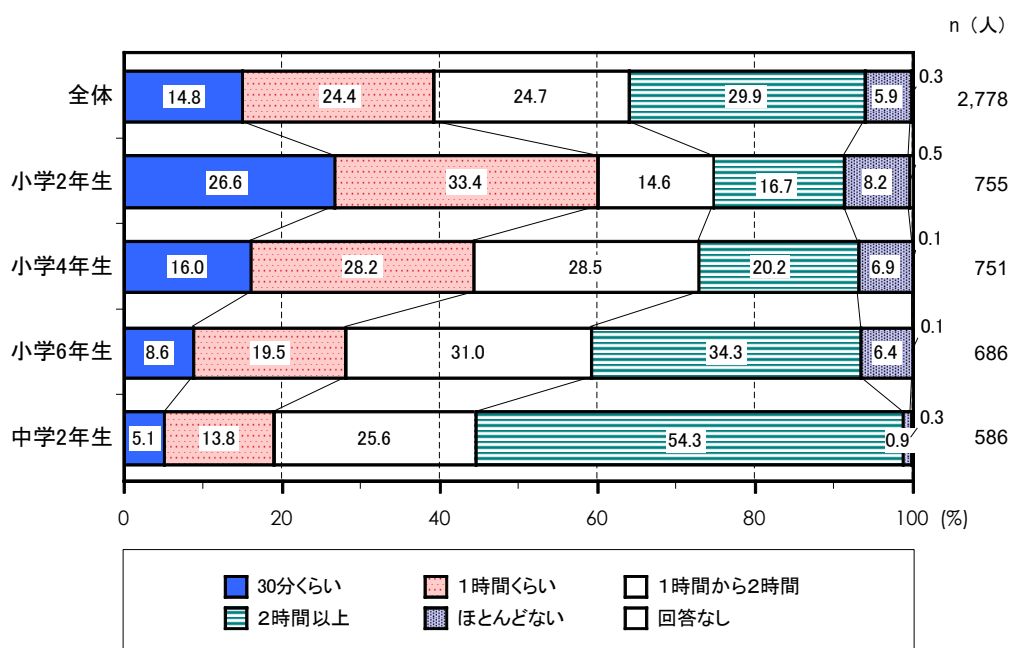
学年別にみると、小学2年生では「30分くらい」の26.6%、「1時間くらい」の33.4%が全体と比較して高く、『1時間くらいまで』が60.0%と6割を占めています。

小学4年生では「30分くらい」の16.0%、「1時間くらい」の28.2%、「1時間から2時間」の28.5%が全体と比較してやや高く、「2時間以上」は20.2%と低くなっています。

小学6年生になると、「1時間から2時間」が31.0%、「2時間以上」が34.3%となり、全体を上回るようになっていきます。家でゲーム、テレビ、パソコンを見る時間が小学6年生あたりから長くなっている様子がうかがえます。

さらに、中学2年生になると、「2時間以上」が54.3%と5割以上を占めるようになり、家でゲーム、テレビ、パソコンを見る時間はさらに長くなっています。

図表 1-2-20 学年別、家でゲーム、テレビ、パソコンを見る時間



(11) 電子書籍を読んだ経験

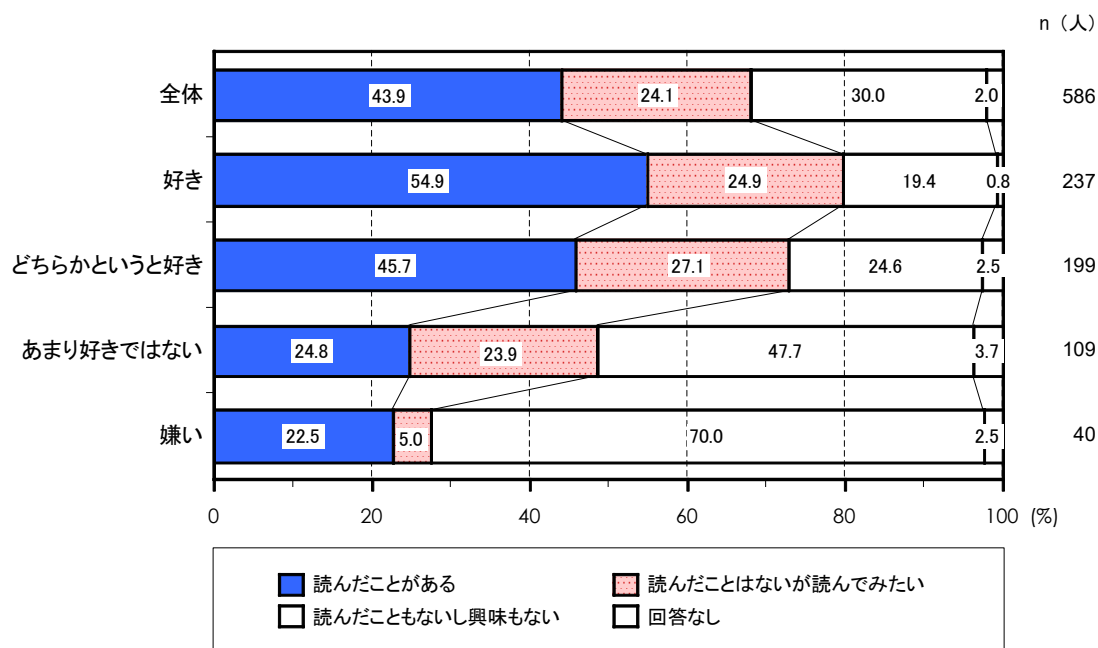
中学校アンケート 問9 あなたは、電子書籍を読んだことはありますか？

全体では、電子書籍を「読んだことがある」は43.9%で4割以上を占めています。「読んだことはないが読んでみたい」は24.1%、「読んだこともないし興味もない」は30.0%となっています。

読書が「好き」と回答した生徒では、電子書籍を「読んだことがある」は54.9%と高く、「どちらかというが好き」と回答した生徒でも45.7%と相対的に高くなっています。

読書が「好き」な生徒ほど、電子書籍を読んだ経験が高いという傾向がみられます。

図表 1-2-21 読書が好きか別、電子書籍を読んだ経験 - 中学2年生 -

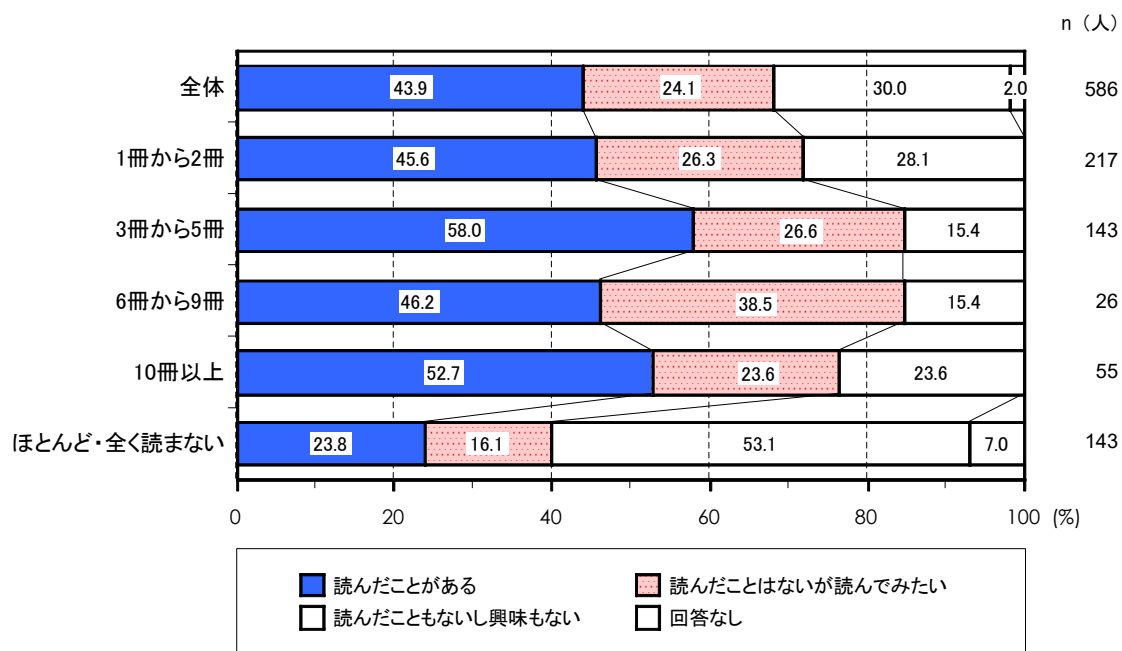


1か月に読む本の冊数別にみると、電子書籍を「読んだことがある」は「3冊から5冊」で58.0%、「10冊以上」で52.7%となっています。

一方、「1冊から2冊」でも45.6%、「6冊から9冊」でも46.2%となっており、この結果をみる限り、1か月に本を読む冊数と電子書籍を読んだ経験に相関関係はみられません。

なお、本を「ほとんど・全く読まない」では、電子書籍を「読んだことがある」は23.8%となっています。読書の習慣がない生徒でも、その4人に1人は電子書籍を読んでいることとなります。

図表 1-2-22 1か月に読む本の冊数別、電子書籍を読んだ経験 - 中学2年生 -



(12) 1か月に中央図書館へ行く回数

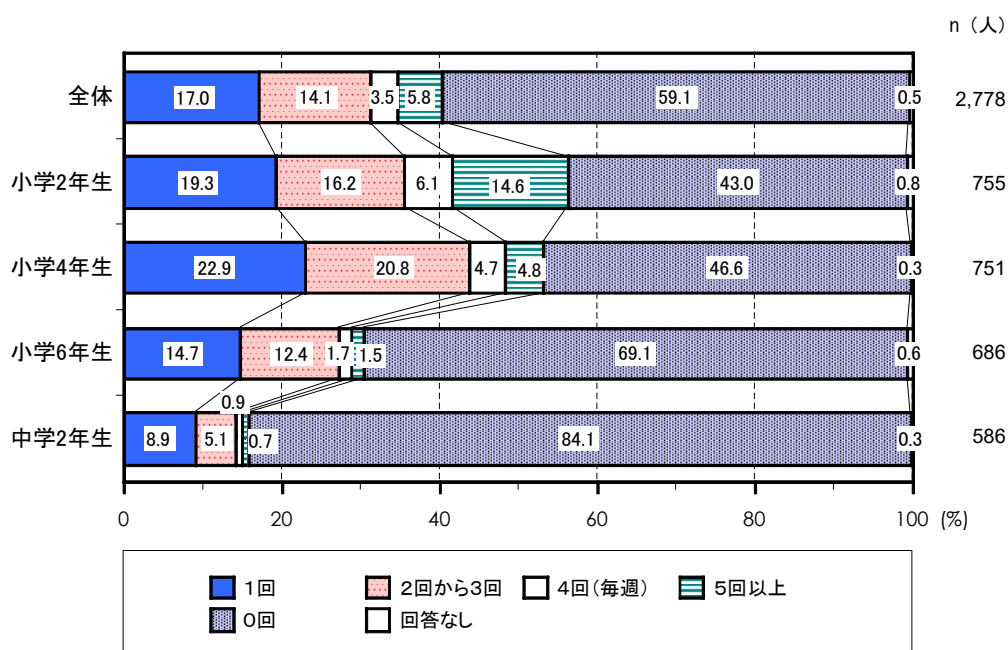
小学校アンケート 問 10	あなたは、1か月のうち中央図書館へ何回行きますか？
中学校アンケート 問 10	

全体では、「0回」が59.1%で最も多くなっています。「1回」が17.0%、「2回から3回」が14.1%、「4回」が3.5%、「5回以上」は5.8%です。中央図書館を利用（月に1回以上利用）しているのは40.4%と約4割となっています。

中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合をみていくと、小学2年生は56.2%、小学4年生は53.2%と5割を超えており、中央図書館へ出向く回数は相対的に多くなっています。とくに小学2年生では、「4回（毎週）」が6.1%、「5回以上」が14.6%あり、約2割（20.7%）は毎週またはそれ以上の頻度で中央図書館に出向いています。

小学6年生では、中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合は30.3%、中学2年生では15.6%となっており、学年が上がるほど中央図書館に出向く回数が少なくなる傾向がみられます。

図表 1-2-23 学年別、1か月に中央図書館へ行く回数



[小学校]

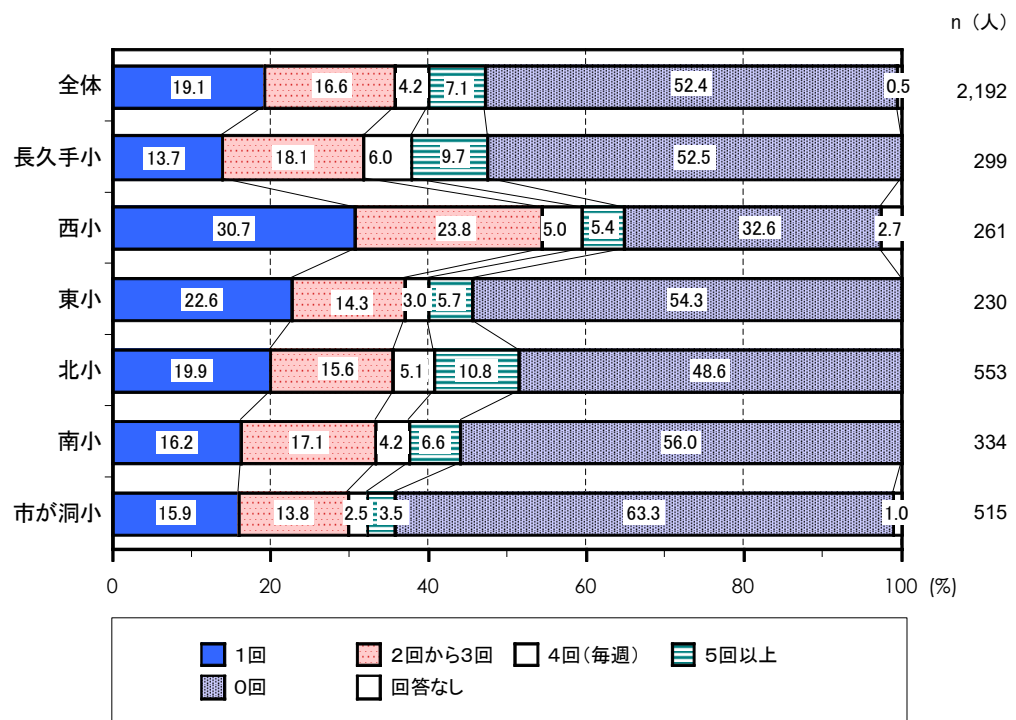
小学校についてみていくと、小学校全体では、「0回」が52.4%で最も多くなっています。「1回」が19.1%、「2回から3回」が16.6%、「4回」が4.2%、「5回以上」は7.1%です。中央図書館を利用（月に1回以上利用）しているのは47.0%となり、児童の半数近くになります。

学校別に中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合をみていくと、最も高いのは西小の64.9%となっています。次いで、北小の51.4%です。この2校は利用している児童が半数を超えています。

続いて、長久手小の47.5%、東小の45.6%、南小の44.1%となっており、最も低いのは市が洞小の35.7%となっています。

距離的に中央図書館に近い西小、北小、長久手小で利用する割合が高くなっています。

図表 1-2-24 学校別、1か月に中央図書館へ行く回数 -小学校-

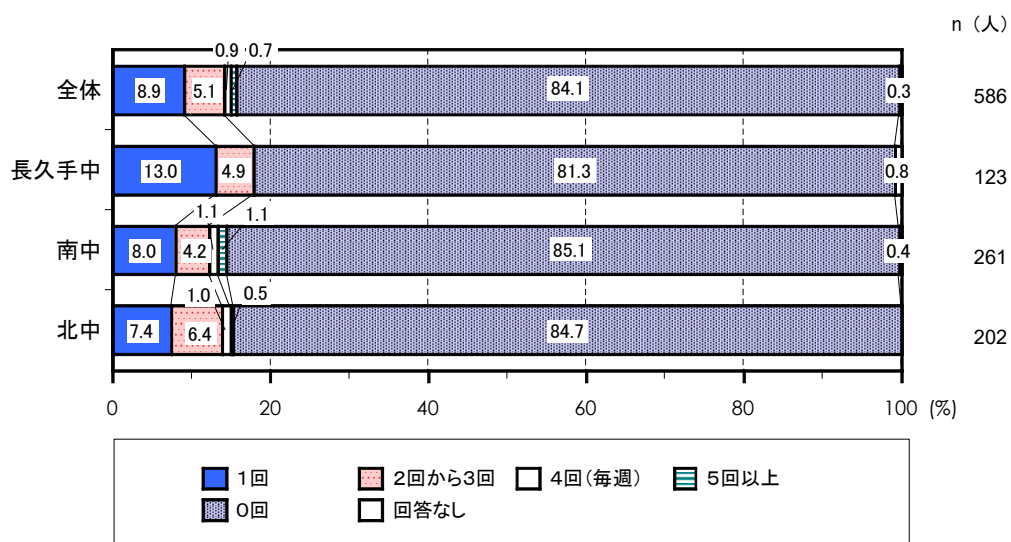


[中学校]

中学校についてみると、全体では、「0回」が84.1%と8割以上の高い割合を示しています。「1回」が8.9%、「2回から3回」が5.1%、「4回」が0.9%、「5回以上」は0.7%です。中央図書館を利用（月に1回以上利用）しているのは15.6%となっています。おおまかにみて生徒の6人に1人といった割合です。

学校別に中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合をみていくと、長久手中が17.9%、次いで北中が15.3%、南中が14.4%となっています。

図表 1-2-25 学校別、1か月に中央図書館へ行く回数 -中学校-



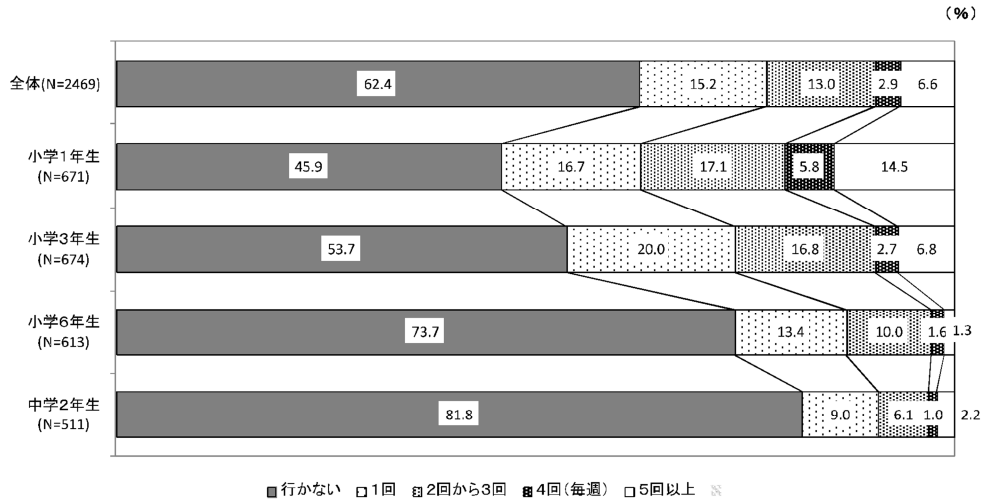
前回調査では「0回」は62.4%で、今回の59.1%と大差はありません。

中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合の変化を学年別でみておくと、小学2年生（前は小学1年生）では前回54.1%に対し今回は56.2%で2.1ポイントの増加、同様に小学4年生（前は小学3年生）では46.3%に対し53.2%で6.9ポイントの増加、小学6年生では26.3%に対し30.3%で4.0ポイントの増加となっており、中央図書館を利用している児童が増えています。

一方、中学2年生については、前は18.3%に対して今回は15.6%で、2.7ポイント低くなっています。利用している生徒はわずかですが減っています。

《参考》

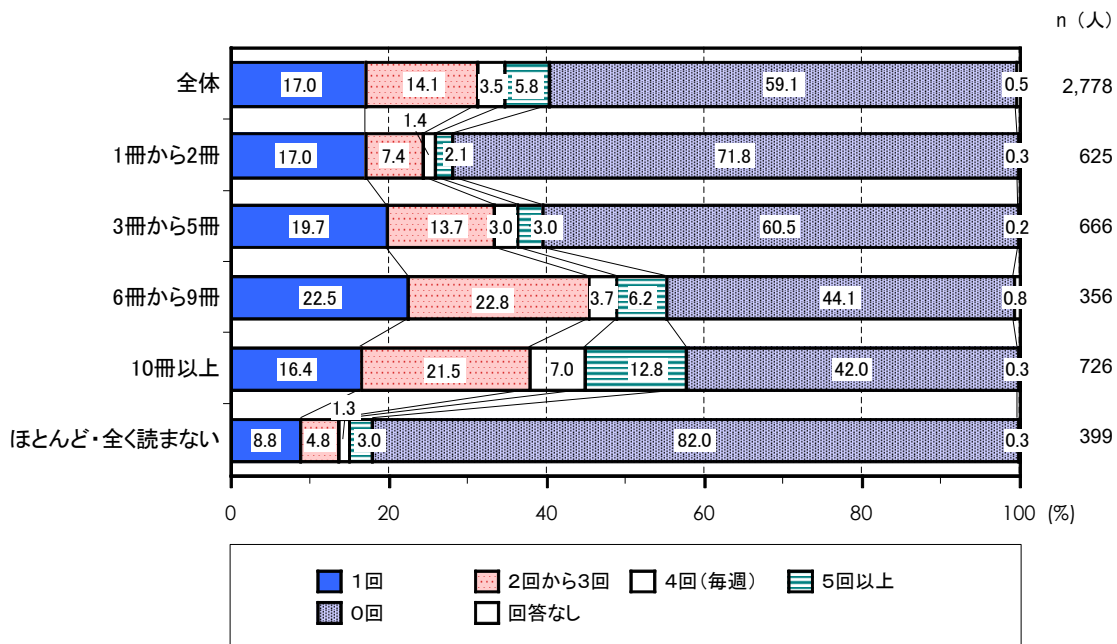
図表 1-2-26 学年別、1か月に中央図書館へ行く回数 [前回調査（平成29年）]



1か月に読む本の冊数別に、中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合をみると、「1冊から2冊」では27.9%、「3冊から5冊」では39.4%、「6冊から9冊」では55.2%、「10冊以上」では57.7%となっており、1か月に読む本の冊数が多いほど中央図書館を利用している割合は高くなるという傾向が顕著です。

とくに、「6冊から9冊」では、「4回（毎週）」が3.7%、「5回以上」が6.2%で、『毎週またはそれ以上』の頻度で中央図書館に行っている者の割合が約1割（9.9%）になっています。さらに「10冊以上」になるとその割合は約2割（19.8%）と非常に高くなっていることが特徴的です。

図表 1-2-27 1か月に読む本の冊数別、1か月に中央図書館へ行く回数

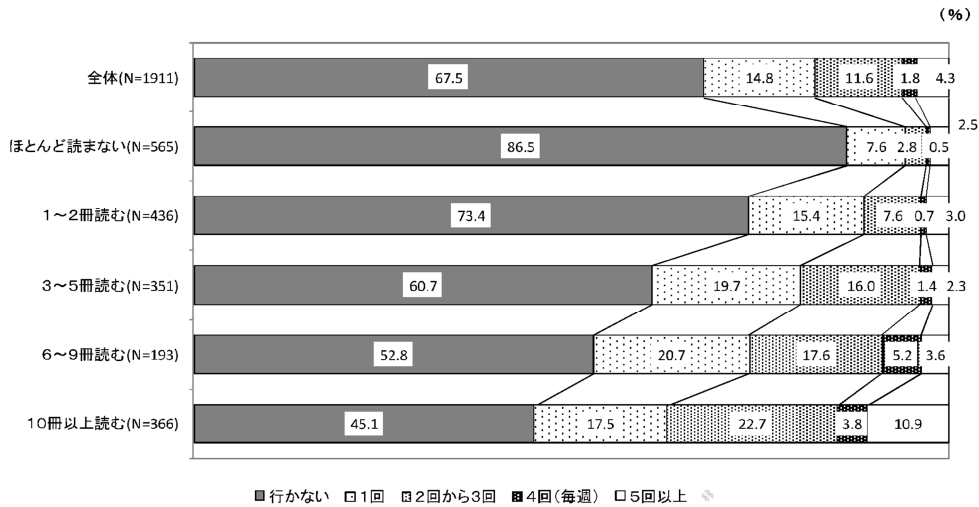


中央図書館を利用（月に1回以上利用）している割合を前回調査と比較すると、「1冊から2冊」では前回26.7%に対して今回は27.9%で1.2ポイントの増加、「3冊から5冊」では前回も今回も39.4%で変化なし、「6冊から9冊」では47.1%に対し55.2%で8.1ポイントの増加、「10冊以上」では54.9%に対し57.7%で2.8ポイントの増加となっています。

1か月に読む本の冊数別に前回調査との比較をみると、中央図書館を利用している割合は、「3冊から5冊」を除いてやや増加する傾向にあります。

《参考》

図表 1-2-28 1か月に読む本の冊数別、1か月に中央図書館へ行く回数 [前回調査 (平成 29 年)]



(13) 読書手帳への記載

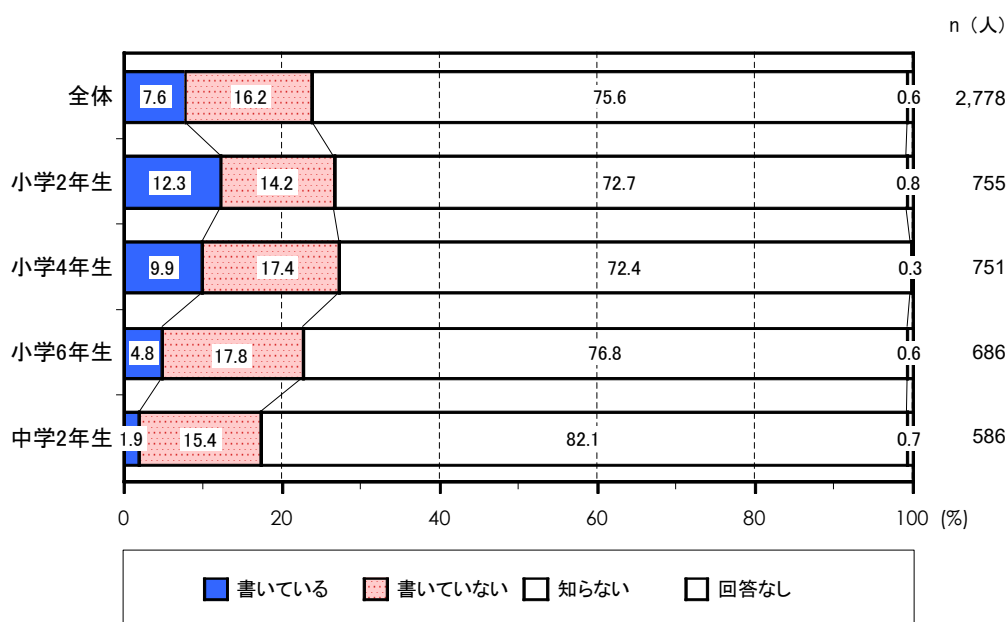
小学校アンケート 問 11	中央図書館で配布している「読書手帳」に本の題名などを書いていますか？
中学校アンケート 問 11	

中央図書館で配布している「読書手帳」を「知らない」が75.6%で7割以上を占めています。また、「読書手帳」に本の題名などを「書いている」は7.6%、「書いていない」は16.2%となっています。

「書いている」の割合は、小学2年生で12.3%、小学4年生で9.9%、小学6年生で4.8%、中学2年生で1.9%となっています。

小学校2年生・4年生あたりまでは「書いている」が1割前後を占めていますが、小学6年生、中学2年生と学年が高くなるにつれ、本の題名などを書く者はごく少数（5%以下）に限られています。

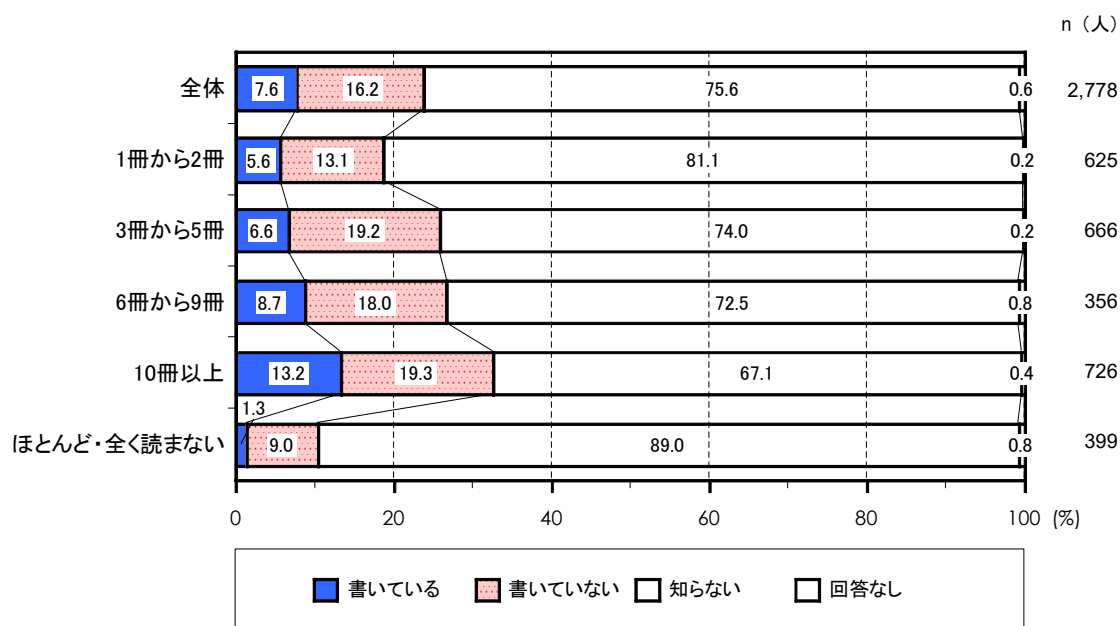
図表 1-2-29 学年別、読書手帳への記載



1か月に読む本の冊数別にみていくと、「読書手帳」に本の題名などを「書いている」の割合は、「1冊から2冊」では5.6%、「3冊から5冊」では6.6%、「6冊から9冊」では8.7%、「10冊以上」では13.2%となっています。本を多く読んでいる児童・生徒ほど、読書手帳を活用している傾向がみられます。

ただし、「10冊以上」本を読んでいる児童・生徒でも、「書いている」は13.2%、「書いていない」は19.3%で、「書いていない」方が6.1ポイント上回っています。

図表 1-2-30 1か月に読む本の冊数別、読書手帳への記載

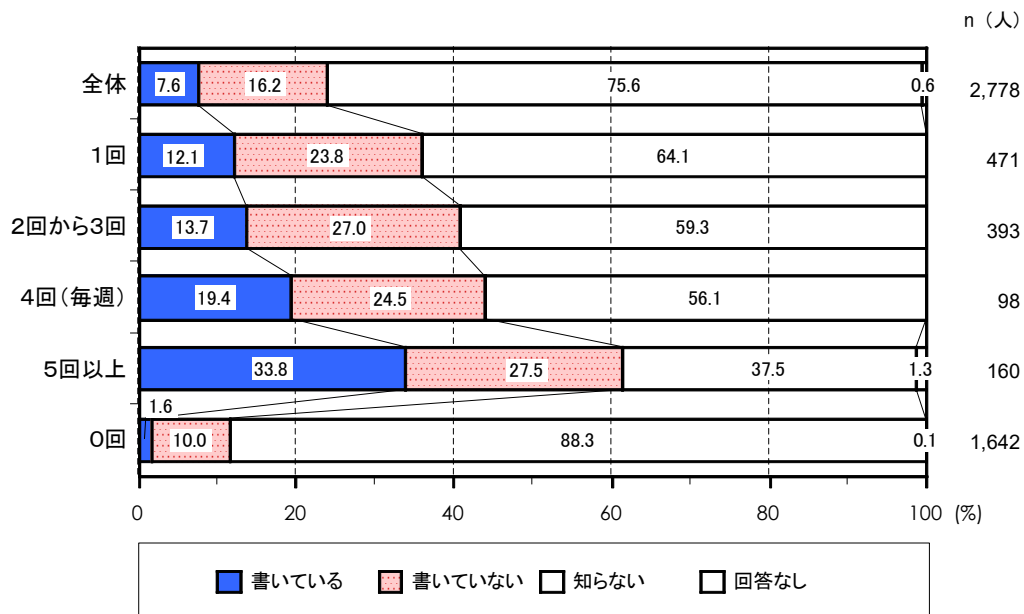


1か月に中央図書館へ行く回数別にみていくと、「読書手帳」に本の題名などを「書いている」の割合は、「1回」では12.1%、「2回から3回」では13.7%、「4回（毎週）」では19.4%、「5回以上」では33.8%となっています。中央図書館を訪れる回数が多い児童・生徒ほど、読書手帳を活用している傾向が顕著に表れています。

「5回以上」中央図書館を訪れている児童・生徒になると、「書いている」は33.8%、「書いていない」は27.5%で、「書いている」方が6.3ポイント上回るようになっています。

ただし、「5回以上」と頻りに中央図書館を訪れている児童・生徒であっても、読書手帳を「知らない」が37.5%と4割近くを占めています。

図表 1-2-31 1か月に中央図書館へ行く回数別、読書手帳への記載



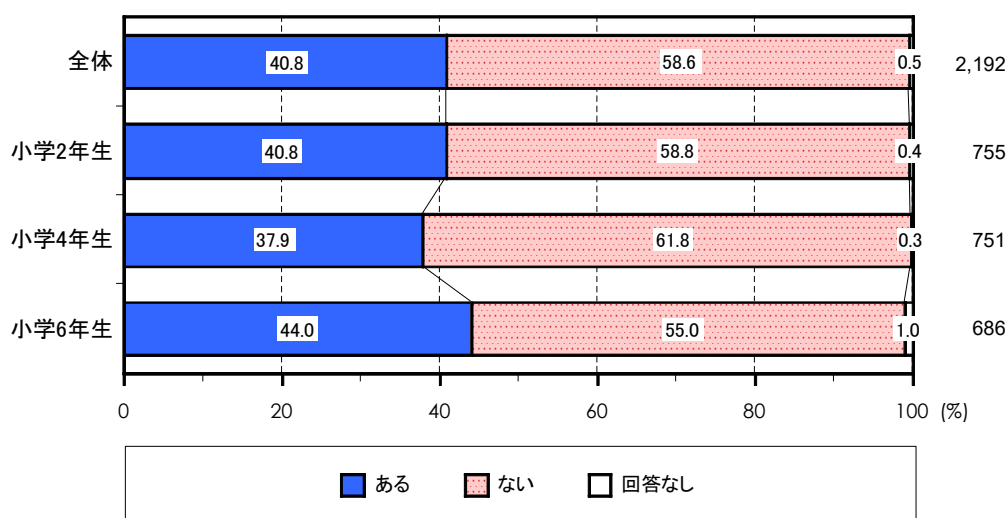
(14) 調べ物のために本を借りた経験

小学校アンケート 問 12	宿題の答えなど調べものをするために図書館や学校の図書室の本を借りたことはありますか？
---------------	--

全体で見ると、「ある」は40.8%、「ない」は58.6%で、調べ物のために本を借りた経験があるのは約4割となっています。

小学6年生では、「ある」が44.0%とやや高くなっていますが、学年による顕著な相違はみられません。

図表 1-2-32 学年別、調べ物のために本を借りた経験 - 小学2・4・6年生 -



(15) Y・Aコーナーの認知・利用状況

中学校アンケート 問 12	中央図書館にある「Y・A (ヤング・アダルト) コーナー」を知っていますか？また、そのコーナーの本を借りたことはありますか？
---------------	--

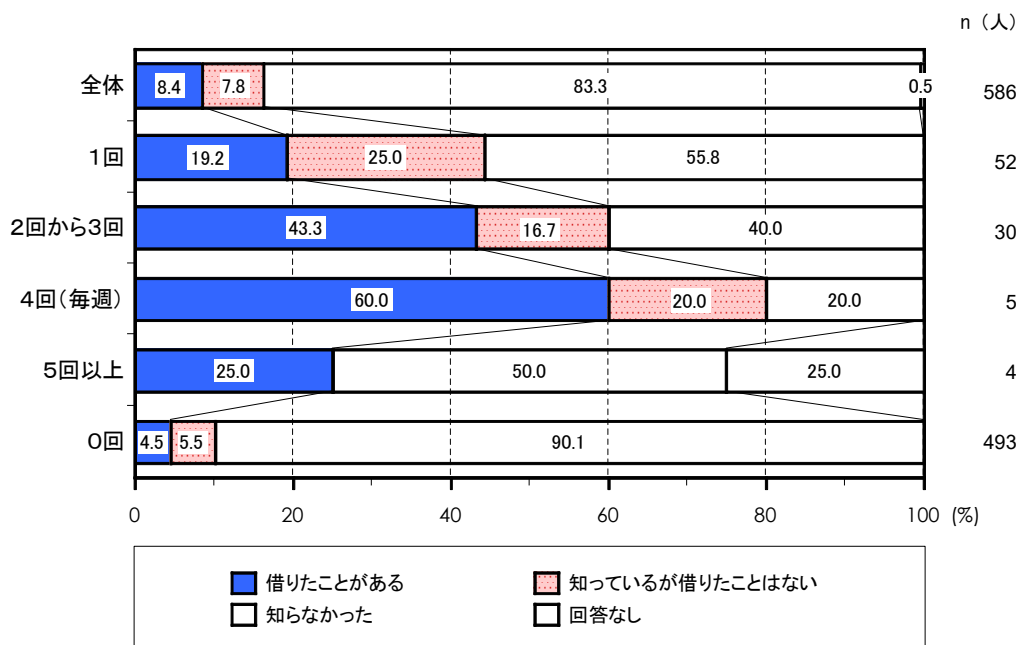
中学2年生全体でみると、「借りたことがある」は8.4%で、「Y・Aコーナー」の本を借りたことがある生徒は1割未満となっています。

「借りたことがある」の8.4%と「知っているが借りたことはない」の7.8%を合わせた割合は16.2%で、「Y・Aコーナー」の認知度はおおむね6人に1人程度の割合となっています。

1か月に中央図書館へ行く回数ごとに「借りたことがある」の割合をみると、「1回」では19.2%、「2回から3回」では43.3%、「4回(毎週)」では60.0%となっており、1か月に中央図書館へ行く回数が多い生徒ほど、Y・Aコーナーの本を借りていることがわかります。

図表 1-2-33 1か月に中央図書館へ行く回数別、Y・Aコーナーの認知・利用状況

- 中学2年生 -



(16) 本を読むことで得られる影響

中学校アンケート 問 13	本を読むことで人にどのような影響があると思いますか？あてはまるもの全てを選んでください。「その他」を選んだ人は()の中になるべくわかりやすく書いてください。
---------------	---

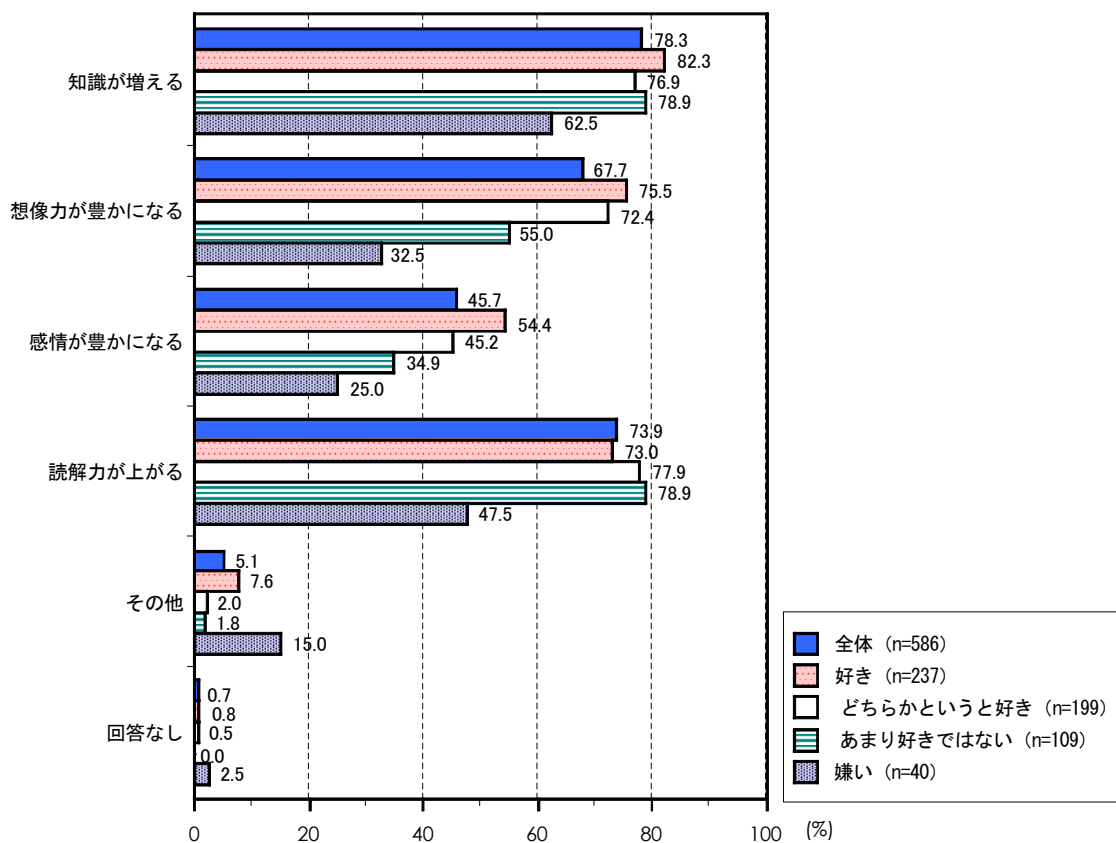
全体では、「知識が増える」が78.3%で最も多く、次いで、「読解力が上がる」が73.9%となっています。この2つは7割を超えています。

さらに、「想像力が豊かになる」の67.7%、「感情が豊かになる」の45.7%が続いています。

読書が「好き」と回答した生徒では、「知識が増える」が82.3%で全体の78.3%を4.0ポイント上回っています。また、「想像力が豊かになる」が75.5%で全体の67.7%を7.8ポイントも上回っています。

読書が「嫌い」と回答した生徒では、「知識が増える」は62.5%、「読解力が上がる」は47.5%、「想像力が豊かになる」は32.5%、「感情が豊かになる」は25.0%で、いずれも全体の値を大きく下回っています。本を読むことで得られる影響をあまり感じていない様子が見えます。

図表 1-2-34 読書が好きか別、本を読むことで得られる影響 - 複数回答 -
- 中学2年生 -



(17) 中央図書館ホームページでよく見る項目

中学校アンケート 問 14	中央図書館のホームページのどの項目をよく見ますか？一番あてはまるもの1つを選んでください。「その他」を選んだ人は（ ）の中にわかりやすく答えを書いてください。
---------------	---

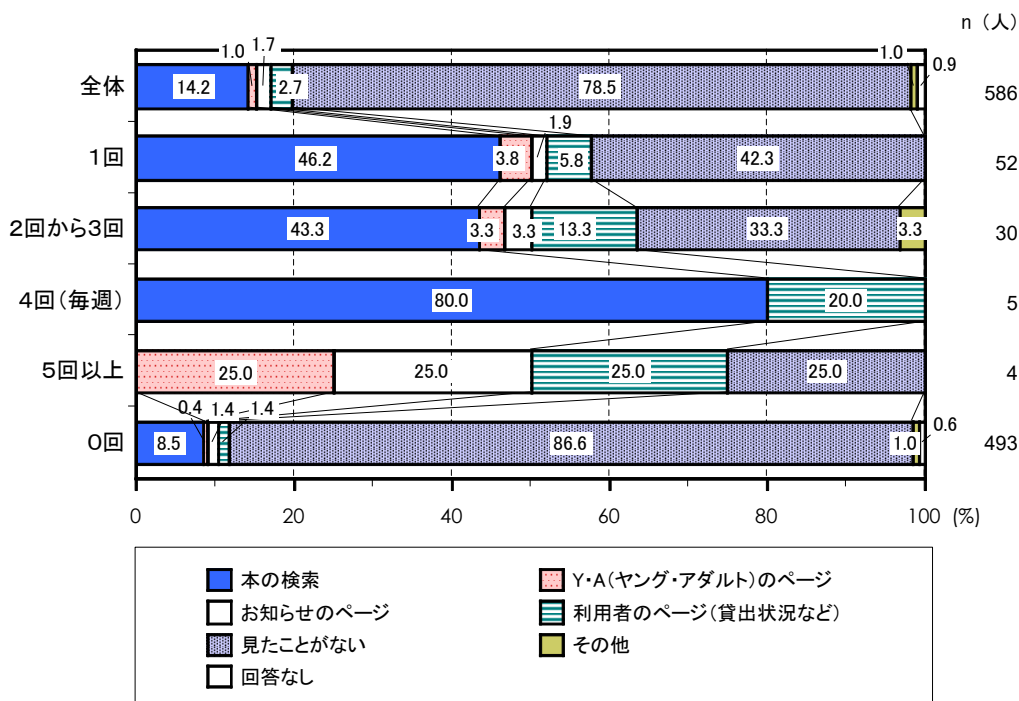
全体で見ると、「見たことがない」が78.5%で最も多くなっています。中学生の約8割は中央図書館ホームページを見ていません。次に多いのは、「本の検索」の14.2%となっています。

中央図書館に1か月に1回以上行く生徒をみると、「見たことがない」という生徒は少数となり、『見たことがある』生徒の方が多くなっています。

ホームページを『見たことがある（「本の検索」、「Y・Aのページ」、「お知らせのページ」、「利用者のページ」の計）』の割合は、1か月に中央図書館へ行く回数が「1回」では57.7%、「2回から3回」では63.2%、「4回（毎週）」では100.0%、「5回以上」では75.0%となっています。中央図書館に行く回数が多い生徒ほど、ホームページを『見たことがある』は増加する傾向がみられます。

図表 1-2-35 1か月に中央図書館へ行く回数別、中央図書館ホームページでよく見る項目

- 中学2年生 -



(1) 市民団体(ボランティア団体アンケート)

・朗読の会 吾亦紅 ・なんじゃもんじゃ

・読み聞かせボランティア(個人) ・点字サークル ・Ladybug

【質問①】 現在行っている活動の問題点や課題はありますか。

・有 (4 団体) ・無 (1 団体)

(有を回答した場合) 具体的な内容

- ・会員数が少ない。
- ・会員が高齢化している。
- ・若い会員の参加が待ち望まれる。
- ・今まで「おはなし会なんじゃもんじゃ」活動して下さった方が高齢になり、おやめになったので活動人数が減りました。新たな一緒に活動して下さる方々を探しています。
- ・一般の方に点字の重要性を理解してもらおう一方、視覚障がい者との接点が少ない。
- ・参加者が少なくなっていること
- ・子どもの年齢 (小学生の数が少ない)
(以前、参加者の低年齢化のことをお話しされていた。団体としては乳幼児よりも小学校に入る・入らないくらいの子に来てほしいとのこと)

【質問②】 今後5年間で新たにできる読書に関する活動はありますか。

・有 (3 団体) ・無 (2 団体)

(有を回答した場合) 具体的な内容

- ・読み聞かせ動画を増やしていきたい。
- ・講談。
- ・子どもを対象に講談を体験してもらおう。
- ・参加型の読み聞かせ (特に子どもたち)

【質問③】 長久手市中央図書館と連携はとれていますか。

・とれている (5 団体) ・とれていない (0 団体)

(「とれていない」を回答した場合) その理由

・ -

【質問④】 子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> ・情緒豊かな物語、おはなしに触れあう機会を増やす。 ・紙芝居、読み聞かせ、劇等を生で聞いて感じたり考えたりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが本を読むことが楽しいと思うこと（いけない事は本の感想を聞いたり、本を読むよう命令すること）
<ul style="list-style-type: none"> ・身近に読みやすい本がある事 （読みやすい本：表紙が面白い等、手に取りやすい）
<ul style="list-style-type: none"> ・点字の読めない視覚障がい児のために触れる本を充実させる一方で、小学校などの図書室に置き、児童たちに触れてもらって身近に感じてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ（家庭、保健所、幼稚園、学校、図書館など） ・図書館に来てもらうこと（できれば親子で） ・保護者への働きかけ（ホームページ、市の広報、SNSの活用など）

【質問⑤】 第3次長久手市子ども読書活動推進計画に対する意見
<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会に参加する子ども達の低年齢化。乳児、幼児が増えている。 ・父親の参加も増えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しい、好きな本に出会える機会がたくさんある事 ・そのような本に出会えるリストがいつもある事 ・長久手市は歴史などある市などで理解できること（小牧・長久手の戦い、長久手市の昔話・伝説歴史的な寺などの理解）
<ul style="list-style-type: none"> ・動画やゲームを楽しむことが多くなっている子ども達、本を読んでページをめくって次の世界が広がることを経験してほしい。

【その他 中央図書館に伝えたいこと】
<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の幼児おはなし会のアンケート等改善点などあったら、新しいものを取り入れていきたい。教えていただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長に本というすばらしいものに出会い、生涯、読書が生きる事のお手伝いができる場所なので、1人でも多くのお子さんに伝えたい。その場所が中央図書館だと思ふ。
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示のコーナーに点字本を展示したり、今はコロナ禍で無理でしょうが、将来図書館で制作作業などを実演したいです。

(2) 関係機関(児童発達支援センターヒアリング)

【質問①】 現在行っている読書に関する活動の問題点や課題はありますか。
・有
(有を回答した場合) 具体的な内容
・実際の年齢と精神年齢が違うため、選書に苦労している。絵本を読み聞かせた際の反応を見てその本が適しているか分かる。実際の年齢よりも低い対象年齢の本を読むことが多い。
【質問②】 今後5年間で新たにできる読書に関する活動はありますか。
・無
(現状)
・朝の会と帰りの会で絵本の読み聞かせをしている。どちらかの会で、2週間同じ本を読む。何回も繰り返し読むことで話の展開を覚えるため、次の展開が分かり楽しんでいる様子だった。もう一方の回はそれぞれの先生が選んだ絵本を読んでいる。読む本は購入したものや“すぎのご教室”から寄付されたもの。
【質問③】 子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと
・それぞれの子どもに合わせて絵本の読み聞かせをすること。 ・2歳児には1対1でその子のペースに合わせて読み聞かせ、3歳以上の子は保育園や幼稚園の練習もかねて大勢で読み聞かせている。色の活動をするときは色に関する絵本、数の活動をするときは数に関する絵本を読み聞かせるなどそのときのテーマにあった絵本を選んでいる。
【質問④】 第3次長久手市子ども読書活動推進計画に対する意見
・通常、クラスの担任が絵本の読み聞かせをしているが、たまに担任以外が読み聞かせをすることがある。いつもと違う人物が読み聞かせをすることは児童にとって新鮮なようで、通常より集中して話を聞いている様子だった。図書館からも読み聞かせボランティアに来てもらって読み聞かせをしてもらえるといいと思う。
【その他 中央図書館に伝えたいこと】
・保護者の方から、育児・教育についての本をネットで買ったが、内容が思っていたものと違って捨ててしまったと聞いた。図書館にも育児や教育に関する本があると聞いたので、今度からは図書館に行ってみよう保護者にアドバイスしたいと思う。

(1) 児童館6館・子育て支援センター1館(アンケート)

【質問①】 現在行っている読書に関する活動の問題点や課題はありますか。
(児童館) ・有 (5館) ・無 (2館)
(有を回答した場合) 具体的な内容
・図書室で落ち着いて読書をしたい子のスペースを確保してあげられない時もあるので、図書室だけではなく、館内の他の場所の使用の仕方でも検討し読書しやすい環境を整える。
・コロナ禍で、図書室を児童クラブに開放しているため静かに読書ができる状態ではないです。
・幼児を対象に読み聞かせを行っているが、興味を示さないお子さんにはどのような対応をしていくとよいでしょうか？ ・読書する場所が狭い (コロナ禍で椅子を減らしている)
・平常時は来館者が年齢、興味に応じて自由に絵本を手にとってもらえたが、新型コロナ対策の消毒対応ため、担当が選定した 20 冊程度のみでの提供となっていること。 (R2.3~8 まで図書コーナー閉鎖、R3.8 下旬より冊数制限の上で提供) ・平常時は毎日 11:15~スタッフ (保育士) による読み聞かせを実施していたが、現在はコロナ対策のため中止している。今のところ、再開の目処は立っていない。
【質問②】 今後 5 年間で新たにできる読書に関する活動はありますか。
・有 (4館) ・無 (3館)
(有を回答した場合) 具体的な内容
・幼児さんの保護者対象のちょっとした絵本講座 ・小学生対象のブックトーク？
・図書館の方を招いての読み聞かせ会をやれたらうれしいです(本の紹介等)。
・本棚には余裕があり、来館者のリクエストで少しずつ本を増やしていく予定です。 ・レトロに興味があるとの意見から『昭和の本コーナー』の設置に取り組んでいます。 ・小中学生からのリクエストで、恋愛小説やアニメが小説になっているのを読みたいとのリクエストも聞かれるので、いくつかのコーナーがある本棚にしていきたいと考えています。
・図書館職員による本の紹介、読み聞かせ活動 (乳幼児親子、小学生向け)。 ※児童館と図書館の連携として、新たに企画実施できないだろうか。 ・地域の読み聞かせ団体、ボランティアさんの紹介。 ※児童館にて読み聞かせ活動を実施いただける団体をご紹介いただけないでしょうか。

【質問③】 長久手市中央図書館と連携はとれていますか。
・とれている（5館） ・とれていない（1館） ・回答なし（1館）
（「とれていない」を回答した場合）その理由
・特に連携を必要とする計画や、事業等が無かったため。 （絵本の消毒方法について、質問をした程度はあり）

【質問④】 子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと
・読書したくなる環境作りをしていく。ただ図書を並べるだけでなく工夫する。
・図書室の本を充実させる。 ・絵本の読みきかせをする。 ・年齢にあった本の紹介をする。 ・新作の紹介をする。
・やっと本の貸し出しを再開したばかりです。小学生の一般来館者が非常に少なく、じっくり本を読もうという子どもが居ない状態です。ただ時間つぶしのために本をペラペラ触っているだけで、本を大切にしようと言う気持ちがないように思います。 ・幼児向けには読み聞かせの時間を作っていますが、読み聞かせをして下さる方が日と時間を決めて来館していただくと、小さいうちからもっと本に親しんでもらう機会が増えるのかなと思います。
・小さいころからの読書経験。 ・良い本を選んで紹介する。 ・図書館に行ったら好きなジャンルの本を好きなだけ読むことができることを教えていきたい。
・図書コーナーに様々な種類の図書を設置し、その展開方法を工夫する。 （年齢、学年別のおすすめ図書の紹介、時期や季節のおすすめ図書の紹介、貸し出し数ランキングなど） ・子ども（小学生）自ら本を読む習慣をつけたい。そのために児童館スタッフはその時間と空間を提供していく。
・保護者を含め、絵本を身近に感じてもらうこと。 ・そのためには、読み聞かせを含め絵本を含めた「おはなし」に触れる機会を増やすことが必要であると考えられる。 ・電子書籍が拡大する中で、紙の絵本の良さを感じてもらうこと。

【質問⑤】 第3次長久手市子ども読書活動推進計画に対する意見
・読書手帳については、初めて知ったので児童館でもお知らせできる機会もあるかと思っています。 ・児童館でのボランティアによる読み聞かせについて書かれていたので、楽しみにしています。
・児童館への本の貸し出し制度が良い。 ・2年に一度の入れ替えが1年ごとになったらさらにうれしいです。

【その他 中央図書館に伝えたいこと】
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館連携では、小学生に人気の図書を入れて頂き助かっています。今後も続けて頂きたいです。また、幼児向けの絵本も親子で楽しく繰り返し読んでいる様子が見られ、ありがたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対して研修をして頂けるとうれしいです。 (年齢にあった本の紹介、読みきかせの仕方、本の修繕の方法、種類の分け方(陳列の仕方・見せ方)、廃棄本に関する知識 等)
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに「この本を読んでほしい」という図書も揃えたいですが、「今子どもが読みたいと思っている本」を教えていただくと図書の購入の参考になります。
<p>(児童館の利用者さんからのご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読んだ後、図書館横の芝生広場で小さい子が遊べて良い。 ・共生ステーションなどで返却できるのが良い。 ・日進市のような貸し出しシステムがわかりやすくてよい。 ・図書館内の本を読むスペースが狭い。蔵書数を増やしてほしい。 ・図書館と文化の家をひとつの施設にして本を読むスペースを確保してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも素敵なお本を児童館へ設置くださり、ありがとうございます。その際、来館者(乳幼児親子・小学生)へ新しく設置した本の紹介や本の読み聞かせ等を実施いただくことは可能でしょうか。 ・「④子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと」に関して、私たち児童館スタッフの声掛けはもちろん、ぜひとも図書館職員の皆様の声を子どもたちに届けることができますと幸いです。 ・地域の読み聞かせ団体、ボランティアさんをご紹介いただくことは可能でしょうか。児童館では乳幼児親子向けの活動として、児童館スタッフが絵本の読み聞かせを実施しております。児童館スタッフのみならず、地域の読み聞かせ団体、ボランティアさんがみえましたら、ぜひご紹介いただきたく存じます。
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の絵本(主に0歳～3歳)の新刊やおすすめの本など、本についての情報を定期的にいただくと、有難い。限られた冊数しか提供できないので、選定するときの参考としたい。 ・平常になった場合、図書コーナーの整備についてアドバイスをいただきたい。 ・読み聞かせはスタッフ(保育士)でも可能だが、可能であればより専門性を持った司書さんに保護者向けに講演(育児講座やサロン内)を行ってもらうことができれば、ぜひ検討したい。

(2)保育園11園(私立保育園含む)幼稚園2園(アンケート)

【質問①】 現在行っている読書に関する活動の問題点や課題はありますか。
(保育園・幼稚園) ・有(7園) ・無(6園)
(有を回答した場合) 具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で絵本の貸し出しができていない。 ・子どもにとって絵本は大切な存在であることを保護者の方に啓蒙できていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染予防のため、週1回行っていた貸し出し絵本を中止している。 ・子どもが自ら選んで家庭に持ち帰った絵本を見ることで、親子の時間が持っていた。 ・仕事に忙しく絵本に関心の無い保護者でも、自分の子がどのような傾向の絵本に興味を持っているのかが、貸し出し絵本を通してわかってくるが、中止をしていることで、保護者の意識が薄くなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・園児の本の取り扱いに問題あり。破損が増え、修繕が追いつかない。本を大切に扱うことを身につけさせたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で絵本を多く取り入れていきたいが、ある程度消耗品のように買い替えていく必要があり、整備に時間と費用がかかる。
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本・紙芝居の保管場所が少ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・手に取っていろいろな絵本を見てもらいたいが、年齢が小さい事もあり、傷みもひどく、厚い紙の絵本しか置けない。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもでも出し入れしやすい、本を選びやすい本棚の設置 ・本を大切に扱うことを伝える。
【質問②】 今後5年間で新たにできる読書に関する活動はありますか。
・有(2園) ・無(11園)
(有を回答した場合) 具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・図書コーナーの設置 ：長湊東保育園は令和8年度に閉園が決定しており、令和5年度から順次1部屋ずつ空きの保育室ができてくることが予想される。その空き保育室を利用して、園児がいつ利用してもいい図書コーナーを設置することが可能になる。各保育室に分散している本を1箇所に集め、沢山の本に囲まれた環境を作ることで、興味・選択の幅が広がるため、可能であれば実行したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の提供の仕方や読み聞かせのコツなどを研修を通して学んだり、絵本から遊びを展開していくなど遊びの幅を広げていきたい。
【質問③】 長久手市中央図書館と連携はとれていますか。
・とれている(4園)・とれていない(7園)・どちらも選択(2園)

<p>（「とれていない」を回答した場合）その理由</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・北保育園の時に絵本の貸し出しをしていただき感謝はしていますが、園にもある絵本だったり活用し切れていなかったり、何より絵本が行き交うだけで意見交換などの場が無かったのではと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・西保育園は図書館との貸し出し絵本の取り組みも参加したことがないので。
<ul style="list-style-type: none"> ・借りた本を破損紛失してしまうことが懸念される。
<ul style="list-style-type: none"> ・長久手市中央図書館で保育園との連携が可能なところを情報共有させていただき、イベント等があれば参加していきたい。これまでは図書館に出向くことがなかなかできていなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・たまに絵本を借りに伺うこともありますが、連携をとって何かを行うことはできていない。どんなことができるかも分からない。
<ul style="list-style-type: none"> ・そのような機会もないので
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、図書館に子どもたちと絵本を借りに行かせていただくことはしていませんが、以前は絵本を借りに行かせていただくこともありました。その際は、連絡をとらせていただいていたのですが、今現在はとらせていただけていないです。
<p>【参考】（「とれている」と回答した園から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で、長湫南保育園として大型絵本をお借りしている。
<p>【参考】（「とれている」「とれていない」をどちらも選択した園から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の園児や職員は利用していると思うが、保育園と図書館との直接的なやり取りはないため。
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が低いこともあると思いますが、絵本について等現在連携は取れていない。団体貸出登録をしており、絵本等を貸し出している。

【質問④】 子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園でも読み聞かせをしているが、保護者にも絵本の楽しさを知らせていき、家でも絵本を楽しめるようにする。 ・絵本を読む側が絵本のことを知り、楽しさや奥深さを知っていけると良いのではないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講等、私たち自身の絵本に対する知識向上。
<ul style="list-style-type: none"> ・読んであげる大人が、絵本が好きであること。 ・新刊の絵本や、昔ながらの絵本等、目に触れる場所を作ること。 ・デジタル化で本離れが進んでいるとよく言われるが、それがどのような影響があるのかを知る機会があること（教科書に書かれていることが理解できなければ、問題も解けないし、知識にも繋がらない。メディア・映像に頼った子育ての危機感をどれだけの大人・保護者が持っているか）。便利で簡単な世の中になりすぎて、「絵本が好き→本を読む習慣を持つ→文章の内容がわかる」を大人達が忘れてしまっていないか？という意識を持って保育を展開すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい読み聞かせ。 ・新刊絵本の紹介（実際にすぐ手に取って読める体制を整える）
<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの絵本を用意する。 ・日常に絵本の読み聞かせの時間をたくさん作る。 ・絵本を大切に扱う。
<ul style="list-style-type: none"> ・小さい年齢から読み聞かせの習慣がつくことで、絵本の世界に入りやすくなる。 ・絵本に触れる機会を意識的に作り、絵本が楽しいものと感じられること。 ・子どもの感じたことに共感し、集団の場では楽しい世界をひろげられること。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの本を気軽に手に取れること。
<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも絵本を手に取って読める環境づくり 子どもたちの興味・関心を引き出していけるよう季節や発達に合わせ整備する。
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな本が必要（質・量とも）
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの絵本に触れる機会を増やすこと
<ul style="list-style-type: none"> ・本に触れる機会を多くもつ事や読み聞かせ等園と保護者の双方で協力し、子供に接する事が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが手にとりたくなる絵本選び
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝の時間絵本の読み聞かせをする時間を大切にしています。（紙芝居も含む） 幼児期に集団生活をして絵本を楽しむこと又、お家の人読み聞かせをすることが、子どもが本を読むのが好きになる豊かになることにつながるのかなと思います。

【質問⑤】 第3次長久手市子ども読書活動推進計画に対する意見
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも色々な本を貸していただけるので、色々なジャンルの絵本があることが分かり、勉強になります。保育園に無い絵本が貸してもらえるので毎回楽しみにしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子をつれて行きやすい（図書館に）様にする。 保護者に向けての推進活動や移動絵本（図書館）など保育園で行ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせのコツなど先生達が学べるとよい ・年齢別おすすめの本（内容も簡単にわかるもの）があるなら見てみたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・第2次長久手市子ども読書活動推進計画としていろいろと活動されていることをあらためて知ることが出来ました。 親が子に対しての読み聞かせの必要性を知ることが出来たらより子どもたちが絵本を好きになり、図書館に行きたい！と思う気持ちにつながるのかなと思います。

【その他 中央図書館に伝えたいこと】
<ul style="list-style-type: none"> ・他園で行っている絵本の貸し出し(図書館の方が選んだ本を読み聞かせ、交流する)の園を広げて欲しい。 ・新型コロナ感染が落ち着いたら、例えば園開放の日に図書館の方が、園に来て、読み聞かせる時間を作り交流したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・大型絵本のリストがあるといい ・読み聞かせ会等出張していただくと楽しいのでは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも絵本や紙芝居を貸していただいています。 行事や季節感のある小さな子でも楽しめる様な紙芝居が増えると嬉しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が図書館や家庭の絵本に触れることを通して本を大切に扱うことも学んでくれたらよいと思う。(片づけ方など)
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が足を運ぶ場として、今後もより多くの様々なジャンルの本を取扱いをしていただき、心が豊かになる、そんな場所であり続けていただけたらと思います。自然幼稚園として園児と何うことが出来たら嬉しく思います。

(3) 小学校6校・中学校3校(アンケート)

【質問①】 読書活動を推進するためにどのような支援を行っていますか。
(小学校)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校連携司書によるブックトーク*₁、読み聞かせ、ストーリーテリング*₂ ・図書フェスタの開催 ・委員会活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトーク ・読み聞かせ ・紙芝居 ・ストーリーテリング (学校連携司書の方がやっています) ・必読書を読んでクイズに答えるチャレンジ読書
<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・読書ビンゴ*₃ ・朝読書*₄ ・読書の木 (本を読んだら葉っぱの紙をもらい、クラスの木の掲示物に貼って木を完成させる)
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症予防のため、現在はあまり活動ができていません。以前は、PTA 役員 (図書ボランティア) さんによる読み聞かせ、司書さんによる読み聞かせ (紙芝居など) を行っていました。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書さんを中心に、ブックトークや読み聞かせを行っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、ブックトーク ・放送で本の紹介
(中学校)
<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書 ・朝読強化週間として、教師の読み聞かせ、ボランティアによるストーリーテリングを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動 (10分間) ・司書と連携 (中央図書館) してストーリーテリングを実施
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題図書のブックトーク
【質問②】 読書週間事業を行っていますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・行っている (9校) ・行っていない (0校)
(「行っている」と回答した場合) 具体的な内容
(小学校)
<ul style="list-style-type: none"> ・2冊貸出、図書クイズ、図書ビンゴ、図書おみくじ、しおりコンテスト等その年によって企画を変えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・2冊貸出 ・分類番号ビンゴ*₅

<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ読書・読書貯金
<ul style="list-style-type: none"> ・6月、9月、2月に3週間程度図書館祭りというものを計画し、図書室で借りられる本の冊数を増やしたりおすすめの本を紹介したりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・本の2冊貸し出し（普段は1冊） ・読書郵便（友達に本をすすめよう） ・図書委員によるおすすめの本の紹介（掲示や図書館だよりなどで）
<ul style="list-style-type: none"> ・6月・・・あじさい読書週間、11月・・・秋の読書週間、1月・・・新春読書週間 期間中は2冊借りられて、10冊以上借りるとしおりをプレゼントする。 ※読む本のジャンルは問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・貸出数の変更 1→2
<p>(中学校)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書 ・朝読強化週間として、教師の読み聞かせ、ボランティアによるストーリーテリングを行っている。(①と同じ回答)
<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会として1年間に3回、読書週間を行っている。活動として、おすすめの本コーナーの設置や、POPの作成、その他企画を考えて読書促進活動を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館で貸し出す冊数を3冊から10冊に増やす活動を行っている。

【質問③】 学校図書館を有効に使うためにはどのようにするとよいですか。

<p>(小学校)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めのオリエンテーションを全学年に行うこと。職員や児童に呼びかけ、図書館利用に対する意識を高めること。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校連携司書の方を各校に1人ずつ常駐できるようにしてほしい。 ・司書の方の力量を上げていただき、学校間の差が少なくなるとありがたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の時間割を設定し、図書館司書が実践できる内容を各教員に紹介しながら図書館を利用する機会を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習で必要な資料や辞書などを司書さんにまとめていただく。
<ul style="list-style-type: none"> ・わりあて時間は積極的に図書館を使用する。学習で使用する本をすぐに探せる環境づくり。
<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な図書室と同様司書の方のレファレンスと分類で、本を借りやすいよう工夫している。
<p>(中学校)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書さんが常時いてくださると、学校図書館がもっと活発化すると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・読書をすすめる活動、生徒が魅力を感じる蔵書を整えるなど図書室の充実をはかること。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で図書館の蔵書についてのPOPを書く活動 ・学校連携司書による図書館オリエンテーションの実施 ・委員会活動におけるPOP作成と図書紹介

【質問④】 必読図書*₆・推薦図書をどのように選定していますか。具体的に教えてください。

(小学校)

- ・学校連携司書と相談して選定している。
- ・司書の方がやってくださり、助かっています（教師だけではバランス良く選べない、時間も思うようにとれないため）。
- ・必読書は今年度の子どもたちの読書傾向の様子を見て選定していく予定です。
- ・司書さんに相談し、選定していただいています。
分類ごとに決められた割合に近づくように調整している。
調べ学習で必要な本を優先に、なるべく新刊で良い本を選んでいく。
- ・教職員に希望を聞く
- ・学習で使用する本を優先し、学校司書と話し合いながら選定する。
- ・学校司書と学校連携司書を中心に、図書担当が学校職員に希望を聞きながら選定。

(中学校)

- ・学校司書さんにお任せしています。
- ・読書感想文の課題図書やYAの本を選ぶことが多い。その他に選ぶ図書は司書さんのおすすめの本を中心に選んでいる。
- ・学校連携司書と学校図書館担当者、司書教諭による選書リストの作成、確認、相談の上で選定を行っている。

【質問⑤】 読書環境作りとしてどのようなことをしていますか。

(小学校)

- ・季節にあった掲示物やテーマ展示を行っている。
- ・図書ボランティアさんが季節にあった飾り付けをしてくれている。
- ・図書委員や教科で学習した学年のおすすめ本の紹介のポップなどを掲示。
- ・低学年図書室を引っ越したので、机や椅子、棚なども新しくなり、少しずつ環境を整えているところです。調べ学習の本が不足しているので、そちらも増やしていこうと思っています。
- ・季節ごとにディスプレイする。(図書室)
- ・季節ごとにおすすめの本を見やすく並べたり、新刊の本を分かりやすいところに並べたりする。
- ・図書ボランティアさん(PTA)による図書館の装飾。(季節に合わせて)
- ・図書委員会のおすすめ図書掲示。
- ・朝読の時間の確保
- ・3年生次に図書館見学をして、図書館、図書室に足が向きやすい工夫。

(中学校)

- ・学級文庫の設置
- ・1年生にのみ図書館オリエンテーション
- ・朝読の時間の確保

<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫を設置していること。(1クラス40冊をクラスに貸出している) ・ストーリーテリングを依頼して実施していること。
<ul style="list-style-type: none"> ・本の背を揃える作業や前出し作業を行い、書架の本を取りやすくしていること。 ・学校連携司書が推薦する本のコーナーを常時設営すること。 ・本にPOPをつけ、目立たせるよう工夫すること。

【質問⑥】 今後5年間で新しく取り組むことができる活動はありますか。

(小学校)

<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットと図書を併用した調べ学習
<ul style="list-style-type: none"> ・必読図書を設定していなかったため、必読図書に取り組みせたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着いたら、児童同士の読み聞かせなどを行っていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション*₇やビブリオバトル*₈などにも挑戦できたらいいなと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の活用 ・特別支援学級の児童が手に取りやすい本の選定

(中学校)

<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も4月、5月で図書館オリエンテーションを行いたい。 ・学校図書館司書さんの来校を増やしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習用で用いる辞典を充実させること。 ・教科書で取り上げられている作家の関連図書を整えること。

【その他(自由意見)】

(小学校)

<ul style="list-style-type: none"> ・長久手は図書館の本を学級文庫に借りたり、調べ学習に必要な本を司書の方を通してすぐ借りることができるので、とてもありがたいです。ぜひ、ずっと学校連携で司書の方に来ていただきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館の司書さんが昨年度から3日来ていただくようになり、大変ありがたいのですが、午前中で他校に移動されてしまうことがあり、打合せの時間もあまりとれず、もっと来ていただきたいと思います。また、ブックトラックを購入したいのですが、金額も高く、予算内でやりくりができません。ブックトラックがあるだけで授業での図書の利用頻度が違います。
<ul style="list-style-type: none"> ・年度末には、多読賞*₉の発表をしています。 ・いつも司書さんには大変お世話になっております。ありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも学校司書さんに助けていただき、大変ありがたいです。今後ともよろしく願いします。

(中学校)

<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットが導入されてことで、電子図書へも関心が高まっているように感じる。特に調べ学習でタブレットを用いる際に、書籍のように信頼できる情報があると良いと思う。(電子の辞典等)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校連携司書の学校勤務日数を増やしてください。また、半日ではなく、1日学校にいる日も設定してほしいです。

(4) 高等学校1校(アンケート)

【質問①】 読書活動を推進するためにどのような支援を行っていますか。

- ・ 毎月の図書館便りの発行
- ・ 貸出をすると雑誌のふろくプレゼントなどの期間限定キャンペーン
毎月の映画ポスタープレゼント企画等

【質問②】 読書週間事業を行っていますか。

- ・ 行っていない

【質問③】 学校図書館を有効に使うためにはどのようにするとよいですか。

- ・ 授業利用や図書館でのキャンペーンを通して、図書館に来るきっかけ作りを行う。

【質問④】 必読書・推薦図書をどのように選定していますか。具体的に教えてください。

- ・ 好きな本を読んでもらいたいので必読書は特に設けていません。読書感想文課題がある時はおすすめ本のリストを作成しています。自分が読んで高校生に合いそうだなと思った本、短くても学びがある本、課題図書、話題本等を書店やネットで調べながらリストアップしています。

【質問⑤】 読書環境作りとしてどのようなことをしていますか。

- ・ 話題書、映像化作品などの人気本は表紙を向けて並べて見つけやすいようにコーナーを作るなど、手に取りやすくしています。館内は長机と個別ブースに分け、用途によって使い分けられるようにしています。

【質問⑥】 今後5年間で新しく取り組むことができる活動はありますか。

- ・ 古い情報の載った資料を廃棄し、新しい情報が得られるよう取組を進めています。コロナの影響でできていませんが、近隣の書店と協力し、書店に図書委員のPOPを設置していただくイベントも実施したいと考えています。

1. アンケート調査票

(1) 3・4・5 歳児保護者用

子どもの読書についてのアンケート（長久手市中央図書館）		3・4・5歳児用
<p>図書館では、子どもたちが本をたくさん読めるようにするための計画づくり（第3次長久手市子ども読書活動推進計画）を進めています。このアンケートはそのために役立てたいと考えています。アンケート結果は推進計画にのみ使用します。ご協力をお願いします。</p> <p>※この調査でいう「本」とは、学習参考書、マンガ（コミック）、雑誌を除きます。</p> <p>※お子さん1人につきアンケート1件を回答し、兄弟がいる場合は人数分回答をお願いします。</p>		
●以下の質問について、あてはまる番号ひとつを選んでください。		
質問1	お子さんはどこの保育園に通っていますか？	1. 上郷保育園 2. 色倉保育園 3. 長瀬東保育園 4. 長瀬西保育園 5. 長瀬北保育園 6. 長瀬南保育園
質問2	お子さんは何歳児のクラスですか？	1. 3歳児 2. 4歳児 3. 5歳児
質問3	あなた自身は本が好きですか？	1. 好き 2. どちらかという好き 3. あまり好きではない 4. 嫌い
質問4	あなたは、幼い頃に家庭で家族と一緒に本を読んだり、読み聞かせをしてもらった経験がありますか？	1. よく読んでもらった 2. ときどき読んでもらった 3. ほとんど読んでもらわなかった 4. 全く読んでもらわなかった
質問5-1	初めて家庭でお子さんに読み聞かせをした時期はいつですか？	1. ～6か月 2. 6か月～1歳 3. 1歳～1歳半 4. 1歳半～2歳 5. 2歳以上 →1～5を選んだ方 質問6へ 6. 読み聞かせをしたことはない →6を選んだ方 質問5-2へ
質問5-2	質問5-1で「6. 読み聞かせをしたことはない」と回答した方にお尋ねします。読み聞かせをしていない理由は何ですか？	1. 時間がない 2. 読み聞かせの仕方や本の選び方が分からない 3. 身近に本がない 4. 他のことをしている方が楽しい 5. 子どもが絵本に興味を持ってくれない 6. その他（ ）
質問6-1	お子さんは1か月にどれくらい本に触れますか？（自分で読む、家族に読み聞かせてもらうなど）	1. 1～3冊 2. 4～6冊 3. 7～9冊 4. 10冊以上 →1～4を選んだ方 質問7へ 5. 0冊 →5を選んだ方 質問6-2へ
質問6-2	質問6-1で「0冊」と回答した方にお尋ねします。お子さんが本に触れない理由は何ですか？	1. 本を読むことが好きではないと思う 2. 他のことに興味がある 3. 身近に本がない →2を選んだ方 質問6-3へ 4. 読み聞かせてくれる人がいない 5. その他（ ） →2以外を選んだ方 質問7へ
質問6-3	質問6-2で「他のことに興味がある」と回答した方にお尋ねします。お子さんは何に興味がありますか？（例：ゲームなど）	（関心のあること： ）
質問7	お子さんは、どのような本に興味がありますか？	1. 物語などのおはなしの絵本 2. 動物や乗り物などの絵本 3. 動物や乗り物などの写真の載っている図鑑 4. 紙芝居 5. その他（ ）
質問8	お子さんと一緒に中央図書館を、どの程度利用していますか？	1. 毎週 2. 月に2～3回 3. 月に1回 4. 数か月に1回 5. 利用しない
質問9	中央図書館のホームページのどの項目をよく見ますか？	1. 本の検索 2. お知らせのページ 3. 利用者のページ（貸出状況など） 4. テーマ別リスト 5. 見たことがない 6. その他（ ）
質問10	お子さんの本をどのようにして手に入れていますか？（複数回答可）	1. 買う 2. 保育園・幼稚園で借りる 3. 中央図書館で借りる 4. 児童館で借りる 5. 友人から借りる 6. もらう 7. ほとんど借りないし、買わない 8. その他（ ）
質問11	児童館の図書室をどの程度利用していますか？	1. 毎週 2. 月に2～3回 3. 月に1回 4. 数か月に1回 5. 利用しない・知らなかった
これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。		
お問い合わせ：長久手市中央図書館 TEL0561-63-8006		

(2) 小学2・4・6年生用

小学2・4・6年生用

子どもの読書についてのアンケート（長久手市中央図書館）

図書館では子どもたちが本をたくさん読めるようにするための計画づくりを進めています。このアンケートは、そのために役立てたいと考えています。質問を読み、考えて答えてください。アンケート結果は計画にのみ使用します。なお、このアンケートにある「本」とは、学校や図書館などにある本のことで、教科書、マンガ（コミック）、雑誌ではありません。

質問1 あなたはどの小学校に通っていますか。
(あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 長久手小 2. 西小 3. 東小 4. 北小 5. 南小 6. 市が瀧小

質問2 あなたは何年生ですか。
(あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 2年生 2. 4年生 3. 6年生

質問3 あなたは読書が好きですか。
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 好き 2. どちらかという好き 3. あまり好きではない 4. 嫌い

質問4 小学生になるまでに家で本を読んでもらったことがありますか。
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. よく読んでもらった 2. ときどき読んでもらった 3. ほとんど読んでもらわなかった
4. 全く読んでもらわなかった

質問5 あなたは、どんなきっかけで本を読むことが多いですか？あてはまるもの2つを選んでください。
「その他」を選んだ人は()の中にわかりやすく答えを書いてください。

1. 本屋で見かけた 2. 学校の図書館・学級文庫で見かけた
3. 中央図書館で見かけた 4. 児童館・青少年 児童センター・児童クラブで見かけた
5. 家にあった 6. テレビ・インターネットで見かけた
7. 家族が教えてくれた 8. 先生にすすめられた
9. 友だちにすすめられた 10. その他()

質問6 どこにある本をよく読みますか。一番あてはまるもの1つを選んでください。
「その他」を選んだ人は()の中にわかりやすく答えを書いてください。

1. 学校の図書館 2. 学級文庫
3. 中央図書館 4. 児童館・青少年 児童センター・児童クラブ
5. 自分の家の本 6. 友達の本
7. その他()

(アンケートは、裏側に続きます)

質問7

1日に家で本を読む時間はどれくらいですか。
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 30分くらい 2. 1時間くらい 3. 1時間から2時間
4. 2時間以上 5. ほとんどない

質問8

1日に家でゲームやテレビ、パソコン(スマホ、タブレット含む)を見る時間はどれくらいですか。(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 30分くらい 2. 1時間くらい 3. 1時間から2時間
4. 2時間以上 5. ほとんどない

質問9-1

あなたは、1か月にどれくらい本を読みますか。
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 1冊から2冊 2. 3冊から5冊 3. 6冊から10冊 4. 10冊以上
5. ほとんど・全く読まない

→1~4を選んだ人 質問10へ
→5を選んだ人 質問9-2へ

質問9-2

「ほとんど・全く読まない」と答えた人はどうしてですか。
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. ゲーム、インターネット、テレビの方がよい 2. 友達と遊びたい
3. 塾や習い事で忙しい 4. マンガ(コミック)や雑誌を読みたい
5. どんな本を読んだら良いかわからない 6. 読みたい本がない
7. 本に興味がない

質問10

あなたは、1か月のうち中央図書館へ何回行きますか?
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 1回 2. 2回から3回 3. 4回(毎週)
4. 5回以上 5. 0回

質問11

中央図書館で配布している「読書手帳」に本の題名などを書いていますか?
(一番あてはまるもの1つを選んでください。)

1. 書いている 2. 書いていない 3. 知らない

質問12

宿題の答えなど調べものをするために図書館や学校の図書室の本を借りたことはありますか。
(あてはまるもの1つを選んでください。)

1. ある 2. ない

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

(3) 中学2年生用

中学2年生用	
子どもの読書についてのアンケート（長久手市中央図書館）	
長久手市中央図書館	
<p>図書館では子どもたちが本をたくさん読めるようにするための計画づくりを進めています。このアンケートは、そのために役立てたいと考えています。質問を読み、考えて教えてください。アンケート結果は計画にのみ使用します。なお、このアンケートにある「本」とは、学校や図書館などにある本のことで、学習参考書、マンガ（コミック）、雑誌ではありません。</p>	
質問1	あなたはどこの中学校に通っていますか？ (あてはまるもの1つを選んでください。)
1. 長久手中 2. 南中 3. 北中	
質問2	あなたは読書が好きですか？ (あてはまるもの1つを選んでください。)
1. 好き 2. どちらかという好き 3. あまり好きではない 4. 嫌い	
質問3	小学生になるまでに家で本を読んでもらったことがありますか？ (一番あてはまるもの1つを選んでください。)
1. よく読んでもらった 2. ときどき読んでもらった 3. ほとんど読んでもらわなかった 4. 全く読んでもらわなかった	
質問4	あなたは、 どんなきっかけ で本を読むことが多いですか？あてはまるもの2つを選んでください。 「その他」を選んだ人は（ ）の中にわかりやすく答えを書いてください。
1. 本屋で見かけた 2. 学校の図書館・学級文庫で見かけた 3. 中央図書館で見かけた 4. 児童館・青少年児童センターで見かけた 5. 家にあった 6. テレビ・インターネットで見かけた 7. 家族が教えてくれた 8. 先生にすすめられた 9. 友だちにすすめられた 10. その他（ ）	
質問5	どこにある本をよく読みますか。一番あてはまるもの1つを選んでください。 「その他」を選んだ人は（ ）の中に分かりやすく答えを書いてください。
1. 学校の図書館 2. 学級文庫 3. 中央図書館 4. 児童館・青少年児童センター 5. 自分の家の本 6. 友達の本 7. その他（ ）	
質問6	1日に家で本を読む時間はどれくらいですか？ (一番あてはまるもの1つを選んでください。)
1. 30分くらい 2. 1時間くらい 3. 1時間から2時間 4. 2時間以上 5. ほとんどない	
(アンケートは、裏側に続きます)	

質問7

1日に家でゲームやテレビ、パソコン（スマホ・タブレット含む）を見る時間はどれくらいですか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）

1. 30分くらい 2. 1時間くらい 3. 1時間から2時間
4. 2時間以上 5. ほとんどない

質問8-1

あなたは1か月にどれくらい本を読みますか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）

1. 1冊から2冊 2. 3冊から5冊 3. 6冊から10冊 4. 10冊以上
5. ほとんど・全く読まない

→1～4を選んだ人 質問9へ

→5を選んだ人 質問8-2へ

質問8-2

「ほとんど・全く読まない」を答えた人はどうしてですか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）

1. テレビ、ゲーム、インターネットの方がよい
2. 友達と遊びたい
3. 塾や部活動などで忙しい 4. マンガ（コミック）や雑誌を読みたい
5. どんな本を読んだら良いかわからない 6. 読みたい本がない
7. 本に興味がない

質問9

あなたは、電子書籍を読んだことはありますか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）※マンガ（コミック）をのぞく

1. 読んだことがある 2. 読んだことはないが読んでみたい 3. 読んだこともないし興味もない

質問10

あなたは、1か月のうち中央図書館へ何回行きますか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）

1. 1回 2. 2回から3回 3. 4回（毎週）
4. 5回以上 5. 0回

質問11

中央図書館で配布している「読書手帳」に本の題名などを書いていますか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）

1. 書いている 2. 書いていない 3. 知らない

質問12

中央図書館にある「Y・A（ヤング・アダルト）コーナー」を知っていますか？また、そのコーナーの本を借りたことはありますか？（一番あてはまるもの1つを選んでください。）

1. 借りたことがある 2. 知っているが借りたことはない 3. 知らなかった

質問13

本を読むことで人にどのような影響があると思いますか？あてはまるもの全てを選んでください。「その他」を選んだ人は（ ）の中になるべくわかりやすく書いてください。

1. 知識が増える 2. 想像力が豊かになる 3. 感情が豊かになる
4. 読解力が上がる 5. その他（ ）

質問14

中央図書館のホームページのどの項目をよく見ますか？一番あてはまるもの1つを選んでください。「その他」を選んだ人は（ ）の中にわかりやすく答えを書いてください。

1. 本の検索 2. Y・A（ヤング・アダルト）のページ 3. お知らせのページ
4. 利用者のページ（貸出状況など） 5. 見たことがない 6. その他（ ）

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

2. 市民団体・関係機関 調査票

(1) ボランティア団体用 (アンケート)

ボランティア団体用

第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定にかかる アンケート

【基本事項】

記入者		記入日時	
ボランティア団体名			
代表者名及び連絡先			

【質問事項】

①設立年月	②構成員の状況
() 年 () 月	構成員 () 人 内 男性 () 人 女性 () 人 構成員の平均年齢 () 歳くらい
③主な活動場所	④活動内容 (取り組み、活動頻度)
1 長久手市の一部 () 2 長久手市の全域 3 長久手市および隣接市町村	
⑤現在行っている活動の問題点や課題はありますか。	
有 ・ 無 (有 を回答した場合) 具体的な内容	
⑥今後5年間で新たにできる活動はありますか。	
有 ・ 無 (有 を回答した場合) 具体的な内容	

⑦長久手市中央図書館と連携は取れていますか。

とれている ・ とれていない
(とれていない を回答した場合) 理由

⑧子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと

⑨第3次長久手市子ども読書活動計画に対するご意見

【その他 中央図書館に伝えたいこと】

(2) 児童発達支援センター用（ヒアリング）

長久手市児童発達支援センター用

第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定にかかる ヒアリング

【基本事項】

記入者		記入日時	
施設名			
連絡先			

【質問事項】

①現在貴館で行っている読書に関する活動の問題点や課題はありますか。

有 ・ 無
(有 を回答した場合) 具体的な内容

②今後5年間で新たにできる読書に関する活動はありますか。

有 ・ 無
(有 を回答した場合) 具体的な内容

③子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと

④第3次長久手市子ども読書活動推進計画に対するご意見

【その他 中央図書館に伝えたいこと】

3. 読書活動に関する活動調査 調査票

(1) 児童館・子育て支援センター・保育園用 (アンケート)

児童館・子育て支援センター・保育園用

第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定にかかる アンケート

【基本事項】

記入者		記入日時	
保育園名			
連絡先			

【質問事項】

①現在行っている読書に関する活動の問題点や課題はありますか。
有 ・ 無 (有 を回答した場合) 具体的な内容
②今後5年間で新たにできる読書に関する活動はありますか。
有 ・ 無 (有 を回答した場合) 具体的な内容
③長久手市中央図書館と連携は取れていますか。
とれている ・ とれていない (とれていない を回答した場合) 理由

④子どもの読書活動を豊かなものにするために必要なこと

⑤第3次長久手市子ども読書活動計画に対するご意見

【その他 中央図書館に伝えたいこと】

第3次長久手市子ども読書活動推進計画策定にかかるアンケート

図書館では、子どもたちが本をたくさん読めるようにするための計画づくり（第3次長久手市子ども読書活動推進計画）を進めています。このアンケートはそのために役立てたいと考えています。アンケート結果は推進計画にのみ使用します。ご協力をお願いします。

【基本事項】

記入者		記入日時	
代表者名及び連絡先			

【質問事項】

①読書活動を推進するためのどのような支援を行っていますか。（例：ブックトークや読み聞かせ等）	
②読書週間事業を行っていますか	行っている ・ 行っていない
	内容
③学校図書館を有効に使うためにはどのようにするとよいですか。	行っている ・ 行っていない
	内容

<p>④必読書・推薦図書をどのように選定していますか。具体的に教えてください。</p>	
<p>⑤読書環境作りとしてどのようなことをしていますか。</p>	
<p>⑥今後5年間で新しく取り組むことができる活動はありますか。</p>	
<p>その他ご意見ありましたらご記入ください。</p>	

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

用語解説	
* 1 ブックトーク	一定のテーマを決めて、複数冊の本の内容を工夫を凝らして紹介し、本の面白さや読書意欲を起こさせる活動。
* 2 ストーリーテリング	語り手（ストーリーテラー）が物語を覚えて語り聞かせること。
* 3 読書ビンゴ	長久手市独自に行っているゲーム。ビンゴのカードのマスに「こわいはなし」や「司書のおすすめ」等本のジャンル名が記載されており、そのジャンルから1冊選んで読むとそのマスに一文字書くことができる。一列完成すると単語ができあがる。
* 4 朝読書	児童生徒の読書活動の活性化を図るために、学校が読書に親しむための時間として設定しているもので、特に始業前の10分程度の時間を充てている学校が多い。
* 5 分類番号ビンゴ	長久手市独自に行っているゲーム。本の分類番号をビンゴの数字のようにしてビンゴを完成させる。
* 6 必読書・必読図書	司書が選んだ、児童生徒にぜひ読んでほしい本
* 7 アニマシオン	あらすじをクイズにして出題するなどいったさまざまなプログラムがあり、深く読む習慣、読解力、コミュニケーション能力を養うことを目指す。自分の考えで読み解き、伝えられる主体的な読み手を育てる試み。
* 8 ビブリオバトル	参加者同士で自分の気に入った本を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う書評ゲーム。発表参加者が1人5分間で1冊の本を紹介し、それを聞いた参加者（聴衆）とディスカッションを行う。全ての発表が終わった後、どの本が読みたくなったかを基準に、参加者全員で投票を行って勝者を決める。
* 9 多読賞	たくさん本を読んだ児童生徒に与える賞

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

第3次長久手市子ども読書活動推進計画

発 行 令和5(2023)年3月
編集・発行 長久手市教育委員会 教育部 中央図書館
〒480-1168 愛知県長久手市坊の後114
TEL 0561-63-8006
FAX 0561-63-8045
URL <https://library.city.nagakute.lg.jp>
